福井県埋蔵文化財調査報告　第158集

天王前山古墳群

―（県単）道路改良工事（地方特定）に伴う調査 ―

２０１５

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

福井県埋蔵文化財調査報告　第158集

天王前山古墳群

―（県単）道路改良工事（地方特定）に伴う調査 ―

２０１５

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

(1) 5号墳周溝出土須恵器

(3) SI4 出土勾玉

(4) SI7 出土土師器壺

(2) 古墳時代の須恵器、鉄器

(5) SK35 出土古瀬戸香炉

(6) SK35 出土漆器

(7) SK35 出土越前焼大甕

序　　文

天王前山古墳群は、越前町(旧朝日町)天王･宝泉寺集落の西側山林斜面に立地し、東方の南越盆地を見渡し、はるか雲海の兆しに白山連峰を望むことができます。

平成23年初夏、県道拡幅工事中に遺跡が発見されたとの連絡を受け、急遽、調査員が現地に向い、状況を確認しました。遺跡の一部はすでに削り取られていましたが、工事の事業地内の山林には墓に立てた石塔や河原石が散乱し、古墳状の高まりも認められました。

山林の南方、天王川右岸の尾根には史跡朝日山古墳群が存在していることや、採集した土器片の時代から、墓以外にも未発見の古墳や遺構が存在する可能性が高まり、関係機関と協議をした結果、まずは試掘調査を行い、遺構密度や範囲を把握した後、速やかに発掘調査を実施して記録保存を行うことになりました。

調査の結果、古墳時代中期の古墳を3基、後期の古墳を1基確認し、1･2号墳から出土した鉄器や、5号墳の周溝内祭祀に用いられた土器は、長らく具体像が不明だった南越盆地の古墳文化に新たな検討材料を加えることになりました。土坑墓に含まれていた特殊な須恵器からも、天王前山古墳群を築いた集団が朝鮮半島の文化と関わりあいをもっていたことがうかがえます。

古墳群以外にも、弥生時代後期の住居や、奈良･平安時代の竪穴住居と大量の須恵器などが発見されており、小さな調査区にこれほどの密度をもって遺跡が存在することは想定できませんでした。かつては天王川北岸に沿って、古墳や集落を築くに適した台地が広がっていたものと思われます。

発掘調査から報告書刊行までに、約4年間の歳月を必要としましたが、出土品は、新生越前町の歴史を語る上で、貴重な資料であることは言うまでもなく、丹生郡の古代史解明に新たな切り口を与えてくれるものと思います。今後、この調査の成果が広く公開、活用され、埋蔵文化財に対する理解をより一層深めていただくことになれば、幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様からあたたかいご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

平 成 27 年 3 月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所 長　畠 中 清 隆

例　　言

1　本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター(以下、県埋文に略)が、(県単)道路改良工事(地方特定)に伴い、平成23年度に実施した天王前山古墳群(福井県丹生郡越前町天王・宝泉寺所在)の発掘調査報告書である。

2　天王前山古墳群の調査は、福井県丹南土木事務所の依頼を受けて県埋文が実施した。発掘調査期間、遺物整理期間の担当者は下記のとおりである。出土遺物の整理作業は県埋文にて実施した。

発掘調査　平成 23 年 8 月 1 日～平成 23 年 8 月31日　木村孝一郎　岩田　隆
平成 23 年 9 月 1 日～平成 23 年11月30日　鈴木篤英　木村茉莉、中村嘉之　土谷崇夫

遺物整理　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月31日　県埋文整理・普及第 2 グループ
平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月20日　県埋文整理・普及グループ

3　本書の作成・編集は鈴木が行い、冨山正明、山本孝一、中原義史、木村茉莉、北川遼、杉田曜の協力を得た。

4　天王前山古墳群に関する成果の発表のうち、本書と齟齬のある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。

5　第 4 章については分担して作成した。縄文土器については、山本が原稿、第40図、第 2 表の一部作成を担当した。石器・石製品については、冨山が原稿、第5表の作成を担当した。漆器・人骨については杉田が分析結果をまとめて原稿作成を担当した。写真図版については第1～12を鈴木、第13～20を杉田が作成を担当した。上記以外の原稿、遺構・遺物の写真撮影、実測、挿図、表の作成は鈴木が担当し、北川、杉田の補佐を得た。

整理に伴う外部委託作業については下記の機関に依頼した。

平成 25 年度　鉄器・漆器の保存処理、植物遺体の鑑定、ベンガラの分析…株式会社吉田生物研究所

平成 26 年度　第4～8・10～17・19・21・24・31～38図のデジタルトレース作業…株式会社イビソク

平成 26 年度　出土人骨鑑定…パリノ・サーヴェイ株式会社

6　本書に掲載した遺構全体測量図の作成は、丹南土木事務所からジビル調査設計株式会社に委託して行った。

7　遺物番号は図版、挿図、表で符号する。写真の縮尺は不同である。本書における水糸レベルの表示は海抜高(m)を示し、方位は座標北を用いた。X・Y 座標値は、国土方眼座標系第Ⅵ系に基づく。

8　遺構については、調査着手時の属性と性格を異にするものがあるが、整理保管上の煩雑さを避けるべく、調査中に用いた略号に複数の意味を与えて、そのまま使用することにした。

よって、竪穴住居、堂跡、土器集中区には SI、掘立柱建物には SB、土坑墓、土坑には SK、遺物を含む柱穴や小穴には P、溝には SD、集石墓の中で石塔が散乱する地点には、下層の遺構の存在を想定して SS の略記号を用いた。また、包含層や古墳の周溝中等から単体もしくは一定量のまとまりをもって遺物が出土した地点には、X の略記号を用いた。遺構の土層色調については『新版標準土色帖(2001年度版)』に準拠した。

9　本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真などは、全て一括して県埋文で保管している。

10　発掘調査ならびに本書の作成にあたり、下記の機関、方々から指導・協力を得た。

網谷克彦　岩田　隆　入江文敏　越前町教育委員会　久保智康　鯖江市まなべの館　丹南土木事務所
田中祐二　月輪　泰　天王区長　中島啓太　仁科　章　畠中清隆　深川義之　堀口悟史　堀　大介
前田清彦　御嶽貞義　村上雅紀　(以上敬称略五十音順)

11　発掘調査に際しては、地元の方々の参加、協力を得た。また、遺物整理作業は、県埋文整理作業員が実施した。

目　　次

第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査の経緯 …… 1
　第２節　調査の概要 …… 2
第２章　地理的･歴史的環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　遺　構 …… 9
　第１節　遺構の概要 …… 9
　第２節　古　墳 …… 11
　第３節　竪穴住居･堂跡･土器集中区 …… 18
　第４節　掘立柱建物 …… 19
　第５節　土坑･土坑墓･小穴 …… 19
　第６節　集石墓 …… 20
第４章　遺　物 …… 39
　第１節　土　器 …… 39
　第２節　鉄器･鉄滓･銭貨･耳環 …… 68
　第３節　石器･石製品･その他の遺物 …… 73
　第４節　石　塔 …… 75
　第５節　漆　器 …… 78
　第６節　人　骨 …… 78
第５章　まとめ …… 79
　第１節　遺構について …… 79
　第２節　遺物について …… 81
　第３節　南越盆地の中期古墳 …… 83

写真図版目次

図版第１　遺　構　古墳
（1）１号墳墳丘(南西から)
（2）１号墳埋葬施設副葬品出土状況(南東から)
図版第２　遺　構　古墳
（1）１号墳埋葬施設副葬品出土状況(南西から)
（2）１号墳埋葬施設(南西から)
（3）１号墳埋葬施設出土鉄刀１(南東から)
（4）１号墳埋葬施設出土鉄器類(北西から)
（5）１号墳埋葬施設出土鉄鉾２(北から)
図版第３　遺　構　古墳
（1）２号墳周溝(北から)
（2）２号墳周溝出土鉄斧17(東から)
図版第４　遺　構　古墳
（1）３号墳墳丘(南から)
（2）３号墳墳丘(北から)
（3）３号墳墳丘(南東から)
（4）３号墳埋葬施設石室奥壁(南から)
（5）３号墳墳丘上出土 X002(土師器壺331)(北西から)
図版第５　遺　構　古墳
（1）４号墳周溝(西から)
（2）５号墳周溝(南西から)
（3）５号墳周溝内出土 X007(須恵器315･316)(東から)
（4）５号墳周溝内出土 X008(須恵器322～325)(西から)
図版第６　遺　構　竪穴住居　土坑
（1）SI1(南から)
（2）SK8(南から)
図版第７　遺　構　堂跡　土坑
（1）SI2(南東から)
（2）SK20･21(南から)
図版第８　遺　構　竪穴住居
（1）SI4(南西から)
（2）SI4(北から)
（3）P50上面出土鉄斧18(東から)
（4）SI5床面焼土断面(南から)

図版第9　遺　構　竪穴住居　土坑墓　土坑
（1）S15（東から）（3）SK2（南から）
（2）S11（南から）（4）SK6（北から）
図版第10　遺　構　土坑墓　土坑
（1）SK4（南西から）（4）SK34（東から）
（2）SK25（南西から）（5）SK36（東から）
（3）SK26（東から）（6）P110（南から）
図版第11　遺　構　土坑墓　土坑
（1）SK35（東から）（4）SK27（西から）
（2）SK35（西から）（5）SK30（西から）
（3）SK35完掘（東から）
図版第12　遺　構　集石墓
（1）集石墓1（南から）（4）SS2（東から）
（2）集石墓除去後（南から）（5）SS2（南から）
（3）SS1（東から）（6）SS3（東から）
図版第13　遺　物　包含層出土土器
図版第14　遺　物　包含層出土土器
図版第15　遺　物　包含層出土土器　遺構出土土器
（1）包含層出土土器
（2）1・3・4号墳出土土器
（3）5号墳出土土器
図版第16　遺　物　遺構出土土器
（1）5号墳出土土器（4）SI6出土土器
（2）SI7　出土土器（5）SI6出土土器
（3）SI1（SK8）出土土器
図版第17　遺　物　遺構出土土器
（1）SI6　出土土器（4）SK20出土土器
（2）SI8　出土土器（5）SK35出土土器
（3）SK6　出土土器
図版第18　遺　物　遺構出土土器　墨書土器　縄文土器
（1）SK34出土土器（5）P110、SD6出土土器
（2）SK25出土土器（6）SS3出土土器
（3）SK36出土土器（7）墨書土器
（4）P59出土土器（8）縄文土器
図版第19　遺　物　鉄器
図版第20　遺　物　鉄器　鉄滓　銭貨　耳環　石器　石製品
（1）1～3号墳出土鉄器、耳環
（2）鉄滓、銭貨
（3）勾玉
（4）石器、石製品、その他の遺物
図版第21　遺　物　石塔
図版第22　遺　物　石塔　漆器　人骨　種子
（1）石塔
（2）漆器：SK35出土漆器文様部(a)、高台部(b)
（3）漆器：SK35出土漆器文様部断面(a)、高台部断面(b)
（4）人骨：越前焼壺284、SK26・35出土人骨
（5）SK35出土種子

挿図目次

第1図　調査区域図 …… 1
第2図　発掘調査風景 …… 3
第3図　発掘調査風景 …… 4
第4図　嶺北地方の地形図 …… 5
第5図　周辺の遺跡分布図 …… 7
第6図　調査前現況地形図 …… 10
第7図　調査区全体図 …… 折込
第8図　1号墳墳丘 …… 12
第9図　1号墳埋葬施設 …… 13
第10図　2号墳墳丘 …… 14
第11図　3・4号墳墳丘 …… 折込
第12図　3号墳埋葬施設 …… 15
第13図　4号墳墳丘、5号墳周溝 …… 17
第14図　SI1・5、SI2 …… 21
第15図　SI3・4 …… 22
第16図　SI8、SB1～3 …… 23
第17図　SK1～5 …… 24
第18図　SK6・8 …… 25
第19図　SK9～12・14～16・19 …… 26
第20図　SK20～22 …… 27
第21図　SK25・26・27・30・37 …… 28
第22図　SK34・36、P110、X002、SD1 …… 29
第23図　SK35 …… 30
第24図　集石墓 …… 31
第25図　SS1～3 …… 32
第26図　包含層出土土器 …… 41
第27図　包含層出土土器 …… 42
第28図　包含層出土土器 …… 43
第29図　包含層出土土器 …… 44
第30図　包含層出土土器 …… 45
第31図　包含層出土土器 …… 46
第32図　包含層出土土器 …… 47
第33図　1・3～5号墳、SI1・7出土土器 …… 50
第34図　SI2・4・6出土土器 …… 51
第35図　SI6・8、SB1・3出土土器 …… 52
第36図　SI6出土土器 …… 53
第37図　SK1・3・6・20・35出土土器 …… 54
第38図　SK20～22・25・34・36、P11・58・59・65・107・108・110・116・124・152・168・171、SD1・6・13、SS3出土土器 …… 55
第39図　墨書土器・土錘 …… 56
第40図　縄文土器 …… 58
第41図　鉄器・鉄滓・銭貨 …… 70
第42図　鉄器・耳環 …… 71
第43図　石器・石製品・その他の遺物 …… 74
第44図　石塔 …… 76
第45図　石塔 …… 77
第46図　福井県内の角付盤 …… 82

表目次

第1表　遺構一覧表 …… 33
第2表　土器観察表 …… 58
第3表　土錘観察表 …… 67
第4表　鉄器・鉄滓・銭貨・耳環観察表 …… 72
第5表　石器・石製品観察表 …… 73
第6表　石塔観察表 …… 75

第１章　調査の経緯

第１節　調査の経緯

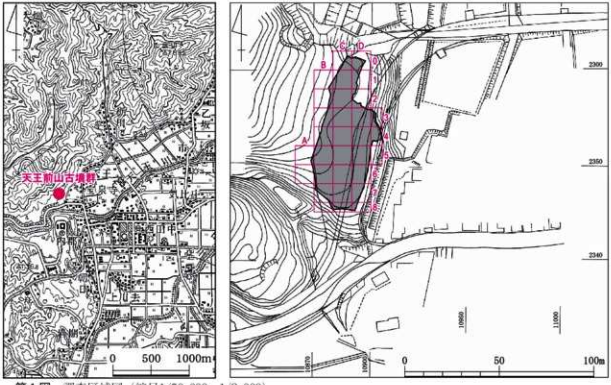
1. 調査の経緯

平成17年(2005)2月1日の市町村合併によって、旧来の越前町に、旧朝日町、旧織田町、旧宮崎村が合併し、福井県嶺北地方の南西部に新たな「越前町」が誕生した。天王前山古墳群は、越前町天王・宝泉寺(旧朝日町天王・宝泉寺)に所在し、「(県単)道路改良工事(地方特定)」事業に伴い、工事で影響を受ける範囲を対象に発掘調査による記録保存を行った。

事業は、古墳群が立地する山林中腹を削って、新しく県道184号線を敷設するものであり(第1図)、周辺には八坂神社遺跡や天王宝泉寺遺跡などが周知の遺跡として存在しているが、事業着手時の段階では、この区域は周知の遺跡となっていなかった経緯がある。

平成23年(2011)6月に、越前町教育委員会から事業地において古墳や遺物が発見されていると、県教育庁埋蔵文化財調査センター(県埋文に略)に連絡が入り、現地に赴き、確認踏査を行った。事業地は雑木が伐採されて、地形が見通せる状況となっていたため、目視の状態で北側に墓域と考えられる集石、南側に人工的に構築した平坦部を確認し、遺物も採取した。県埋文は、遺跡を「天王前山古墳群」として周知の遺跡とする手続きに入り、すみやかに関係機関と協議を行い、まず、試掘調査を実施して、遺構の内容、密度を把握することとなった。丹南土木事務所は、県埋文に試掘調査を依頼(平成23年6月6日付け丹土第20393号)し、県埋文は平成23年6月13～16日、同年7月4日に試掘調査を実施し、結果を回答(平成23年6月23日付け埋文第3-15号、平成23年7月6日付け埋文第3-15号)した。

試掘の結果、中・近世の墓や未知の古墳の存在が想定され、多くの遺物を検出したため、事業地の大部分について本格的な発掘調査を実施することになった。



第１図　調査区域図（縮尺1/50,000　1/2,000）

2. 調査の方法

調査期間は、平成23年8月1日から同年11月31日まで、延べ4ヶ月を要した。調査区は南北約85m、東西約30mの広さを有し、面積は2,360㎡（上層1,800㎡＋下層560㎡）である。

調査区には、遺構実測や遺物出土地点の基準とする、一辺10mの方形グリッドを設定し、西から東方向にA～E、北から南方向に0～8の番号を付した（第1図）。調査を進めるにあたって、10月中旬までに5グリッド以南の調査区を引き渡す必要があり、南側から北側に向かって遺構検出、記録作業を進めることとなった。

遺構の識別については、例言に記載した通りであり、調査当初は、検出時に方形を呈す中型以上の遺構については、竪穴住居を想定してSIとしたが、後の検討の結果、堂跡や土器集中区といった性格が異なる遺構も含むことになった。掘立柱建物にはSBを付し、柱列の柱穴には遺物の含有を問わず柱穴番号を付した。柱穴の内、遺物を含むものには柱穴番号にPを併記している。土坑・土坑墓、小穴には、規模や深度に関わらず、遺物を含んでいるものを対象にSK、Pを付した。記録方法については、1/50縮尺の全体図を作成し、1/10～1/20縮尺の遺構実測図を作成した。現況測量図と完掘状況の遺構全体図の作成は外部委託して作成した。写真撮影は、4×5版のモノクロ・スライドフィルムを用い、補助写真として、35ミリ版のモノクロ・スライドフィルム、ネガカラーフィルム、デジタルカメラを用いた。

第2節　調査の概要

1. 調査の概要

天王前山古墳群は、天王川左岸の標高31～36m、比高14mを測る山林中腹斜面に立地し、南越盆地を東側に眺望する。天王前山古墳群から300m北方に隔てた尾根筋には天王古墳群が立地する。両古墳群を結ぶ尾根筋にも古墳が存在しており、天王・宝泉寺集落西側に集中する古墳群を一括して、「天王宝泉寺古墳群」として捉えれば、天王川右岸の朝日山古墳群と双璧をなす古墳群が展開していることになる。

今回の調査では、古墳5基（1～5号墳）、竪穴住居6棟（SI1・4・5・7・8・9）、堂跡2棟（SI2・3）、土器集中区（SI6）、掘立柱建物3棟（SB1～3）、土坑・土坑墓37基（SK1～37）、遺物を含む小穴175基、溝13条を検出し、この地が古墳時代だけでなく、古くは縄文時代中期から人の営みが始まり、弥生時代後期から古墳時代初頭、8世紀後半から9世紀前葉の奈良・平安時代の時期に集落が営まれたことが明らかになった。

古墳群は、弥生時代後期末から古墳時代初頭に構築された4号墳を除くと、5世紀中葉から6世紀中葉にかけて5号墳、1号墳、2号墳、3号墳の順で構築されたことが明らかになった。5号墳は幅2.5m以上の周溝を一部確認しただけであるが、周溝内から5世紀末頃、TK23～47期の須恵器の杯、杯蓋を多く検出し、ベンガラを充填していた杯もあった。構築時期については5世紀中葉の高杯片を重視した。

1号墳は長軸12.5mの円墳であり、埋葬施設は舟形木棺と推定でき、棺内には鉄鉾を含む鉄器が副葬されていた。時期は5世紀中葉から後葉と考える。2号墳は、長軸11.3mの円墳と推定でき、周溝や墳丘が存在していた地点の包含層から鉄刀、鉄斧を検出した。3号墳は、径15.5m以上の円墳と推定され、埋葬施設は横穴式石室である。石室の規模は、全長6.5～7.0m（玄室長4.5～5.0m、玄室幅2.1～2.5m、羨道長2.0～2.5m）推定された。遺物は周溝と石室内からTK10期の須恵器杯を検出した。

その後、この地は、8世紀後半から9世紀前半は集落、13～16世紀に至っては墓域として利用するなど、小さな山林斜面に想定以上の遺構・遺物が凝縮していることが明らかになった。今回の調査によって、旧地形を復元すると、集落が展開できるほど、山塊が緩傾斜して東方へ張り出していたと考えられ、3・5号墳の存在は、村落拡張などによって多くの古墳が消失してしまったことを語っているようである。

2. 調査日誌

平成23年度

8月8日	調査開始。現場へ至る進路の整備。草刈作業、階段や器材の設置を行う。
8月13日	8月16日まで盆休。
8月17日	C6･7グリッドで1号墳周溝を検出。
8月18日	SK1･2を確認。
8月22日	現況測量準備。試掘時の排土除去
8月24日	SK6を確認。
8月30日	現況測量開始。1号墳埋葬施設を確認。
9月1日	調査員木村(孝)･岩田から鈴木･木村(業)に交代。増員した作業員に説明会
9月6日	B～D6～8グリッドの遺構半裁。SK1～4精査。遺構1/50図作成開始。B～D3～5グリッド遺構面精査。
9月9日	1号墳埋葬施設精査開始。2号墳周溝から鉄斧、C5グリッド包含層から2号墳の副葬品らしき鉄刀を検出。センター職員見学。猛暑日が続く。
9月14日	丹生土木と現地打合。10月中旬に5グリッド以南の調査区を引き渡すことで合意。
9月16日	B～D6～8遺構全体測量。開始。1号墳埋葬施設副葬品検出。SI1、SK2･6･8撮影。
9月27日	1号墳埋葬副葬品精査。
10月4日	5グリッドまで遺構全体測量完了。C3･D3包含層から須恵器を多く検出。SI4精査。
10月6日	SI2内SK20～22精査。土師器皿検出。SI5から縄文土器を検出。
10月12日	SI2内SK20～22遺物採り上げ。SI4精査。D5～7グリッド遺構1/50図作成。
10月18日	C3包含層掘削。SK25･26精査。
10月20日	SK25撮影。SK27･30精査。
10月26日	C2グリッド集石墓検出。P110精査。
10月27日	現地説明会開催。
11月2日	SI6は3号墳周溝内の土器集中区と判明。SI7の大部分は3号墳石室と判明。SS1～3精査。調査区南端土取り工事で消滅。SK27･30精査。
11月8日	SK35大甕検出。3号墳石室精査。
11月9日	集石墓全体測量後、除去開始。4号墳周溝精査。
11月14日	3号墳周溝からX002～004検出。SI8検出。E3･4グリッド掘削拡張。
11月22日	SK36、SB2･3、4号墳周溝精査。
11月28日	SK35完掘。遺構全体撮影。器材清掃。
11月29日	SK34完掘。3号墳撮影。5号墳周溝精査。X007･008検出。
11月31日	器材撤収。調査終了。

第2図　発掘調査風景

第３図　発掘調査風景

第２章　地理的･歴史的環境

第１節　地理的環境（第4図）

福井県は古代の越前國と若狭國からなり、現在の行政区分では敦賀以北を越前國、三方郡以南が若狭國に相当する。ただ、地形的には敦賀市木の芽峠以北を嶺北地方、以南を嶺南地方と呼ぶのが通例となっている。嶺北地方は、西部が日本海に向かって開けた広大な沖積平野となり、東部が越前中央山地や両白山地の山塊が連なる地形となっている。東方からは九頭竜川、足羽川、南方からは日野川の三河川が流れ込み、九頭竜川上流域には大野･勝山盆地、下流域には坂井平野が形成され、足羽川流域には福井平野、日野川流域には武生･鯖江盆地が形成されている。

天王前山古墳群が所在する越前町は、嶺北地方の南西、丹生郡に位置し、平成17年の合併後、東西17.8㎞、南北17.2㎞、面積152.96㎢を有する町となった。日本海に面した西方の沿岸部から北部にかけては、丹生山地の山塊で占められ、東部の武生･鯖江盆地を除けば、町の大部分は中央部の織田盆地や宮崎盆地などの山間の小規模盆地と小河川で形成されている。

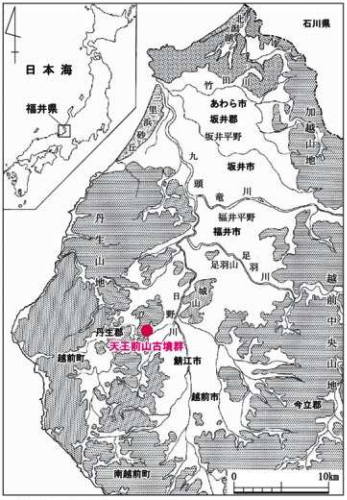
丹生山地は、新しい第三紀の低山に分類され、糸生累層が大半を占める。山地は北方の福井市側において高度を増していき、国見山（標高656m）を頂点として、500m級の山地が連なる様相を呈している。町内の丹生山地は比較的低山であり、越知山（標高613m）、金比羅山（標高347m）、乙坂山（標高290m）以外は標高100m級の山塊で占められる。

町の山間部を縫って東部へ流れる天王川は、長さ26㎞、流域面積96.8㎢の河川である。金谷の南西から流れてきた天王川は、天王･宝泉寺地区でようやく山間を抜け、乙坂山に沿って北西に流れ、南方の蝉口盆地から北流する和田川と合流して日野川と合流する。

天王川中流域には多くの河岸段丘が発達し、支流の越知川が流れる糸生谷や、旧宮崎村江波に至る常磐谷付近では、蛇行する川の両岸に2～3段の段丘が発達し、耕地として利用され、その上に遺跡も点在する。

天王川は、下流の集落にとっては重要な用水源とされ、明治以前は三国や福井と丹生郡を結ぶ物資流通の経路でもあった。

今回調査した天王前山古墳群は、天王川が南越盆地に流れ出す、水源の要衝を押さえる場所に立地しており、古墳群は、眼下の南越盆地の穀倉地帯を見渡すだけにとどまらず、越前中央山地の遥か彼方に霊山、白山連峰を眺望する位置に築かれている。



第４図　嶺北地方の地形図（縮尺1/40,000）

第２節　歴史的環境（第5図）

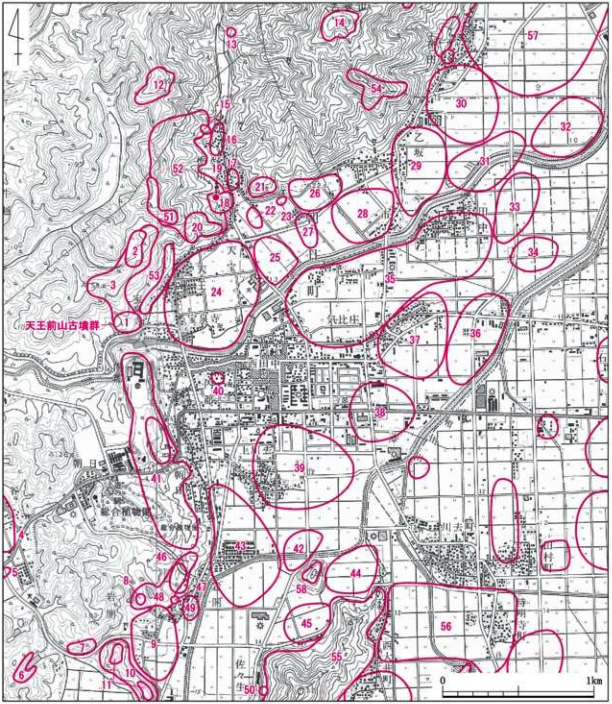
天王前山古墳群の周辺の遺跡は、第5図に示すように、平野部に面した山裾に集中し、天王川の両岸と和田川の左岸の水田においても広範囲な面積をもって散布地が分布している。越前町内の古墳は、武生・鯖江盆地に面したほぼ全ての山塊、丘陵上に展開しており、県内屈指の密度を誇っている。朝日山古墳群などは早くから県指定史跡となったが、一方で、未調査のまま消滅してしまった古墳も非常に多く、また発掘調査をしても、その成果が公表されているものが少ないのが現状であった。

近年、旧朝日町教育委員会(以下、旧朝教委に略)が町史編纂事業などに伴い、精力的に古墳の悉皆調査を進め、一定の知見や修正が加えられたこともあり、試掘調査や確認踏査の成果も踏まえ、天王前山古墳群の調査成果と関連する主要古墳群や遺跡について述べる。

栃川遺跡（第5図18）（文1･20･22）　昭和46年(1971)に工場建設に伴い、旧朝教委が調査団を編成し同年5月14日～25日まで調査した。遺跡は天王川に向けて開いた栃川集落の字岡の尾根に立地する。尾根上では遺構は検出されず、谷斜面に堆積した包含層も後世の撹乱を受けたものであったが、縄文時代中期から後期初頭の土器と古墳時代の須恵器、鉄製品を検出している。縄文土器は、中期中葉の古府式が多くを占め、その他、咲畑式、大杉谷式、里木Ⅱ式、中津式が確認され、北陸地方の古府式土器との併行関係が注意される。石器では石鏃、異形石鏃、打製石斧、磨製石斧、石匙、磨石、石錘、石皿などがある。古墳時代の鉄製品としては、鉄剣、鉄鏃、鉄鎌などが埋葬施設底面で検出され、栃川岡古墳としたが、墳丘などは削られ確認できなかった。

岩開南田遺跡（第5図9）（文1･22）　昭和49年(1974)の圃場整備によって、法栄山大隆寺参道入口の南側の水田で発見され、住職久保日参氏により大量の遺物が採集保管された。福井県史や朝日町史(文1)では「法栄山遺跡」と呼称しているが、県埋文で分布調査を実施したところ、遺跡の範囲が、岩開集落のさらに南側に展開することが判明し、字名から「岩開南田遺跡」としている。遺跡の旧地形は、集落東南側の和田川に向かって緩傾斜地が延びていたとされる。遺物は、縄文時代中期中葉から後葉の土器が多くを占め、北陸の古府式を軸に、咲畑式、船元式、里木式の影響を受けたものが見られる。後葉の土器としては大杉谷式があり、出土土器の大半を占めている。石器では、大小の磨製石斧、凹石、石錘が出土している。

栃川古墳群（第5図52）（文1･22）　水上古墳群(15)、栃川岡古墳(19)、朝日杉谷古墳群(20)、番城谷山古墳群(51)からなる。栃川集落西側の山塊尾根に立地する。平成12年度から旧朝教委により進められた文化財悉皆調査により、新発見の古墳や消滅した古墳が確認され、古墳群を保護するため栃川古墳群として総称した(文1)。水上古墳群(15)は円墳2基で成り、石室の石材は抜き取られている。朝日杉谷古墳群は栃川円福寺背後の三つの尾根に立地し、南の尾根には長方形の墳丘3基、不明瞭なもの7基、中央の尾根には墳丘5基や中世墓らしき石列を伴う平坦面が確認されている。番城谷山古墳群は、平成6年(1994)旧朝日町によって一部が確認され、標高120m付近で不明瞭なものを含めて墳丘3基、標高136m付近で長径26m以上の墳丘1基、標高160m付近で墳丘5基を確認している。そのうち、番城谷山5号墳は、平成22年度から墳丘形態・規模、時期を把握するための範囲確認調査が継続して行われている。5号墳は、全長約55mの帆立貝形古墳か、径38mの円墳であり、葺石、円筒埴輪を巡らし、後円部頂に木棺の埋葬施設が2基あることが明らかになった(文23)。墳丘裾からは陶質土器の甕、須恵器の杯蓋3、杯4、無蓋高杯9、鼓2、把手付き鉢1、器台1が検出され、5世紀前葉から中葉の時期が想定されている(文23)。



No	県番号	遺　跡　名
1	18105	天王前山古墳群
2	18029	天王古墳群
3	―	天王宝泉寺古墳群
4	18034	金谷村内遺跡
5	18036	狐塚遺跡
6	18044	佐々生黒跡群
7	18045	鳥越古墳群
8	18046	丸山古墳
9	18047	岩開須田遺跡
10	18048	八王子山古墳群
11	18049	岩間佐々生城跡
12	18057	尉ヶ峰山城跡
13	18058	栃川御所垣内遺跡
14	18059	芝築地山城跡
15	18061	水上古墳群
16	18062	栃川水上遺跡
17	18063	栃川雷代遺跡
18	18064	栃川遺跡
19	18065	栃川岡古墳
20	18066	朝日杉谷古墳群
21	18067	茶臼山城跡
22	18068	栃川赤丸遺跡
23	18069	栃川京善寺遺跡
24	18070	天宝宝泉寺遺跡
25	18071	栃川鮎ヒ出遺跡
26	18072	乙坂神玉遺跡
27	18073	栃川川田遺跡
28	18074	江部遺跡
29	18075	乙坂岩崎遺跡
30	18076	在田乙坂遺跡
31	18077	田中遺跡
32	18078	乙坂今江遺跡
33	18079	田中与利遺跡
34	18080	田中長田遺跡
35	18081	田中気比庄遺跡
36	18082	気比庄日桃遺跡
37	18083	気比庄遺跡
38	18084	気比庄西田中遺跡
39	18085	西田中上川去遺跡
40	18086	都栄窪古墳
41	18087	朝日山古墳群
42	18088	上川去遺跡
43	18089	上川去岩関遺跡
44	18090	佐々生上川去遺跡
45	18091	佐々生漆木遺跡
46	18092	八幡山古墳群
47	18093	岩開光明寺古墳
48	―	岩開古墳群
49	18094	岩開腰前遺跡
50	18095	佐々生広張ヶ遺跡
51	18103	番城谷山古墳群
52	―	栃川古墳群
53	18104	八坂神社遺跡
54	18060	乙坂山東城跡
55	02029	西大井古墳群
56	02021	持明寺遺跡
57	17117	甑谷在田遺跡
58	―	二石山古墳群

第５図　周辺の遺跡分布図（縮尺　1/25,000）

天王宝泉寺古墳群（第5図3）（文1・22）　天王前山古墳群(1)と天王古墳群(2)からなる。天王・宝泉寺地区の西側の山塊尾根に立地する。旧朝教委による悉皆調査により、八坂神社西の天王坂から北側に11基、南側に3基、天王前山古墳群として2基の墳丘を確認している。尾根最高所に造り出しをもつ円墳、14号墳が立地する。規模は墳丘径約19m、造り出しの長さ約10m、最大幅10mを測る。外部施設や遺物は確認できないが、6世紀前半代と推定されている。

朝日山古墳群（第5図41）（文1・22）　内郡集落の西側の山塊尾根に立地する。北の朝日山支群は墳丘約45基でなる。朝日山古墳(1号墳)は、全長54mの前方後円墳であり、墳形から中期初頭と考えられている。2号墳は1号墳周溝を切って構築した円墳であり、径26mの円墳で2段築成である。3号墳は2号墳の北東に位置し、径20m前後の規模の円墳である。1～3号墳においては葺石・埴輪が確認されていない。中上山支群は朝日山古墳の100m南に位置する二つの尾根に約30基以上の古墳が存在していたが、大半が団地造成により消滅した。平成12年(2000)に旧朝教委によって中上山1・2号墓を調査し、1号墓では全長2.2m、幅0.4mの埋葬施設を検出したが、両者とも遺物が確認できず、時期は不明である。ただし、丹生高校郷土史研究部によって「中条4号墳」が調査された経緯があり、墳丘の形状・規模は不明ながら、埋葬施設から内行花文鏡、管玉、朱、周溝から石杵、石臼が検出されている。朝日古墳は全長32mの前方後方墳であったが未調査のまま消滅した。観世音山支群は、現在の古墳公園に相当し、方形を基調とした約50基の墳丘が存在している。支群中の経ヶ塚古墳は全長約74mの前方後円墳であり、南越盆地では最大級を測る。葺石、埴輪は確認できないが前期古墳と考えられる。二口・郡山支群は現在の丹生高校の敷地に約30基の古墳があったとされる。昭和32・33年(1957・1958)の敷地整備に伴い丹生高校郷土史研究部が調査を行った経緯があり、昭和32年度は2基の古墳を調査し、1号古墳は長方形の墳丘で全長14.5mの規模であり、全長約2.0mの木棺の痕跡が確認されている。2号古墳は方墳で一辺約7.5mの規模であり、墳丘上で須恵器高杯が検出されている。昭和33年度も2基の古墳を調査し、1号古墳は円墳で径10mの規模であり、石室床面に円礫が敷いた横穴式石室を有し、遺物は、管玉2、鉄鏃3、曲刃鎌1、鋸1、鉄剣1、須恵器杯・蓋の出土している。2号古墳は径20mの円墳で、埋葬施設は粘土槨と推定され、鉄剣、土師器が出土し、墳頂部近辺でベンガラの散布が確認されている。

郡栄塚古墳（第5図40）（文1・22）　内郡集落内の日吉神社境内に立地する。平野部に築かれた古墳であり、現状で全長34mの帆立貝形古墳と考えられる。時期は古墳時代中期前半と推定されている。

岩開古墳群（第5図48）（文1・22）　丸山古墳(8)、八幡山古墳群(46)、岩開光明寺古墳(47)からなる。岩開集落西側の山塊尾根に立地する。丸山古墳は方墳、岩開光明寺古墳は径25mの円墳である。八幡山古墳群は、八幡神社後背の丘陵上に径10～15mの円墳6基を確認できるが、いずれも時期は不明である。

八王子山古墳群（第5図10）（文1・22）　岩開と佐々生の境となる山頂部中央から山頂部西側にかけて前方後円墳1基、円墳1基、方墳8基が存在している。八王子山8号墳は全長21mの前方後円墳であり、八王子山南麓には横穴式石室をもつ円墳2基が確認されている。

西大井古墳群（第5図55）（文1・22）　越前町東部の南方、鯖江市の境界となる三床山(標高280m)北側に展開する古墳群である。町境付近の尾山支群だけで、方墳15基、円墳10基、前方後円墳と推定される西大井16号墳が確認され、全支群で総計80基以上を数える。昭和47年(1972)、亀山支群の丸山において、団地造成に伴い鯖江市教育委員会が4基の古墳を調査した。第1～3号墓は弥生時代後期の小規模な方形墳墓と見られる。第4号墓は全長2.7m、幅0.6mの木棺を納めた埋葬施設が検出され、棺床に礫石を5～6個配していた。埋葬施設直上で須恵器杯が1点検出されている。

第3章　遺　　構

第1節　遺構の概要（第6･7図）

1. 調査前の状況

調査区は、天王･宝泉寺地区の後背にある標高31～36mを測る山林中腹斜面に位置し、南北約85m、東西約30mの範囲にわたる。調査区北側の山頂尾根には天王古墳群、北東側の天王･宝泉寺地区の山裾には八坂神社遺跡の存在が知られていたが、今回の調査区は知られておらず、工事着手後に発見された経緯がある。おそらく工事によって消失した調査区北東側にも高い密度で遺構が存在していたことは間違いない。調査前の地形図（第6図）には、C1･4グリッドの東側、標高34.0～34.5m付近に平坦地が見られ、C0グリッド西側とB5グリッドで墳丘状の高まり、C1･B2グリッドの標高35.0m付近で円礫と角礫からなる集石が認められたが、試掘調査後の段階においても、遺跡は植林などによる改変を受けていると考えていた。集石については、越前焼や石塔の一部が確認されたが、中心部は調査区外の西側平坦部に存在し、全体で20m四方の広がりをもつ集石墓と想定した。

2. 包含層の状況

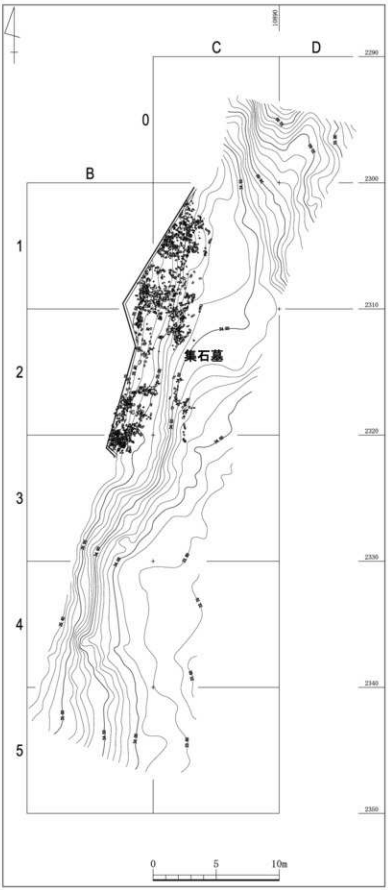
厚さ10cmの表土を取り除くと、調査区全体に包含層が厚さ20～30cmで堆積していた。包含層は、弱い粘性をもつ黒褐色土の砂質土であり、谷地形となるC2･D3グリッドにおいては、厚さ60～80cmも堆積していた。包含層上面で16世紀代の集石墓が構築されていること、包含層除去後の遺構面で検出したSK35には15世紀前半代の越前焼大甕が含まれることから、包含層は主に近世以降に堆積したと考える。遺物密度はC2･3、D2･3グリッドが最も高く、弥生時代後期の土器、奈良･平安時代の須恵器を多く含んでいた。調査区北側から中央、0～4グリッドにおいては、東へ進むにつれて包含層･遺構密度が高くなる傾向が顕著となり、滑落防止措置を徹底した上で、崖際まで精査を進めた。

3. 遺構の状況

包含層を除去すると、黄褐色砂質土の地山面に至り、遺構はこの面で確認した。検出した遺構は、古墳5基（1～5号墳）、竪穴住居6棟（SI1･4･5･7～9）、堂跡（SI2･3）、土器集中区（SI6）、掘立柱建物3棟（SB1～3）、土坑･土坑墓37基（SK1～37）、遺物を含む小穴175基、溝13条である（第7図）。

古墳は1号墳をC6･7グリッド、2号墳をC4･5グリッドで検出した。共に標高33m付近に位置している。1号墳は長軸12.5mの円墳であり、墳頂部において全長4.1mの埋葬施設を検出した。構築時の墳丘高は1.5～2.0m内で収まる低墳丘であった可能性が高い。2号墳は長軸11.3mの円墳と推定でき、墳丘西側に幅0.9mの周溝のみが残存していた。3号墳は径15.5m以上の墳丘規模を有する円墳と推定でき、周溝は墳丘西側を切り、幅2.1～5.3mを測る。埋葬施設は、横穴式石室を構築しており、石室の奥壁と側壁基底石の一部を検出した。3号墳周溝南東、D3グリッドで4号墳を検出したが、周溝のみを検出しただけで規模は不明である。5号墳は調査区北東側、E3･4グリッドで幅2.5m以上の周溝の一部を検出しただけであるが、周溝内祭祀を行う規模の古墳であることが明らかになった。

竪穴住居は、SI1･4･5･7～9を検出し、弥生時代後期から古墳時代初頭の住居はSI4･7～9、奈良･平安時代の住居はSI1･5である。SI7～9は一部しか検出できなかったが、SI4は、主柱が六角形に配置された6.5m規模の円形住居であった。SI1は5.5m規模の方形住居であり、南辺に出入口を設け、北辺にカマドの痕跡が認められた。SI2･3は堂跡と考えられ、SI2は山側をコの字に削り出し、北西で参道と考えられる道の断面を確認した。北辺に沿った土坑SK20～22に13世紀前半代の土師器皿が廃棄されていた。



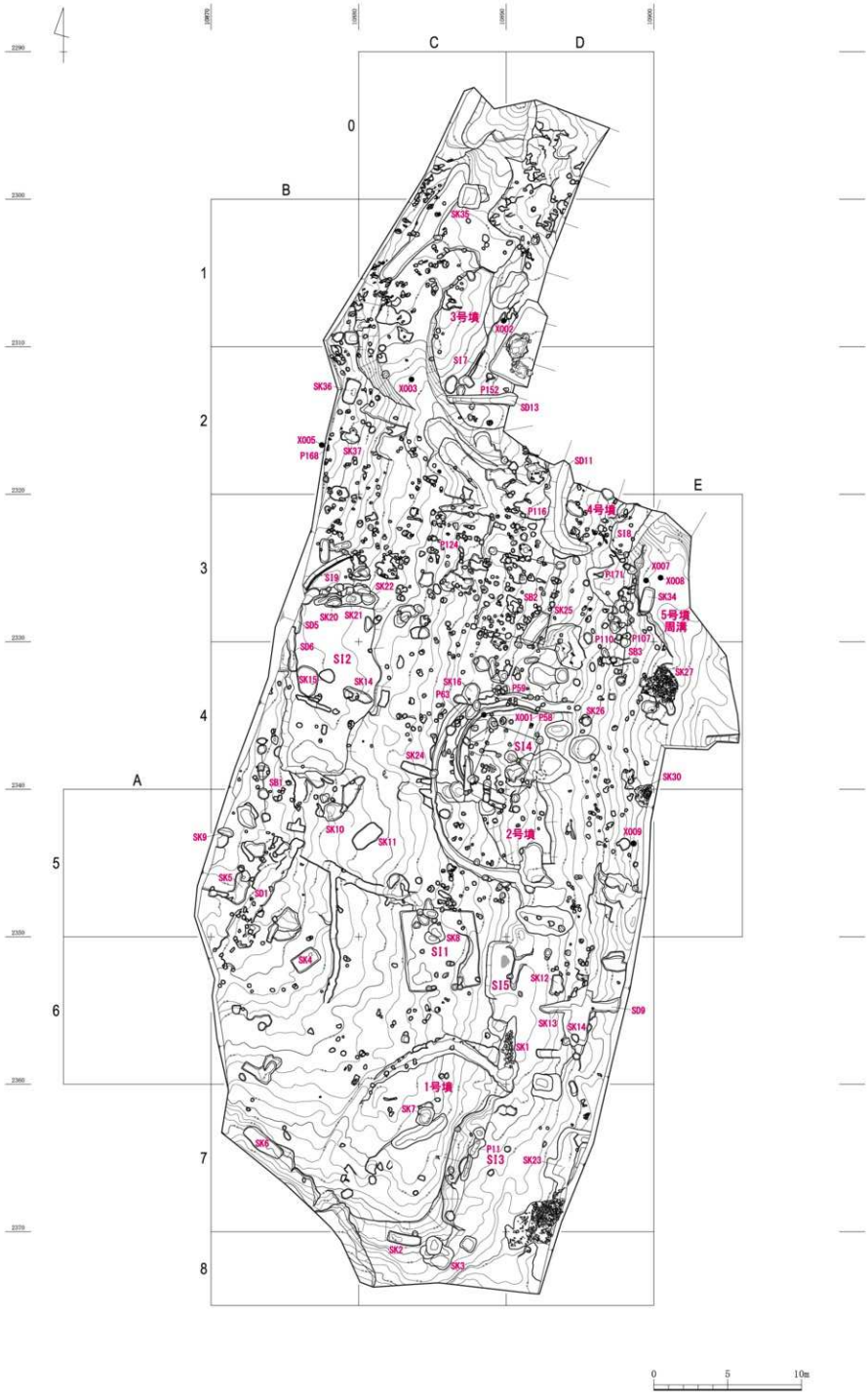
第6図　調査前現況地形図（縮尺1/300）

掘立柱建物はSB1～3を検出し、全体規模が明らかなSB2は2間×2間の規模であり、奈良･平安時代以降の建物と考える。

土坑は、古墳時代の土坑墓SK2･6･25、13世紀代の土坑墓SK3･4･34･36･37、15世紀代の土坑墓SK35がある。SK2･6は古墳時後期の須恵器を含み、調査区南側の谷に構築している。SK25はD3グリッドで単独で検出した。SK4･34･36･37は短長方形を呈し、SK36･37はB2グリッドの集石墓下層で検出し、13世紀前半代の土師器皿を含んでいた。SK34は5号墳の周溝を切って構築し、13世紀代の土師器皿に加え、5号墳の周溝遺物も混在していた。SK35は15世紀前半の越前焼大甕を据え、古瀬戸香炉や漆器、焼骨を検出した。

集石墓はC1･2の包含層上面で検出した。石塔を含むSS1～3下では下部遺構は確認できず、焼骨を充填した越前焼壺などが集石中から出土した。集石は調査区の西側から改変を受けて散乱した可能性が高い。

以下、主要遺構を第8～25図に掲載し、詳細は第1表に記した。遺構･遺物の時期･年代観については、古墳時代の須恵器は田辺編年(文15)に従い、他の時代の土器については田嶋明人氏の編年案(文13･14)に準拠する。また、奈良･平安時代の土器については田嶋編年を細分して南加賀地域の編年基軸を構築した望月精司氏による一連の論考(文28)を参考とした。



第７図　調査区全体図（縮尺1/250）

第2節　古　墳（図版第1～5　第8～13図　第1表）

1号墳（図版第1·2　第8·9図）

墳　丘　1号墳は調査区南側、C6·7グリッドに立地する。長軸12.5m、短軸8.0mの円墳と推定する。主軸はN50°Eに向け、地山の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。全体的に南東へ傾斜し、墳頂部の標高は33mを測る。ほぼ表土直下で検出した。墳丘北側に幅0.7～1.3m、深さ0.3mの周溝が弧状に残るが、墳丘西側の周溝は明瞭でない。周溝の下層には縄文·弥生土器が若干含まれていた。墳丘東側はSI3の構築によって墳丘の半分が破壊されていた。周溝と埋葬施設の深さに顕著な比高差がないことから、盛土を含めた本来の墳丘の高さは1.5～2.0m程と推定する。

埋葬施設　埋葬施設は墳頂部の表土直下で木棺直葬の痕跡を確認した。規模は全長4.1m、北東側小口幅0.8m、中央幅1.0m、南西側小口幅0.8m、検出面から棺床まで深さ0.3mを測る。北側の一部を盗掘孔らしきSK7が破壊していた。木棺の両小口部の平面は、緩やかな曲線を呈し、棺床中央から小口部への立ち上がりは緩い。中央部断面の形状も浅い曲線を呈し、木棺は舟形木棺であった可能性が高い。棺内の覆土には黒褐色土の砂質土が堆積していたが、棺構造を示す痕跡は確認できなかった。

棺内には鉄器（図版第19　第41図）が副葬品として納められ、棺床面で鉄刀1、鉄鉾2、鉄鏃3～9、鉄斧10、鉄鎌11を検出した。棺床中央部の20cm大と10cm大の礫石は上から落ち込んだものと考える。

鉄器の配置状況を北東側小口から南西側小口にかけて概観すると、北東側小口から中央へ60cm離れた位置において、刃部中央から二つに割れた鉄鉾2を検出した。袋部の口は棺中央へ向け、折れた刃部の刃先は東に向けて袋部の上に置いていた。鉄刀1は茎部を北東側小口、切先を南西側小口に向け、峰を棺内、刃部を棺外に向けて、中央主軸から南東寄りに置いていた。全体に木質が残っており、本来は柄を装着し、鞘に収めていたと考える。鉄鏃3～9は南西側小口から1.4m隔てた中央主軸上に置かれ、鏃身部を北東側に向け、7本が束になっていた。茎部に篦被が残り、矢柄を付けた状態で納めたと考える。鉄斧10は南西側小口から95cm隔てた位置にあり、刃先は北東に向けていた。鉄鎌11は曲刃鎌であり、鉄鏃3～9と鉄斧10の間に位置し、刃部を東側に向けていた。被葬者は、鉄鉾2と鉄鏃3～9の間の170cmの空間に安置されていたと考えられ、埋葬時の頭位は鉄刀の配置状況から北東側小口に向けていた可能性が高い。時期は鉄器の様相から5世紀中葉から後葉と考える。

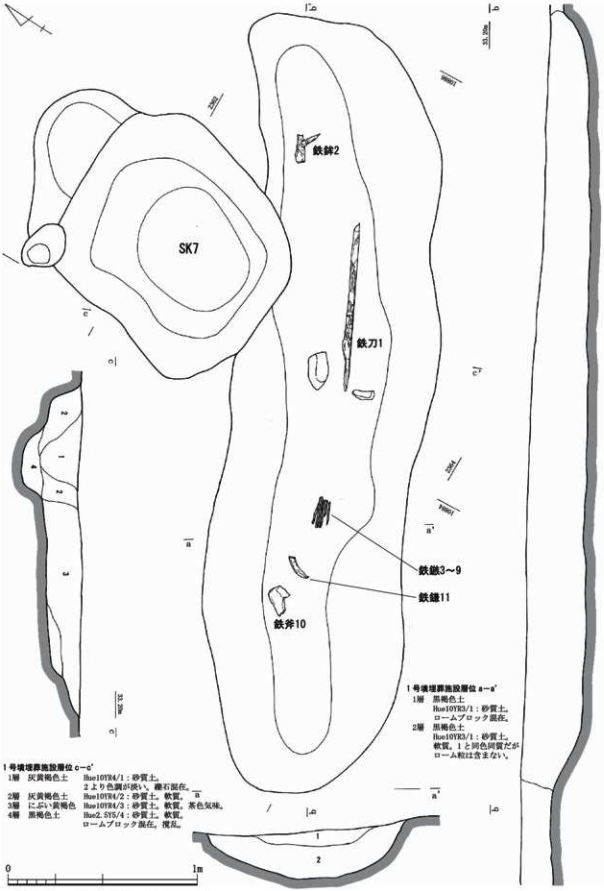
2号墳（図版第3　第10図）

墳　丘　2号墳は調査区中央、C4·5グリッド、D4·5グリッドに立地する。長軸11.3m、短軸7.0mの円墳と推定する。主軸はN0°Eに向け、地山の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。全体的に東へ傾斜する。厚さ30cmの包含層を除去すると、標高32mを測る山側において、幅0.5～0.9m、深さ0.3mの弧状に巡る周溝だけを確認した。墳丘、埋葬施設は完全に削られており、直下で弥生時代後期の竪穴住居SI4を検出した。周溝内からは大型鉄斧17を検出し、C5グリッドの包含層中から先端部が折れた鉄刀2、SI4P49直上の包含層から鉄斧16を検出し、これらは2号墳の副葬品であったと見る（図版第3　第42図）。墳丘の規模、副葬品の時期から1号墳とほぼ同時期、5世紀中葉から後葉と考える。

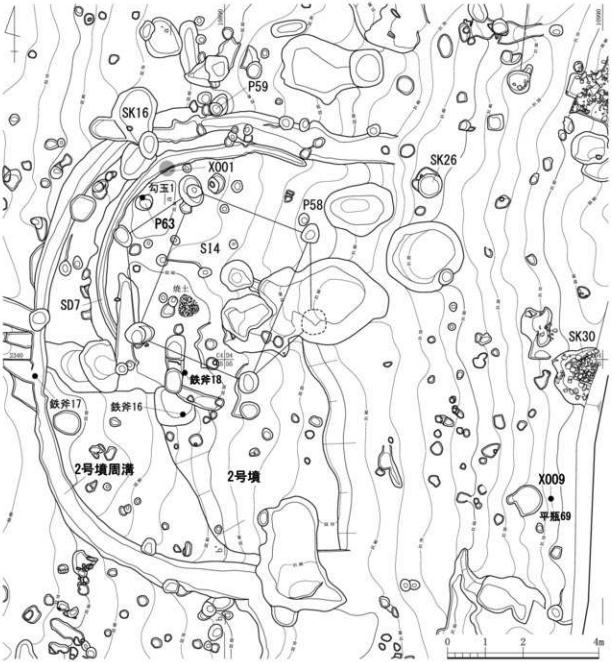
3号墳（図版第4　第11·12図）

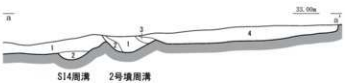
墳　丘　3号墳は、調査区北側、C1·2グリッド、D1·2グリッドに立地する。長軸15.5m、短軸7.5mの円墳と推定する。主軸はN117°Eに向け、地山の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。全体的に南東へ傾斜し、墳頂部の標高は33.5mを測る。C1·2グリッドにおいて集石墓と厚さ50～80cmの包含層を除くと、山側を切った幅2.1～5.3m、深さ0.3mの周溝を検出した。周溝の底のX003地点から須

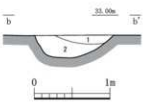
第8図　1号墳墳丘（縮尺1/100）



第9図　1号墳埋葬施設（縮尺1/20）







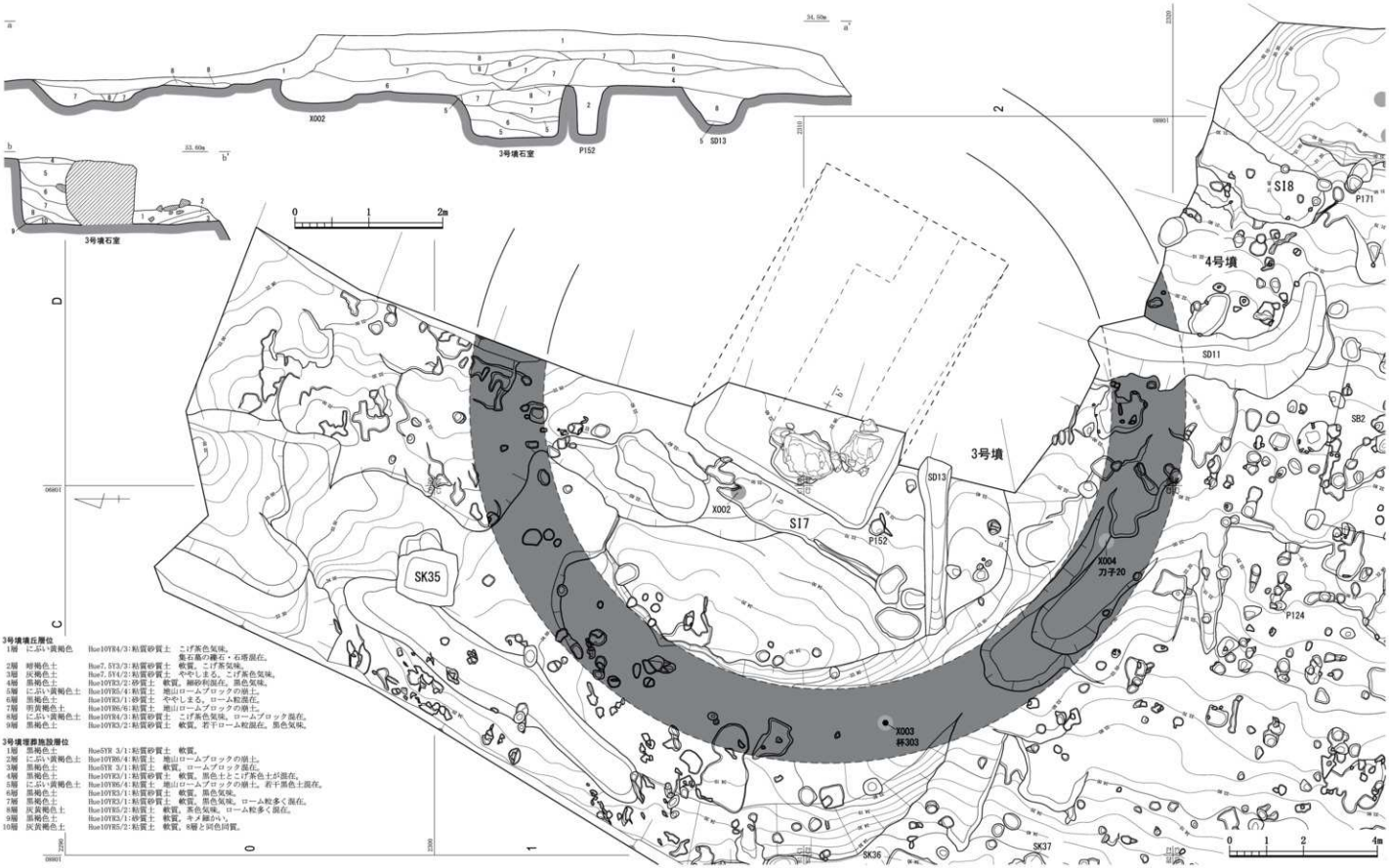
2号墳周溝層位a－a'

1層	黒褐色土	Hue10YR3/1:砂質土　軟質。弥生土器を含む。
2層	黒褐色土	Hue2.5Y3/1:粘質砂質土　ローム粒混在。弥生土器を含む。
3層	明黄褐色土	Hue2.5Y3/1:粘質砂質土　ロームブロック混在。
4層	黒褐色土	Hue10YR3/1:砂質土　1より固くしまる。ロームブロック混在。こげ茶色気味。

2号墳周溝層位b－b'

1層	黒褐色土	Hue7.5Y3/1:粘質砂質土　黒色気味。
2層	黒褐色土	Hue7.5Y3/1:粘質砂質土　ローム粒混在。

第10図　2号墳墳丘（縮尺1/100）、周溝断面（縮尺1/50）



3号墳墳丘層位

1層	にぶい黄褐色	Hue10YR4/3:粘質砂質土　こげ茶色気味。 集石墓の礫石・石塔混在。
2層	褐色土	Hue7.5YR4/4:粘質砂質土　軟質。こげ茶気味。
3層	灰褐色土	Hue7.5YR4/2:粘質砂質土　ややしまる。こげ茶色気味。
4層	黒褐色土	Hue10YR3/2:砂質土　軟質。細砂利混在。黒色気味。
5層	にぶい黄褐色土	Hue10YR5/4:粘質土　地山ロームブロックの崩土。
6層	黒褐色土	Hue10YR3/1:砂質土　ややしまる。ローム粒混在。
7層	明黄褐色土	Hue10YR6/6:粘質土　地山ロームブロックの崩土。
8層	にぶい黄褐色土	Hue10YR4/3:粘質砂質土　こげ茶色気味。ロームブロック混在。
9層	黒褐色土	Hue10YR3/2:粘質砂質土　軟質。若干ローム粒混在。黒色気味。

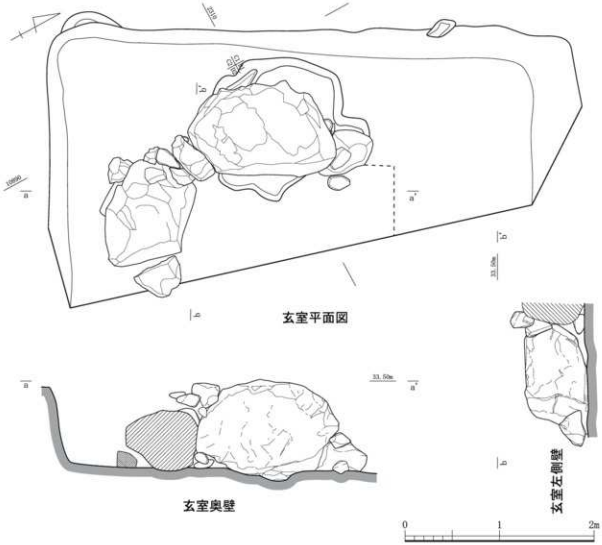
3号墳埋葬施設層位

1層	黒褐色土	Hue5YR 3/1:粘質砂質土　軟質。
2層	にぶい黄褐色土	Hue10YR6/4:粘質土　地山ロームブロックの崩土。
3層	黒褐色土	Hue5YR 3/1:粘質土　軟質。ロームブロック混在。
4層	黒褐色土	Hue10YR3/1:粘質砂質土　軟質。黒色土とこげ茶色土が混在。
5層	にぶい黄褐色土	Hue10YR6/4:粘質土　地山ロームブロックの崩土。若干黒色土混在。
6層	黒褐色土	Hue10YR3/1:粘質砂質土　軟質。黒色気味。
7層	黒褐色土	Hue10YR3/1:粘質砂質土　軟質。黒色気味。ローム粒多く混在。
8層	灰黄褐色土	Hue10YR5/2:粘質土　軟質。茶色気味。ローム粒多く混在。
9層	黒褐色土	Hue10YR3/1:砂質土　軟質。キメ細かい。
10層	灰黄褐色土	Hue10YR5/2:粘質土　軟質。8層と同色同質。

第11図　3･4号墳墳丘（縮尺1/100）

恵器杯303(第33図)、X004地点から刀子20(第42図)を検出し、その他、弥生時代後期の土器296～302(第33図)、奈良・平安時代の須恵器片を確認している。墳丘東側は、工事によって削られ、墳丘西側も厚さ80cmの包含層を除くと、墳頂部は既に削られた後であり、顕著な起伏はうかがえなかった。3号墳の周溝の深さは、埋葬施設の深さより40cm浅く、盛土を含めた本来の墳丘の高さは2.0m前後程と推定する。

埋葬施設　墳頂部の包含層を除去すると、南北5.6m、東西1.2m、深さ0.8mの規模をもつ方形遺構を検出した。当初は、この方形遺構の北側に接して古墳時代初頭の土器が集中するX002地点(図版第4　第22図)を確認したため、方形遺構と含めて古墳時代の竪穴住居SI7と扱っていた。しかし、方形遺構から巨大な石材を検出した段階で検討を加えた結果、これが3号墳の埋葬施設であり、横穴式石室を構えた墓坑であることが判明した。墳径から古墳の中心を求め、方形遺構の南北長が墓坑の幅とすると、墓坑は全長8.5m、幅5.6m、深さ0.8mの規模と推定できた。墓坑内には高さ1.0m、幅1.5m、奥行き1.0mを測る奥壁と、高さ0.7m、幅1.2m、奥行き0.9mを測る左側壁の基底石のみが残され(第12図)、墓坑の中心と石室の中心がほぼ同一と仮定すれば、横穴式石室の規模は、玄室長4.5～5.0m、玄室幅2.1～2.5m、羨道を含めた全長6.5～7.0mと推定できた。石室内からは、杯303と同時期の須恵器杯片を1点、ヤリガンナ23(第42図)を検出している。時期はTK10期、6世紀中頃と考える。



第12図　3号墳埋葬施設（縮尺1/40）

4号墳（図版第5　第13図）

墳　丘　4号墳は調査区北側、D2･3グリッドに立地する。全体の規模は不明であり、長軸3.6m、短軸3.6mの範囲で墳丘の南西隅に相当する部分だけを確認した。本来は一辺5.5m前後を測る方墳、または方形周溝墓と推定する。主軸はN10°Eに向け、地山の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。埋葬施設は確認できなかった。全体的に東へ傾斜し、墳頂部の標高は32.3mを測る。北側は工事によって破壊され、東側はSI8によって破壊されている。

墳丘西側で厚さ20cmの表土、厚さ70cmの包含層、厚さ30cmで堆積した墳丘盛土が崩壊した灰褐色土を除去すると、3号墳周溝底面においてL字に屈曲する幅1.0～1.5m、深さ0.4mの溝を確認した。調査中、SD11と呼称したこの溝は、形状と溝内にSI4と同質の黒褐色土が覆土として堆積していることから、4号墳の周溝と判断した。周溝内には弥生時代後期の土器304～306（第33図）を検出し、時期は弥生時代後期末、漆町4群前後と考える。

5号墳（図版第5　第13図）

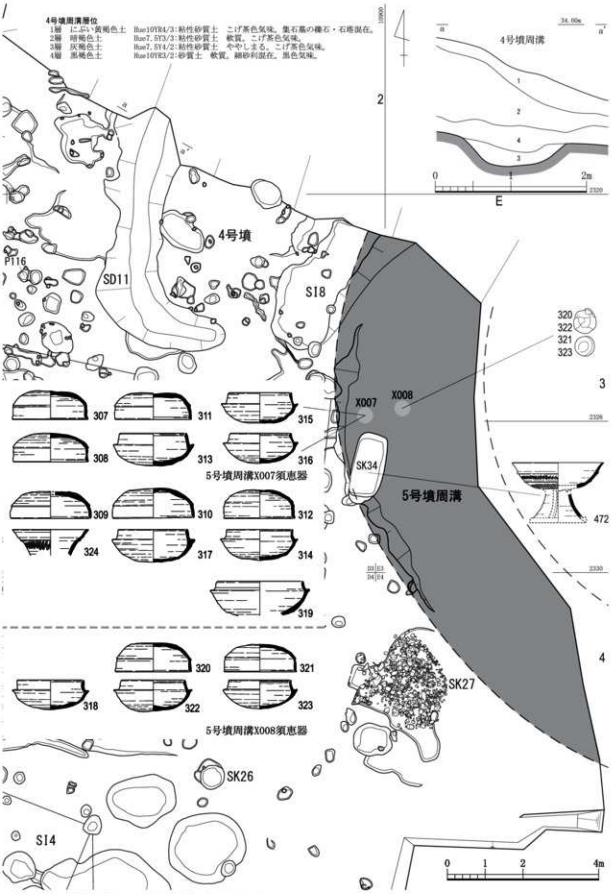
墳　丘　5号墳は調査区中央の東壁沿い、D3グリッド、E3･4グリッドに立地する。墳丘の規模や主軸は不明である。全体的に南東へ傾斜する。厚さ80cmの包含層を除去すると、標高31m付近においてSI8を南北方向に切る落ち込みを確認した。落ち込みは、弧状を呈して南方へ10m程延びて行き、地山を深さ0.3m程掘り込んでいた。包含層と落ち込みの覆土は厳密に区分できなかったが、落ち込みの底面となる地山上において多くの須恵器杯･蓋を検出したため、この落ち込みが古墳の周溝外縁であることが判明し、5号墳の存在を想定せざるを得なくなった。

周溝外縁から古墳の中心を求め、墳形を円墳と想定した場合、5号墳は径14m以上、周溝幅4.1mの規模の古墳と推定でき、調査区外の東側に少なくとも3号墳と同規模以上の古墳が前段階に構築されていたと考えられる。周溝内には、SI8から南へ2.5m隔てた位置に13世紀代の土師器皿を副葬した土坑墓SK34が構築されていたが、中に混入していた須恵器無蓋高杯472（第38図）は5号墳の遺物である可能性が高い。

周溝内の遺物はD3グリッド東辺中央、E3グリッド西辺中央の位置に集中し、X007地点とX008地点で一定量の須恵器（図版第15･16　第33図）の出土を確認した。

X007地点では、須恵器蓋の6点（307～312）、須恵器杯6点（313～317･319）と壺の口縁部324を検出したが、原位置を確認できたのは、周溝底面において正位の状態で東西に並んで配置されていた杯315と杯316だけであった。それ以外は、周溝底面から20cm程上で検出したため、包含層遺物として取り上げてしまい、セットで出土した個体もあったと聞くが、詳細は確認できなかった。口径、色調、焼成具合から、杯314･315･318は蓋307･308のいずれとも組みになれるが、杯317･313は蓋311としか組めない。杯316は蓋312としか組めないが、312は越前焼を想起させるような焼成、色調であり、セット関係を想定するのは困難を伴う。杯319は破片であり、復元すると、他のものより大型で口径13.4cmを測る個体となるが、これと組み合う蓋はない。

X008地点では、須恵器蓋2点（320･321）、須恵器杯3点（318･322･323）を検出した。杯318は完形品であるが切株に絡まれた状態で検出し、原位置の配置を維持していなかった。杯322と蓋320、杯323と蓋321は、切株の影響を免れ、周溝底面においてセット関係を維持した状態で、正位を保って南北に並んで配置されていた。蓋320は土圧で割れていたが、他は完形を保っていた。蓋321を開けると、杯323にベンガラが口縁部一杯に充填され、重量は120gを測る。5号墳の時期は、高杯472を重視すれば、TK208期、5世紀中葉と考えられ、TK47～MT15期、5世紀末～6世紀前半に周溝内祭祀を行ったと考える。



第13図　4号墳墳丘、5号墳周溝（縮尺1/100）

第3節　竪穴住居・堂跡・土器集中区（図版第6～9　第14～16図　第1表）

SI1（図版第6　第14図）　C5・6グリッドに位置する竪穴住居であり、形状は方形、中央長軸5.5m、中央短軸5.0m、深さ0.3m、床面積28m²の規模を測る。主軸はN5°Wをとる。住居北辺中央には長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.2m規模のカマドの痕跡らしき張り出しが残る。主柱穴は確認できなかった。覆土は黒褐色土が堆積していた。P1～7は、SI1に伴うものと考える。床面は、黒褐色土と地山を混合した土を用いて厚さ5cmの貼床をしていた。住居南辺中央には幅1.7mの入口を設けていた。住居中央のSK8から須恵器杯326・327（第33図）を検出した。時期はV2期、9世紀第2四半期と考える。

SI2（図版第7　第14図）　B3・4グリッド、C3・4グリッドに位置し、堂跡と考える。形状は長方形を呈し、山側をコの字状に掘り込み、中央長軸12.9m、中央短軸6.3m、深さ0.4mを測る平坦面を削り出している。床面積81m²以上の規模であったと推定する。主軸はN5°Eをとる。北側で弥生時代の円形竪穴住居であるSI9を切る。覆土は黒褐色土が堆積し、土師器皿332～356（第34図）を検出した。北西隅側で幅5.0m、深さ0.8mの落ち込みを確認し、山側へ登る参道の断面と考える。底面で検出したSK15には、ブロック状になった土師器皿の細片が張り付いていた。平坦面北辺にはSK20～22の土坑が並び、SK20から完形品を多く含む土師器皿428～446（第37図）の19点を検出した。SI2は参道入口に建つ礎石建物が立地した場所と想定され、時期は13世紀前半代と考える。

SI3（第15図）　C7グリッドに位置し1号墳の東側を破壊して、中央長軸9.4m、中央短軸4.0m、深さ0.6mを測る平坦面を削り出している。主軸はN10°Eをとる。SI2と同様な構造の建物と考える。

SI4（図版第8　第15図）　C5・6グリッドに位置する竪穴住居であり、2号墳の下層で検出した。形状は円形、中央長軸6.5m、中央短軸6.0m、床面積39m²の規模を測る。主軸はN25°Eをとる。住居内に主柱穴を六角形に配置し、住居西側に幅0.2～0.4m、深さ0.2mの三日月状の壁溝が巡る。住居中心のP53は径0.8m、深さ0.3mを測り、円礫1点と弥生土器を含んでいた。柱穴3からは弥生土器360・361・371（第34図）、柱穴1に接した壁溝内X001地点からは弥生土器362・363（同図）を検出した。P63上面からは勾玉1（図版第20　第43図）を検出した。時期は漆町3群と考える。P49直上の包含層から出土した鉄斧18（図版同　第42図）、C5グリッドの包含層中の鉄刀16（図版同　同図）は2号墳の副葬品と考える。

SI5（図版第9　第14図）　C6グリッドに位置する竪穴住居であり、SI1の東側に近接する。形状は方形を呈し、中央長軸3.9m、中央短軸1.5m、深さ0.2m、床面積10m²以上の規模を測る。主軸はN10°Eをとる。主柱穴は確認できず、床面で焼土、二次堆積した縄文土器（図版第20　第40図）を検出した。

SI6　C2グリッドに位置する。多量の遺物を検出したため竪穴住居を想定したが、3号墳周溝内に廃棄された土器集中区であることが判明した。弥生土器373～375、Ⅳ～Ⅴ期の須恵器377～401・403～407・420・421、土師器402・408（第34～36図）を検出した。

SI7（図版第4　第11図）　C1グリッドに位置する竪穴住居であり、3号墳の墳頂部で検出した。形状は方形と推定され、壁溝の一部を検出した。X002地点（図版同　第22図）の土師器壺331（第33図）は漆町7群、古墳時代初頭と考える。

SI8（図版第4　第16図）　D3グリッドに位置する竪穴住居であり、4号墳を切って構築していた。形状は方形、主軸はN40°Eと推定する。覆土にⅣ期の須恵器が混入しているが、時期はSI4・9に近いと見る。

SI9（第14図）　B3グリッドに位置する竪穴住居であり、SI2の北側で一部を検出した。形状は円形、主軸はN25°Wと推定。幅0.2m、深さ0.1mの壁溝のみを検出した。SI2に混入した甕357（第34図）が時期を示すと考える。

第4節　掘立柱建物（第16図　第1表）

掘立柱建物はSB1～3(第16図)の3棟を確認した。柱穴は円形を基調とし、覆土は黒褐色土である。

SB1　B4･5グリッドに位置し、西辺柱列のみを検出した。桁行3間の掘立柱建物である。主軸はN5°Wにとり、柱穴3の弥生土器415(第35図)は混入品であり、SI1と主軸が同一である。

SB2　C3グリッド、D3グリッドに位置する。桁行2間、梁間2間の掘立柱建物である。床面積は26㎡を測り、主軸はN14°Wにとる。柱穴1～4･7･8から土器片を検出した。

SB3　D3･4グリッドに位置する。桁行3間の掘立柱建物または柵列と考える。主軸はN8°Eにとり、柱穴から須恵器416～419(第35図)を検出した。SB1～3の時期はⅣ2～Ⅴ2期、8世紀第3四半期から9世紀前半と考える。

第5節　土坑・土坑墓・小穴（図版第9～11　第17～23図　第1表）

土坑は土坑墓も含めて、SK1～37の計37基を確認した。古墳時代のもの3基(SK2･6･25)、奈良･平安時代のもの1基(SK8)、13世紀前半以降のもの20基(SK1･3～5･9～16･19～22･26･34･36･37)、15世紀前半のもの1基(SK35)、不明12基(SK7･17･18･23･24･27～33)となる。小穴はP110で須恵器蓋を検出した。

古墳時代の土坑墓

SK2（図版第9　第17図）　C8グリッドに位置し、形状は長方形を呈し、長径2.2m、短径0.7m、深さ0.3mを測る。主軸はN75°Wをとる。覆土からTK209～217期、7世紀初頭の須恵器蓋を検出した。

SK6（図版第9　第18図）　B7グリッドに位置する土坑墓である。形状は長楕円形を呈し、長径3.0m、短径1.1m、深さ0.3mを測る。主軸はN50°Wをとる。北西側小口の底面で須恵器角付盌(つのつきまり)425、高杯脚部426、土師器甕427(第37図)を検出した。時期はTK43～209期、6世紀末と考える。

SK25（図版第10　第21図）　D3グリッドに位置する土坑墓である。形状は長方形を呈し、長径2.4m、短径1.1m、深さ0.3mを測る。主軸はN31°Eをとる。覆土は黒褐色土であり、鉄鏃12(第41図)が含まれていた。南西側小口側で須恵器台付き長頸壺463、特殊三重蓋462(第38図)を正位で検出し、時期はTK10～43期と考える。

SI1内の土坑

SK8（図版第6　第18図）　C5グリッドのSI1内の土坑である。二つの土坑が重複し、長径1.5m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。Ⅴ2期、9世紀前葉の須恵器杯326･327(第33図)を検出した。

13世紀前半～中頃の区画溝

SK1（図版第9　第17図）　C6･D6グリッドに位置する不整楕円形の土坑である。長径5.1m、深さ0.7mを測り、主軸はN8°Eをとる。下層の黒褐色土に10～30㎝大の礫石を充填し、縄文土器29･44･45(第40図)、古墳時代前期の土器422(第37図)を検出した。北東のSK13(SD9)が建物の北辺の区画溝と仮定すれば、SK1は建物の西辺の区画溝であった可能性があり、同一主軸のSI3と関連する施設が想定される。

13世紀前半～中頃の長方形土坑墓

SK4･34･36（図版第10　第17･22図）　SK4はB6グリッド、SK34はD3グリッド、SK36はB2グリッド位置する土坑墓である。いずれも形状は長方形を呈し、長径1.9m、短径1.0～1.1m、深さ0.3～0.4mを測る。SK34は5号墳周溝を切り、覆土2層の上位で土師器皿464～470(第38図)を検出し、時期は13世紀前半～中葉と考える。須恵器杯471、無蓋高杯472(同図)は混入品であるが、472は5号墳周溝に伴う遺物と考える。SK36は集石墓除去後、地山面で検出した。覆土から土師器皿473、底面で正位で並べた土師器皿474･475(同図)を検出した。時期は13世紀前半から中葉と考える。

SI2内の土坑

SK15(第19図)　B4グリッドに位置するSI2内の土坑である。形状は短楕円形で長径2.1m、短径1.3m、深さ0.1mを測る。覆土ははにぶい黄褐色土であり、底面に土師器皿片がブロック状に密集していた。

SK20～22(図版第7　第20図)　B3グリッドに位置するSI2に伴う土坑群と考える。SI2北辺に沿って西から東へSK20～22が連結していた。SK20は長径1.1m、短径0.6m、深さ0.2mを測り、主軸はN80°Eをとる。覆土2層の灰黄褐色土から破片となった土師器皿428～436、検出面北側から完形品を多く含む土師器皿438～445(第37図)の一群を検出した。時期は土師器皿から13世紀前半～中頃と考える。

頭骨を納めた土坑墓

SK26(図版第10　第21図)　D4グリッドに位置する円筒形の土坑墓である。形状は円形で長径0.7m、短径0.6m、深さ0.6mを測る。主軸はN5°Wをとる。覆土2層の層黒色土から焼骨ではない人骨(頭骨側頭部・下顎骨)を検出した。ヒトの頭骨一個分を主体として改葬したものと考えられるが、異様さが際立つ。人骨は成人女性と鑑定され、包含層下で検出したことから13世紀前半～中頃以降のものと考える。

15世紀前半の越前焼大甕を納めた土坑墓

SK35(図版第11　第23図)　C0・1グリッドに位置する土坑墓である。集石墓除去後、地山面で検出した。形状は方形を呈し、長径2.1m、短径1.6m、深さ0.4mの規模を測る。主軸はN100°Eをとる。土坑内に口径74cm、器高74cmを測る越前焼の大甕452(第37図)を倒立して据えていた。底部の破損は土圧による圧壊ではなく、土坑に据える前に、意図的に破壊したと考える。大甕上半を倒立して設置した後、20～30cm大の扁平な石を置き、焼骨片、歯、古瀬戸香炉451(第37図)、漆器(図版第22)、アブラキリの実(図版第22)を入れ、底部や胴部下位の破片と20cm大の礫石を用いてそれらを丁寧に覆っていた。時期は15世紀前半と考える。

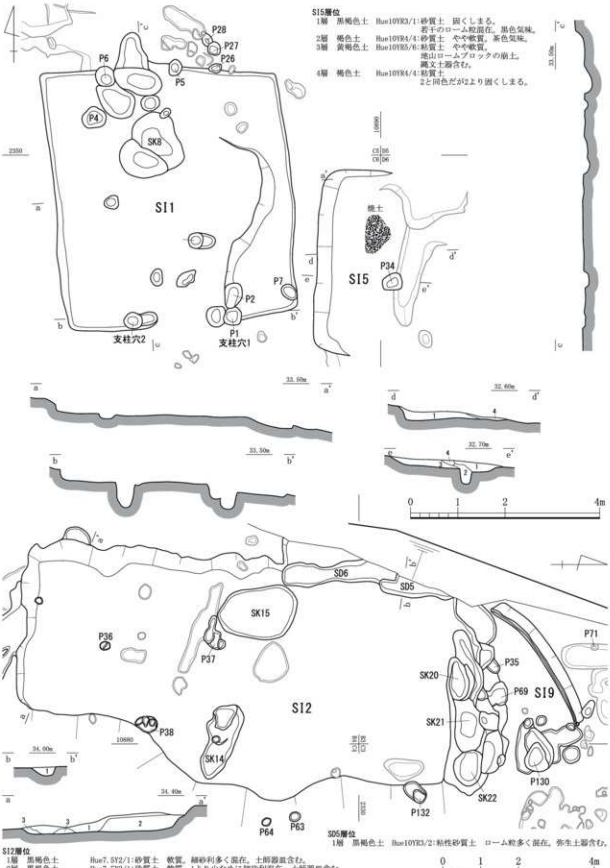
須恵器蓋が出土した小穴

P110(図版第10　第22図)は、D4グリッドに位置する小穴である。形状は方形で長径0.7m、短径0.5m、深さ0.4mを測る。覆土中位で逆位になった完形の須恵器蓋484と485(第38図)を検出した。

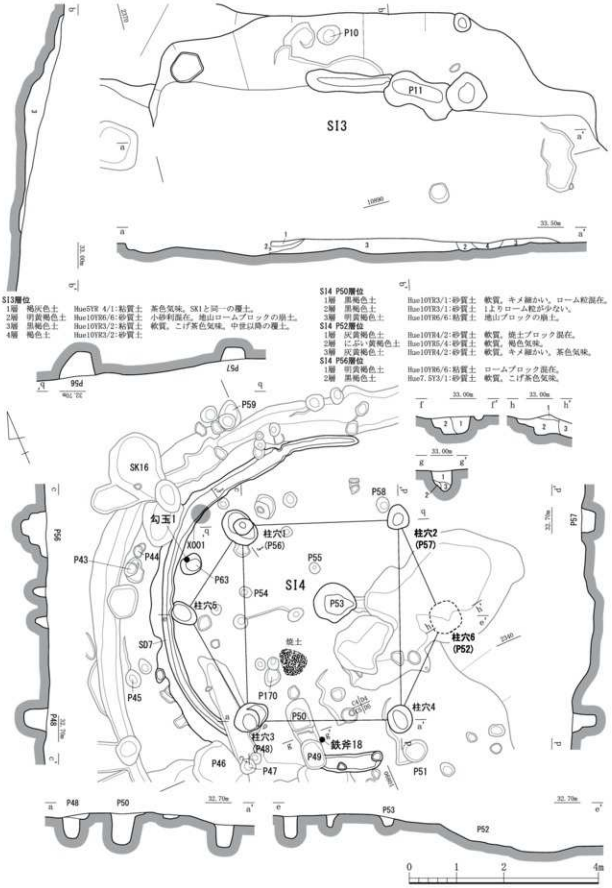
第6節　集石墓(図版第12　第24・25図　第1表)

集石墓は、調査区北西側、B1～3グリッド、C1・2グリッドに位置する。標高34.5～35.5mの傾斜面に南北20m、東西6mの範囲にわたって10～30cm大の礫石が散在していた。中心部は調査区外の西側平坦地に存在すると推定される。集石墓直下には、厚さ40～60cmの包含層が堆積していたが、遺物密度は希薄であり、関連する下部遺構は確認できなかった。集石上では13～16世紀の土師器皿、中・近世陶器、焼骨を充填した越前焼壺284(第38図)を検出した。墓域としては13世紀代から利用されたと考えるが、SK35を破壊した包含層上面に立地している点から、集石墓の時期は15世紀後半以降に求められる。

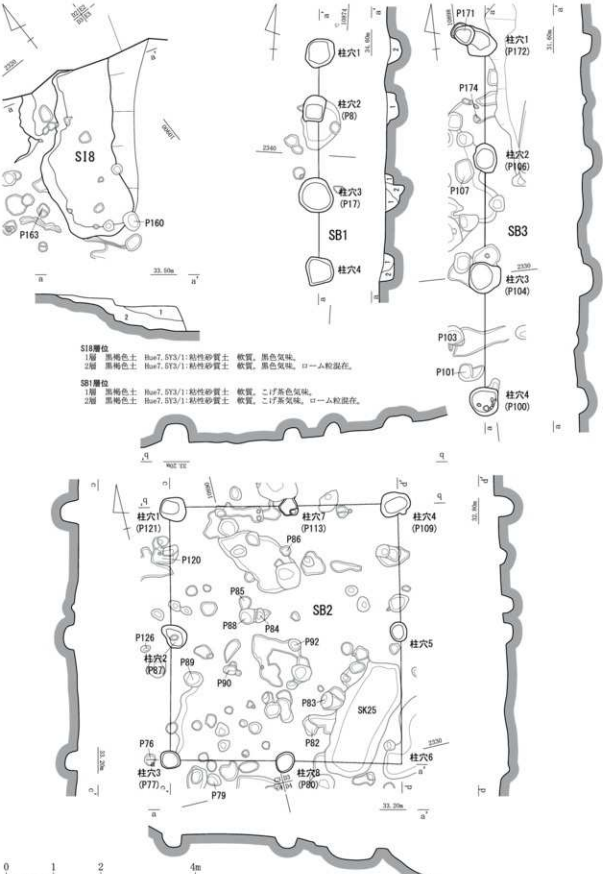
SS1～3(図版第12　第25図)　集石墓に石塔が一定量混在している地点であり、石塔は全て笏谷石製の五輪塔であった。SS1はB3グリッドに位置し、10～20cm大の礫石を1m範囲で長方形に置いた小規模な集石群である。集石から空風輪7・火輪8・水輪11(第44図)を検出した。SS2はC2グリッドに位置し、10～20cm大の礫石を南北3.4m、東西1.5m範囲で置いた中規模な群である。北・南群に分かれ、北群で空風輪18、水輪21・22、地輪24を検出し、南群で空風輪16、火輪19、水輪20・23、地輪25(第45図)を検出した。石塔は不自然な損壊を受けているものが多く、意図的な破壊行為を受けた可能性が高い。SS3はB2グリッドに位置し、10～20cm大の礫石を2m範囲で列状に置いた小規模な集石群である。空風輪13、地輪14(第45図)を検出したが、石塔細片が多く、二次堆積したものと考える。



第14図 SI1･5（縮尺1/80）、SI2（縮尺1/100）



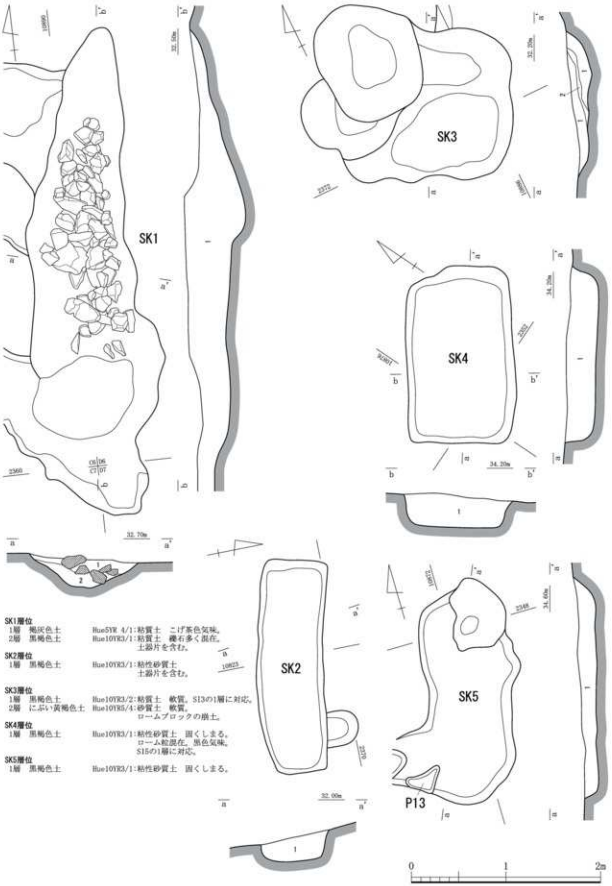
第15図　SI3・4（縮尺1/80）



S18層位
1層　黒褐色土　Hue7.5Y3/1:粘性砂質土　軟質。黒色気味。
2層　黒褐色土　Hue7.5Y3/1:粘性砂質土　軟質。黒色気味。ローム粒混在。

SB1層位
1層　黒褐色土　Hue7.5Y3/1:粘性砂質土　軟質。こげ茶色気味。
2層　黒褐色土　Hue7.5Y3/1:粘性砂質土　軟質。こげ茶気味。ローム粒混在。

第16図　SI8、SB1～3（縮尺1/80）



SK1層位
1層　褐灰色土　Hue5YR 4/1:粘質土　こげ茶色気味。
2層　黒褐色土　Hue10YR3/1:粘質土　礫石多く混在。
土器片を含む。

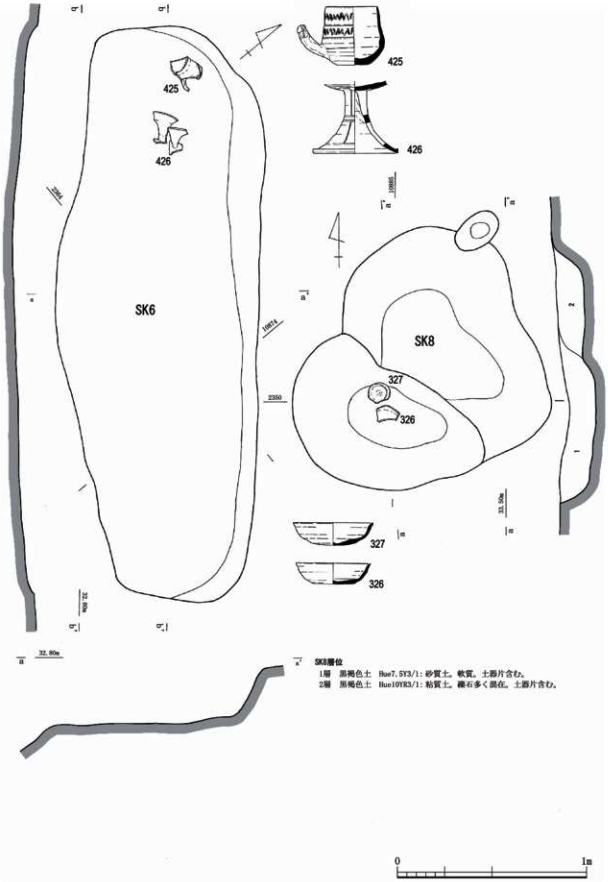
SK2層位
1層　黒褐色土　Hue10YR3/1:粘性砂質土
土器片を含む。

SK3層位
1層　黒褐色土　Hue10YR3/2:粘質土　軟質。S13の1層に対応。
2層　にぶい黄褐色土　Hue10YR5/4:砂質土　軟質。
ロームブロックの焼土。

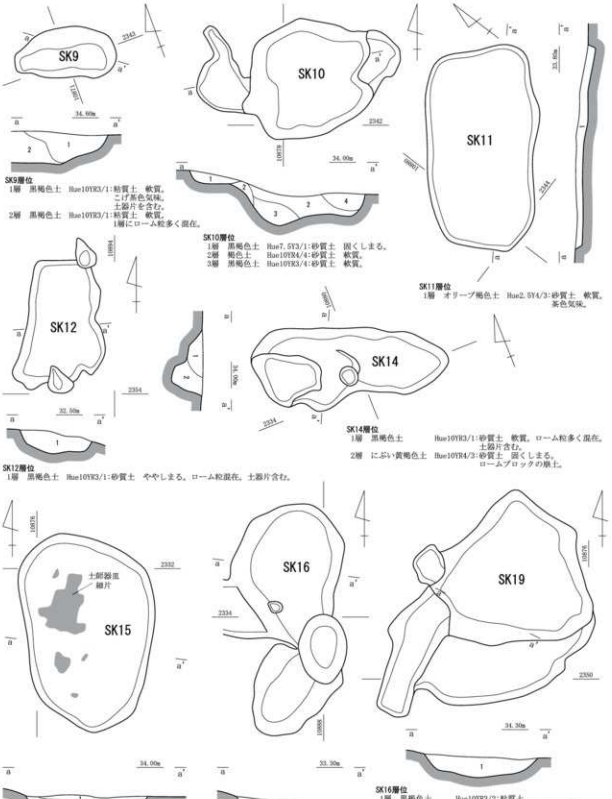
SK4層位
1層　黒褐色土　Hue10YR3/1:粘性砂質土　固くしまる。
ローム粒混在。黒色気味。
S15の1層に対応。

SK5層位
1層　黒褐色土　Hue10YR3/1:粘性砂質土　固くしまる。

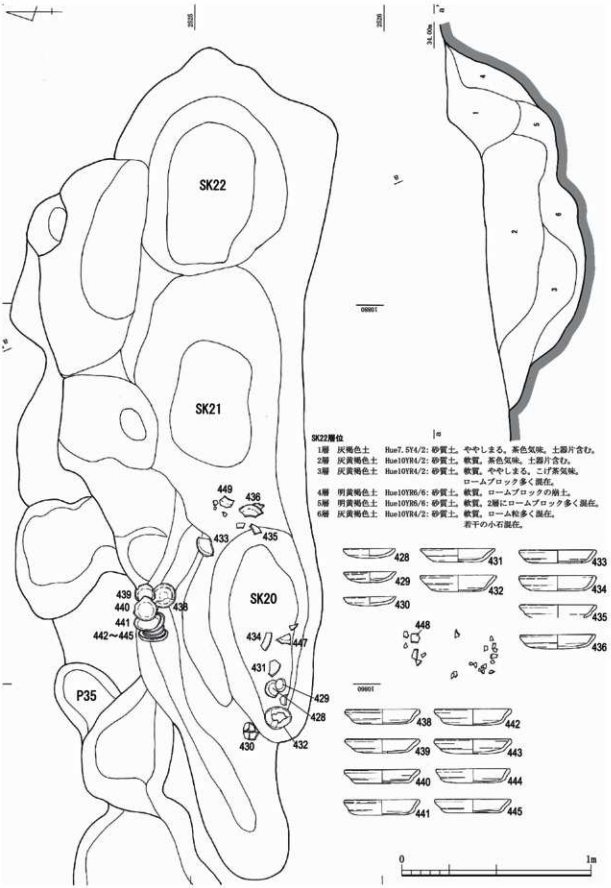
第17図　SK1～5（縮尺1/40）



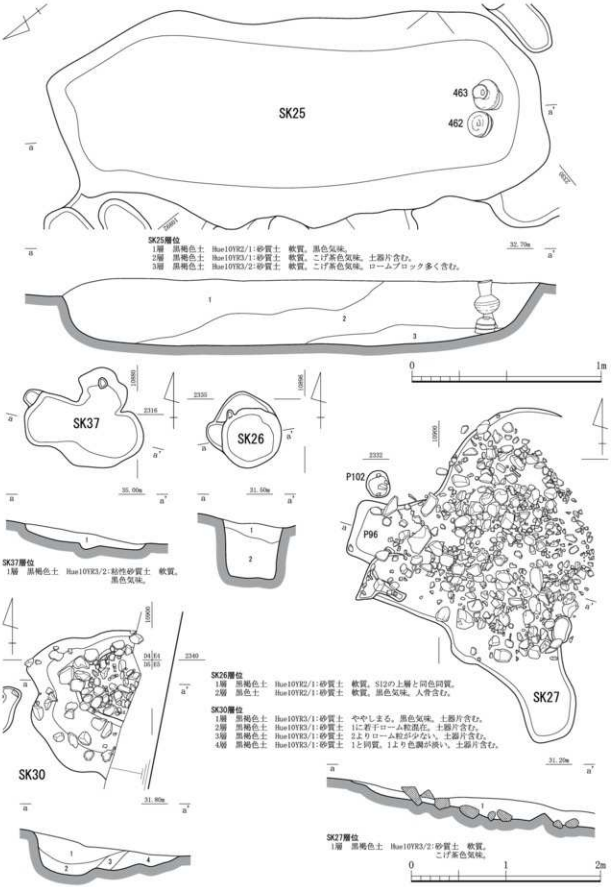
第18図　SK6・8（縮尺1/20）



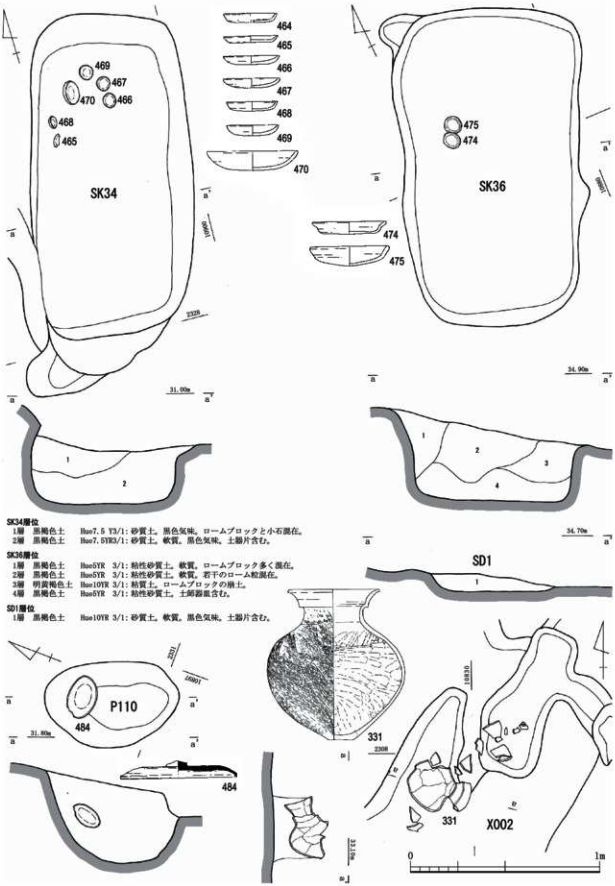
第19図　SK9～12･14～16･19（縮尺1/40）



第20図　SK20～22（縮尺1/20）



第21図　SK25（縮尺1/20）、SK26･27･30･37（縮尺1/40）

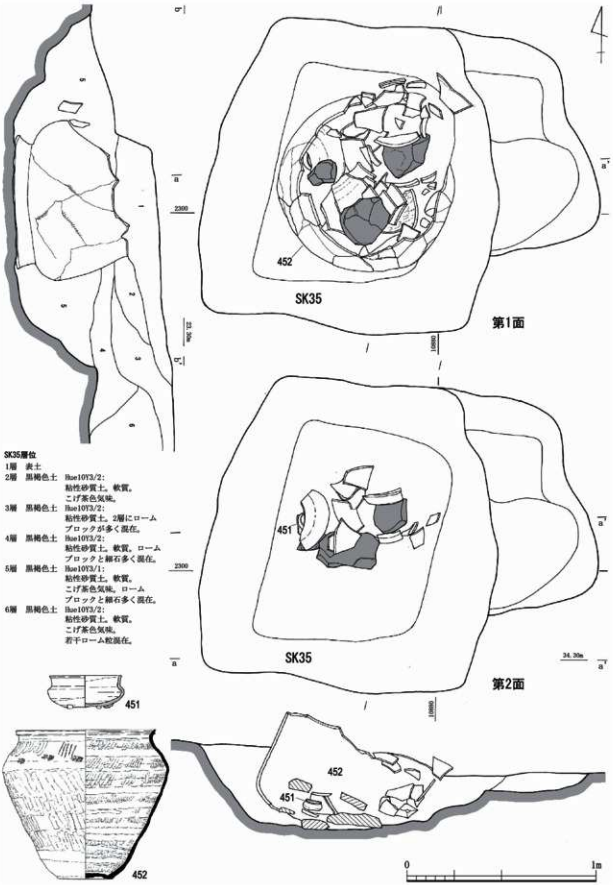


SK34層位
1層　黒褐色土　Hue7.5 Y3/1：砂質土。黒色気味。ロームブロックと小石混在。
2層　黒褐色土　Hue7.5YR3/1：砂質土。軟質。黒色気味。土器片含む。

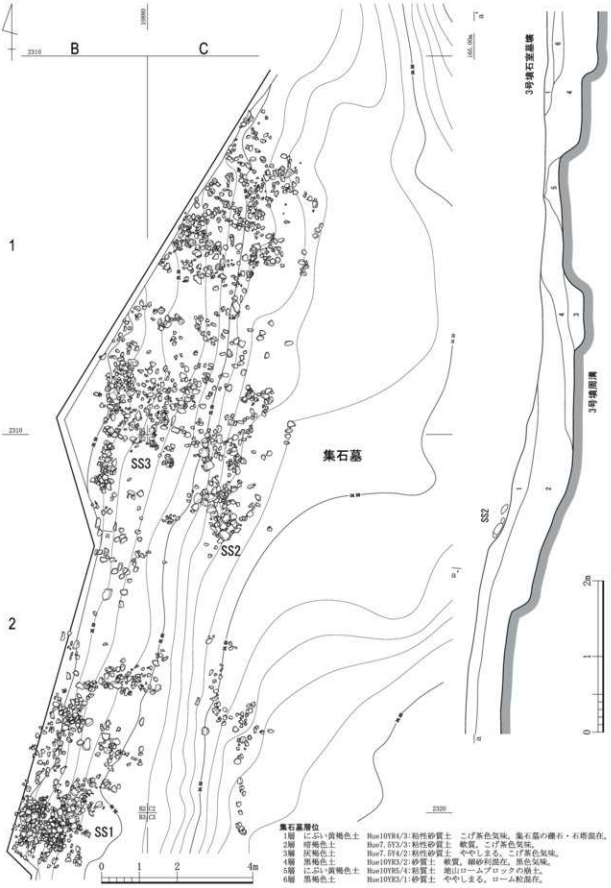
SK36層位
1層　黒褐色土　Hue5YR　3/1：粘性砂質土。軟質。ロームブロック多く混在。
2層　黒褐色土　Hue5YR　3/1：粘性砂質土。軟質。若干のローム粒混在。
3層　明黒褐色土　Hue10YR 3/1：粘質土。ロームブロックの粒土。
4層　黒褐色土　Hue5YR　3/1：粘性砂質土。土師器底含む。

SD1層位
1層　黒褐色土　Hue10YR 3/1：砂質土。軟質。黒色気味。土器片含む。

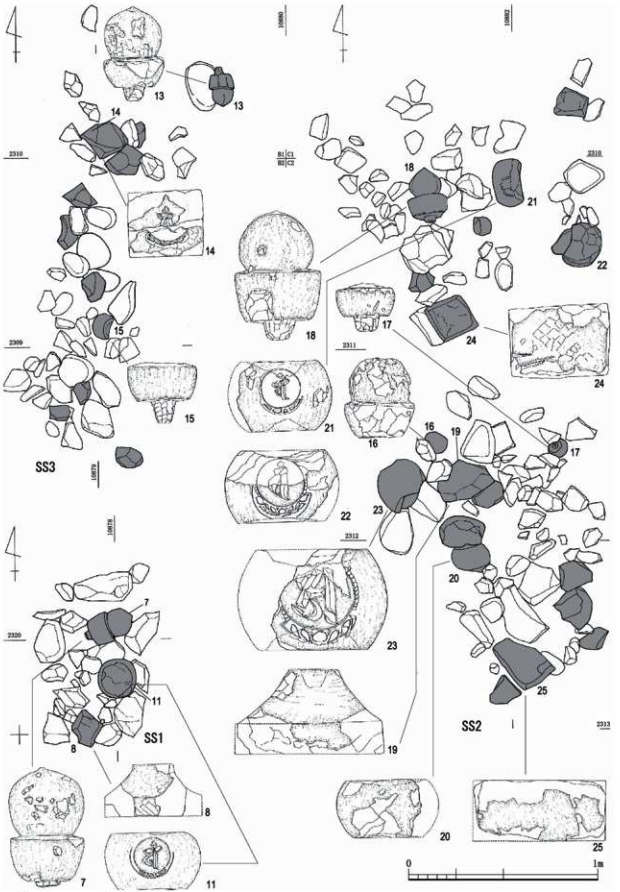
第22図　SK34･36、P110、X002（縮尺1/20）、SD1（縮尺1/40）



第23図　SK35（縮尺1/20）



第24図　集石墓（縮尺1/100）



第25図　SS1～3（縮尺1/20）

第１表　遺構一覧表

古　墳（図版第1～5　第8～13図）　　数値は検出値　（　）は推定

位置 遺構	図版 写真図版	構造・規模（m）		時期 遺物	特徴
C6・7	第8図 第9図	墳　形:	（円墳）	古墳時代中期 5世紀第3四半期	調査区南端、C6・7グリッドに位置。墳丘の主軸はN50°E。黄褐色砂質土のローム質の地山を掘り込んで構築している。墳丘北側に幅0.7～1.3m、深さ0.3mの周溝が歪つな三日月状を呈して認められた。墳丘南側はSI3、SK2・3によって破壊され、墳形は判然としないが、円墳と推定する。 墳頂部中央において厚さ15cmの表土を除去すると、直下に埋葬施設を確認し、墳丘の盛土の大部分は後世に削られていた。埋葬施設の主軸はN56°E。北東側の一部が盗掘孔と考えられる SK7によって破壊されている。中央断面、両端部が破やかに立ち上がることから舟形木棺を納めた推定する。 遺物は棺内に鉄製の武器、農工具が副葬され、棺内中央に20cm大の礫石と10cm大の礫石を確認した。副葬品の配置状況から頭位は北東側に向けていた可能性がある。
		墳丘長軸:	12.5		
		墳丘短軸:	8.0		
		墳丘高:	1.0		
1号墳	図版第1 (1) (2) 図版第2 (1) (2) (3) (4) (5)	周溝幅:	0.7～1.3	棺内遺物 鉄刀1 鉄鉾2 鉄鏃3～9 鉄斧10 鉄鎌11	
		周溝深さ:	0.3		
		埋葬施設:	（舟形木棺）		
		木棺全長:	4.1		
		木棺幅:	1.0		
		深さ:	0.3		
C4・5 D4・5	第10図	墳　形:	円墳	古墳時代中期 5世紀第3四半期	調査区中央、C4・5、D4・5グリッドに位置。墳丘の主軸はN0°。黄褐色砂質土のローム質の地山を掘り込んで構築している。西側に幅0.5～0.9m、深さ0.3mの周溝が三日月状に巡り、墳丘は既に埋葬施設共々完全に削られていた。墳丘東側も傾斜を増して削られていたが、周溝の形状から墳形は円墳と推定する。 墳丘が存在していた部分は表土が厚さ5cmで堆積し、その下に包含層が東側に傾斜して、厚さ15cmで堆積していた。包含層を除くと、直下で弥生時代後期末の竪穴住居 SI4を検出した。 遺物は周溝西側で大型鉄斧17、C5グリッド包含層から鉄刀16、P50直上の包含層から鉄斧18を検出し、これらは2号墳の埋葬施設の副葬品であった可能性が高い。
		墳丘長軸:	11.3		
		墳丘短軸:	7.0		
		墳丘高:	－		
2号墳	図版第3 (1) (2)	周溝幅:	0.5～0.9	周溝内遺物 鉄斧17 包含層出土遺物 鉄刀16 鉄斧18	
		周溝深さ:	0.3		
		埋葬施設:	－		
		木棺全長:	－		
		木棺幅:	－		
		深さ:	－		
C1・2 D1・2	第11図 第12図	墳　形:	（円墳）	古墳時代後期 6世紀第3四半期	調査区北側、C1・2グリッド、D1・2グリッドに位置。墳丘の主軸はN117°E。黄褐色砂質土のローム質の地山を掘り込んで構築している。墳丘西側に幅2.1～5.3m、深さ0.3mの周溝が三日月状に巡る。墳丘西側は工事によって破壊された。墳形は円墳であり、盛土は削られていた。 墳丘中央において厚さ15cmの表土を除去すると、直下に長さ8.5m（推定）、幅5.6m、深さ0.8m規模の長方形の墓坑を確認した。墓坑は4世紀初頭の竪穴住居 SI7を切って構築されていた。墓坑内には横穴式石室の奥壁と左側壁の一部が残り、墳丘における墓域、奥壁の位置・規模から、石室は主軸をN117°Eにとり、玄室長4.5～5.0m、玄室幅2.1～2.5m、羨道を含めた全長は6.5～7.0mの規模と推定できる。 遺物は石室から須恵器杯片、ヤリガンナ24、周溝底面から須恵器杯303、周溝底面から刀子20を検出した。
		墳丘長軸:	15.5		
		墳丘短軸:	7.5		
		墳丘高:	0.6		
3号墳	図版第4 (1) (2) (3) (4) (5)	周溝幅:	2.1～5.3	石室内遺物 須恵器杯片 ヤリガンナ24 周溝内遺物 須恵器杯303 刀子20	
		周溝深さ:	0.3		
		埋葬施設:	横穴式石室		
		石室全長:	(6.5～7.0)		
		玄室長:	(4.5～5.0)		
		玄室幅:	(2.1～2.5)		
D2・3	第13図	墳　形:	方墳	弥生時代後期末	調査区北側、D2・3グリッドに位置。墳丘の主軸は推定N10°。黄褐色砂質土のローム質の地山を掘り込んで構築している。西側に幅1.0～1.5m、深さ0.4mの周溝が鉤状に残り、墳丘東側は SI8や5号墳周溝によって削られ、北側は工事によって石室を含めた大部分が破壊された。周溝は3号墳周溝底面で検出し、墳形は方墳または方形周溝墓と推定する。 遺物は周溝内に堆積した黒色土から弥生土器304～306を検出した。
		墳丘長軸:	3.6		
		墳丘短軸:	3.6		
		墳丘高:	－		
4号墳	図版第5 (1)	周溝幅:	1.0～1.5	周溝内遺物 弥生土器 304～306	
		周溝深さ:	0.4		
		埋葬施設:	－		
D3 E3・4	第13図	墳　形:	円墳	古墳時代中期 5世紀第2四半期	調査区北側、D2・3グリッドに位置。墳丘の主軸は不明。黄褐色砂質土のローム質の地山を掘り込んで構築している。墳丘の規模は不明。西側に幅4.1m以上、深さ0.3mの周溝が弧状に残る以外、墳丘の大部分は過去の造成によって削られ、墳丘北側は工事によって破壊された。 遺物は、黒褐色土が堆積した周溝内において、須恵器杯・蓋・瓶（307～324）を検出した。杯類の中にはベンガラを充填したものが認められ、出土状況が確認できたX007・X008地点の観察から、これらは周溝内祭祀で使用したものと考える。
		墳丘長軸:	－		
		墳丘短軸:	－		
		墳丘高:	－		
5号墳	図版第5 (2)	周溝幅:	4.1以上	周溝内遺物 須恵器 307～324 土師器皿 325	
		周溝深さ:	0.3		
		埋葬施設:	－		

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 （m、㎡）	時期 構造	遺　物	特　徴
C5・6	第14図	中央長軸：5.5 中央短軸：5.0 深さ：　0.3	奈良・平安時代 V2期 9世紀 第2四半期	SK8 須恵器 326・327 縄文土器 5・21・26・40	調査区南側、C5・6グリッドに位置。主軸はN5°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込み竪穴住居。形状は方形。覆土は黒褐色土。住居内北辺中央に長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.2mの土坑が外側に張り出し、カマドの痕跡と推定。カマドは住居廃絶時に片付けられたと考える。住居内に主柱穴は確認できなかった。P1～7は径0.3～0.4m、深さ0.2～0.4mを測り、覆土は黒褐色土で土器片を含み、これらは住居に伴う小穴と考える。床面は北辺と東辺側の一部が削られているものの、全体に黒褐色土と地山を混合した土で貼床をしていた。南辺中央には入口を設け、入口の支柱1・2は径0.4m、深さ0.5mを測り、入口幅は1.7mを測る。住居内中央から北西より の位置で径1.5m、深さ0.2mを測る土坑SK8を確認した。 遺物は SK8から須恵器#326・327を検出し、住居南東隅のP7で縄文土器を検出した。
SI1	図版第6 (1) (2)	面積：　28 入口 柱穴径：　0.3 入口 柱穴径：　0.5 入口 柱穴径：　2.2	方形 竪穴住居		
B3・4 C3・4	第14図	中央長軸：12.9 中央短軸：6.3 深さ：　0.4	13世紀 前半	SK20 土師器皿 428～446	調査区西側中央、B3・4、C3・4グリッドに位置。主軸はN5°E。西側の黄褐色砂質土の地山をコの字形に掘り込んで形成された平坦面。東側は削られている。形状は方形と推定。覆土は黒褐色土。北辺は弥生時代の竪穴住居を切り、SK20～22の土坑が構築されている。西辺北側の断面に幅5.0mの落ち込みが観察され、山へ登る参道と考える。平坦面上に構造物を支えるような柱穴は確認できなかった。 遺物は、平坦面西辺中央では径2.1m、深さ0.1mのSK15が確認され、にぶい黄褐色土の覆土に土師器皿の板細片が多く含まれていた。北辺の土坑SK20は径1.1m、深さ0.6mを測り、土坑上面北側と底面において土師器皿428～446を検出した。 八坂神社境内図によれば、神社から南西方向に堂があったことが示唆されており、SI2は建石を据えた堂跡であった可能性が高い。
SI2	図版第7 (1) (2)	面積：　81 柱穴径：　－ 柱穴深：　－ 柱穴間：　－	長方形 堂跡		
C7	第15図	中央長軸：9.4 中央短軸：4.0 深さ：　0.6	13世紀 前半？	－	調査区南端、C7グリッドに位置。主軸はN10°E。1号墳の墳丘東側をコの字形に掘り込んで形成された平坦面。東側は削られている。形状は方形と推定。覆土は黒褐色土。平坦面上に構造物を支えるような柱穴は確認できなかった。 遺物は、平坦面の底面と西辺中央の径1.2m、深さ0.2mのP11において若干の土師器皿片を検出した。全体的に削られているため、構築時期は判然としないが、SI2と規模、覆土、遺物の出土状況が相似するため、SI2と同様の堂跡である可能性がある。
SI3	－	面積：　38 柱穴径：　－ 柱穴深：　－ 柱穴間：　－	長方形 堂跡		
C4・5 D4・5	第15図	中央長軸：6.5 中央短軸：6.0 面積：　39	弥生時代 後期 3世紀	土器 縄文土器30 弥生土器 358～372 P63から 勾玉1	調査区中央、C5・6グリッドに位置。主軸はN25°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む竪穴住居。形状は円形。覆土は黒褐色土。住居内の主柱穴を六角形に配置している。柱穴3で径0.8m、深さ0.5mを測る。住居西側に幅0.2～0.4m、深さ0.2mの三日月状の壁溝が巡る。住居中心には径0.8m、深さ0.3mのP53が設けられ、0.3m大の円礫1点と弥生土器片を検出した。P53から南西1m強で土師器を検出し、卯鉢と推定する。 遺物は柱穴3（P48）から土器360・361・371を検出し、柱穴1に近接した壁溝内から土器362・363を検出した。柱穴1と柱穴5の間に位置する径0.4m、深さ0.3mのP63上面からは勾玉1が検出をした。柱穴3と柱穴4の間のP49・50は連接し、長さ1.5m、深さ0.7mを測る。覆土から SI4に関連する小穴と考える。P49の直上の包含層で鉄斧18を検出しているが、SI4は2号墳と重複していることから、C5グリッドの包含層から検出した鉄刀16と同様、2号墳の副葬品と考える。
SI4	図版第8 (1) (2)	柱穴径：　0.8 柱穴深：　0.5 柱穴 1－2間：　3.3 柱穴 1－3間：　4.2	円形 竪穴住居 六画形 主柱配置		
C6	第14図	中央長軸：3.9 中央短軸：1.5 深さ：　0.2	奈良・平安 時代？	縄文土器 3・7・9・11・13 14・16・17・23 24・32・34・35 39・42	調査区南側、C6グリッドに位置。主軸はN10°E。SI1の東辺に近接。黄褐色砂質土の地山を掘り込む小型竪穴住居。西側をコの字形に掘り込み、東側は削られている。形状は方形と推定。覆土は黒褐色土。平坦面上に構造物を支えるような柱穴は確認できなかった。中央からやや北側に卯鉢らしき焼土を検出した。 遺物は覆土や SI5に伴う P34から縄文土器(3・7～9・11・13・14・16・17・23・24・32・34・35・39・42)を多く検出したが、覆土は地山の粒子を含み、SI1の覆土にも縄文土器が含まれていることから、住居埋没時に混入した二次堆積の遺物と見る。
SI5	図版第9 (1)	面積：　10 柱穴径：　－ 柱穴深：　－ 柱穴間：　－	方形 竪穴住居		

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 （m、㎡）	時期 構造	遺　物	特　徴
C2	－	中央長軸：－ 中央短軸：－ 深さ：－	－	弥生土器 373～375 須恵器 377～408 420･421 土師器 402･408	調査区北側、C2グリッドに位置。C2グリッド調査着手時に9世紀代の須恵器を多く検出したため、包含層除去後、SI1のような竪穴住居が存在することを想定してSI6と呼称した。しかし、調査の結果、竪穴住居は存在せず、SI6出土土器としたものは、3号墳の周溝内に廃棄されたものであり、SI6は土器集中区となった。遺物は弥生土器(373～376)、須恵器377～401･403～407･420･421、土師器402･408を検出した。
SI6	－	面積：－ 柱穴径：－ 柱穴深：－ 柱穴間：－	土器集中区		
C1	第11図 第22図	中央長軸：4.5 中央短軸：－ 深さ：0.1	古墳時代 前期 4世紀初頭	X002 土師器 328～331	調査区北側、C1グリッドに位置。主軸はN25°Eと推定。黄褐色砂質土の地山を掘り込む方形竪穴住居と推定。覆土は黒褐色土。3号墳墳頂部に石室構築時大部分が破壊を受け、全体の規模は不明。東辺の一部で幅0.2m、深さ0.1mの壁溝を確認した。遺物は東辺北側に沿って、口縁部を東方へ向けて横位になった土師器の二重口縁壺(331)を検出し、遺物X002出土地点の遺物として扱った。
SI7	図版第4 (5)	面積：－ 柱穴径：－ 柱穴深：－ 柱穴間：－	方形 竪穴住居		
D3	第16図	中央長軸：3.6 中央短軸：1.6 深さ：0.3	弥生時代 後期末	須恵器 409～414	調査区北側、D3グリッドに位置。主軸はN40°Eと推定。黄褐色砂質土の地山を掘り込む小型竪穴住居。形状は方形と推定。覆土は黒褐色土。4号墳の東側を切る。住居東側は5号墳周溝と重複し、5号墳周溝構築時に東側の大部分が破壊されている。 遺物は黒褐色土の覆土からⅣ期の須恵器409～414を検出したが、出土状況からこれらは混入品の可能性が高い。時期はSI4･9に近いと考える。
SI8	－	面積：6.0 柱穴径：－ 柱穴深：－ 柱穴間：－	方形 竪穴住居		
B3	第14図	中央長軸：－ 中央短軸：－ 深さ：－	弥生時代 後期末？	－	調査区西側中央、B3グリッドに位置。主軸はN25°W前後と推定。西側の黄褐色砂質土の地山を半円形に掘り込んで形成している。南側はSI2によって破壊され、東側の大部分も削られているため、全体の規模不明。幅0.2m、深さ0.1mの壁溝が残り、形状は円形と推定。覆土は黒褐色土。
SI9	－	面積：－ 柱穴径：－ 柱穴深：－ 柱穴間：－	円形		

掘立柱建物（図版第４～７　第16図）

数値は検出値　（　）は推定

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 （m、㎡）	時期 構造	遺　物	特　徴
B4･5	第16図	桁行：4.6 梁間：－ 面積：－	奈良･平安 時代 Ⅳ2～Ⅴ期	弥生土器 415 柱穴2･3から 土器片	調査区西側中央、西壁沿いに位置。主軸はN5°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。小型の規模。柱穴は円形基調であり、柱穴の主な覆土は黒褐色土。東辺柱列は調査区外となり、西辺柱列のみを検出した。柱穴3は円形基調で径0.5m･深さ0.4mを測る。柱穴覆土には柱痕状の堆積はなく、柱は抜き取られて埋められたようである。遺物は、柱穴2･3から土器片が出土した。
SB1	－	柱穴径：0.5 柱穴深：0.4 桁間寸法：1.2 梁間寸法：－	掘柱建物 桁行3間 梁間－		
C3 D3	第16図	桁行：5.4 梁間：4.9 面積：26 柱穴径：0.6	奈良･平安 時代 Ⅳ2～Ⅴ期	柱穴1～4･7･8から土器片	調査区中央、2号墳と3号墳の間に位置。主軸はN14°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。小型の規模。柱穴は円形基調であり、柱穴の主な覆土は黒褐色土。柱穴1は円形基調で径0.6m･深さ0.4mを測る。柱穴覆土には柱痕状の堆積はなく、柱は抜き取られて埋められたようである。遺物は、柱穴1～4･7･8から土器片が出土した。
SB2	－	柱穴深：0.4 桁間寸法：2.7 梁間寸法：2.5 桁行：7.5	掘柱建物 桁行2間 梁間2間		
D3･4	第16図	梁間：－ 面積：－ 柱穴径：0.5	奈良･平安 時代 Ⅳ2～Ⅴ期	須恵器 416～419 柱穴1～4から 土器片	調査区東側中央に位置。西側にSB2が平行する。主軸はN8°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。中型の規模。柱穴は円形基調であり、柱穴の覆土は黒褐色土。東辺柱列は後世に削られてしまったか、SB3自体が構列であった可能性がある。柱穴3は円形基調で径0.5m･深さ0.3mを測る。遺物は、柱穴1～4から須恵器416～419、土器片が出土した。
SB3	－	柱穴深：0.3 桁間寸法：2.5 梁間寸法：－	掘柱建物 桁行3間 梁間－		

土坑　土坑墓（図版第９～11　第17～23図）

数値は検出値（　）は推定

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 （m、㎡）	時期 構造	遺　物	特　徴
C6 D6	第17図	長径：5.1 短径：1.0	13世紀前半 以降	縄文土器 29･44･45	調査区南側に位置。1号墳周溝北側を切る。主軸はN8°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。土坑南側は撹乱を受ける。底面は起伏がある。覆土は上層が粘質土の褐灰色土。下層が粘質土の黒褐色土。10～30cm大の礫石が密集して充填されていた。礫石は集石墓のものと共通するが石塔類は含んでいない。土坑としたが、北東側のSK13(SD9)を含めて考えると、建物の西辺の区画溝であった可能性が高い。土器は全て混入品と考える。
SK1	図版第9 (2)	深さ：0.7 形状：不整楕円形			

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 (m)	時期 構造	遺 物	特 徴
C8 SK2	第17図 図版第9 (3)	長径: 2.2 短径: 0.7 深さ: 0.3 形状:長方形	古墳時代 後期 7世紀初頭 TK209~217期	須恵器片	調査区南端、C8グリッドに位置。1号墳墳丘南側を切る。主軸はN75°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘性砂質土の黒褐色土。本棺を直葬した土坑墓と推定。遺物は覆土からTK209~217期の須恵器杯蓋片を検出した。
C8 SK3	第17図 —	長径: 1.6 短径: 1.5 深さ: 0.2 形状:不整方形	13世紀前半 以降	須恵器 423・424	調査区南端、C8グリッドに位置。1号墳墳丘南側を切る。SK2の東側に近接。主軸はN64°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘質土の黒褐色土で SI3と同色同質。遺物は TK 209期の須恵器蓋423、杯424を検出したが、これらは混入品と考える。
B6 SK4	第17図 図版第10 (1)	長径: 1.9 短径: 1.1 深さ: 0.4 形状:長方形	13世紀前半 以降	土師器片	調査区南側、B6グリッドに位置。主軸はN58°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘性砂質土の黒褐色土。形状・規模は SK34・36と類似し、同時期の土坑墓と考える。遺物は古墳時代前期の布留甕の口縁部片を検出したが混入品と考える。
B5 SK5	第17図 —	長径: 2.3 短径: 0.9 深さ: 0.2 形状:長楕円形	13世紀前半 ~中頃?	土器片	調査区南側、B5グリッド西壁沿い位置。SD1の西側に近接。主軸はN15°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘性砂質土の黒褐色土。形状・規模は SK34・36と同様な土坑墓と考える。遺物は土器片を検出したが、混入品と考える。
B7 SK6	第18図 図版第9 (4)	長径: 3.0 短径: 1.1 深さ: 0.3 形状:長楕円形	古墳時代 後期 6世紀末 TK43~209期	須恵器 425・426 土師器 427	調査区南端、B7グリッド南壁沿い位置。主軸はN50°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。南側は削られている。底面は平坦。覆土は粘質土の黒褐色土。SK25と同様な土坑墓と考える。遺物は須恵器角付盌425、高杯脚部426を破砕した状態で検出した。土師器は甕427が含まれていた。
C7 SK7	第9図 図版第1 (1) (2)	長径: 1.6 短径: 1.1 深さ: 0.3 形状:不整方形	不明	—	調査区南側、C7グリッドに位置。1号墳埋葬施設南西側を切る。主軸はN0°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。底面はやや起伏をもつ。最下層の4層は黒褐色土だが、地山のロームブロックを多く含み、盗掘孔と考える。
C5 SK8	第18図 図版第6 (2)	長径: 1.5 短径: 1.1 深さ: 0.2 形状:不整円形	奈良・平安 時代 V2期	須恵器 326・327	調査区南側、C5グリッド SI1内の中央からやや北側に位置。黄褐色砂質土の地山を掘り込む SI1の貼床面で確認した土坑。二つの土坑が重複し、形状は不整円形。覆土は上層が砂質土の黒褐色土。下層が粘質土の黒褐色土で礫石が多く混在する。遺物は須恵器杯326・327を検出した。
B5 SK9	第19図 —	長径: 1.1 短径: 0.5 深さ: 0.3 形状:不整楕円形	13世紀前半 以降	土器片	調査区南側、B5グリッド西壁沿いに位置。主軸はN85°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。底面はやや起伏をもつ。形状は不整楕円形。覆土は粘質土の黒褐色土。遺物は土師器皿片を検出した。
B5 SK10	第19図 —	長径: 1.8 短径: 1.2 深さ: 0.3 形状:不定形	13世紀前半 以降	土器片	調査区中央からやや南側、B5グリッドに位置。主軸はN85°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。底面はやや起伏をもつ。形状は不定形。覆土は上層が砂質土の褐灰色土。下層が砂質土の黒褐色土。遺物は土師器皿片を検出した。
C6 SK11	第19図 —	長径: 2.1 短径: 1.1 深さ: 0.1 形状:長方形	13世紀前半 以降	土器片	調査区中央からやや南側、C6グリッドに位置。主軸はN55°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面は平坦。覆土は砂質土のオリーブ褐色土。形状・規模は SK4・34・36と類似し、同時期の土坑墓と考える。遺物は土師器皿片を検出した。
D6 SK12	第19図 —	長径: 1.4 短径: 0.8 深さ: 0.2 形状:不定形	13世紀前半 以降	土器片	調査区南東側、D6グリッドの位置。主軸はN0°。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。上面は削られている。底面は平坦。形状は不定形。覆土は砂質土の黒褐色土。調査区が東側へ傾斜を増す標高32m付近に立地し、SK26のような傾斜変換する地点を選択して構築した土坑墓の可能性もある。遺物は土師器皿片を検出した。
D6 SK13	第7図 —	長さ: 5.5 幅: 0・7 深さ: 0.4 形状:溝	13世紀以降	土器片	調査区南側、D6グリッド東壁沿いに位置。主軸はN87°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。SK1のような長い土坑としたが、SD19とした溝の掘り始めに相当することが判明した。覆土は砂質土の黒褐色土。SK1と覆土の状況も類似し、礫石を含み、SK1と共にL字状に配置されていることから、各々、建物の西辺、北辺に配置された区画溝である可能性が高い。3号墳墳丘の SD13も同様な機能が想定される。

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 (m)	時期 構造	遺 物	特 徴
B4 C4	第19図	長径: 2.1 短径: 0.7	13世紀前半以降	土器片	調査区西側中央、B4、C4グリッドに位置。SI2内南東に立地。主軸はN65°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。上面は削られている。底面は起伏をもつ。覆土は上層が砂質土の黒褐色土。下層が砂質土のにぶい黄褐色土。遺物は土器片を検出した。
SK14	—	深さ: 0.3 形状:長楕円形			
B4	第19図	長径: 2.1 短径: 1.3	13世紀前半以降	土器片	調査区西側中央、B4グリッドに位置。SI2内南に立地。主軸はN0°。黄褐色砂質土の地山を掘り込む浅い土坑。上面は削られている。底面は平坦。覆土は上層が砂質土の灰黄褐色土。下層が砂質土のにぶい黄褐色土。遺物は底面で密集した土師器皿の細片を検出し、SI2に関連する土坑と考える。
SK15	—	深さ: 0.1 形状:短楕円形			
C4	第19図	長径: 1.6 短径: 1.1	14世紀前半以降	土器片	調査区中央、C4グリッドに位置。2号墳周溝を切る。主軸はN9°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘質土の黒褐色土。SI3の覆土に類似。遺物は弥生時代後期の土器片を検出しているが、SI4からの混入品と考える。
SK16	—	深さ: 0.3 形状:短楕円形			
B6	第19図	長径: 1.6 短径: 1.6	15世紀前半以降	土器片	調査区南側、B6グリッドに位置。SK4の北西に近接する。主軸は不明。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。上面は削られている。底面は平坦。覆土は粘質土の黒褐色土。遺物は土器片を検出した。
SK19	—	深さ: 0.2 形状:不定形			
B3	第20図	長径: 1.1 短径: 0.6	13世紀前半以降	土師器皿 428～447 449	調査区西側中央、B4グリッドに位置。SI2内の北辺に沿う。主軸はN80°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。底面は平坦。覆土は砂質土の灰黄褐色土。遺物は土師器皿(428～436)を2層から検出した。土坑検出面北側の土師器皿(438～445)の一群は便宜的にSK20のものとしたが、SK20掘削以前の土坑の遺物である可能性がある。
SK20	図版第7(2)	深さ: 0.2 形状:楕円形			
B3	第20図	長径: 1.3 短径: 0.8	13世紀前半以降	土師器皿 453～458	調査区西側中央、B4グリッドに位置。SI2内の北辺に沿う。主軸はN89°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑。底面は平坦。覆土は砂質土の灰黄褐色土。SK20・22と時期差はないと考える。遺物はSK22のものを含み、土師器皿(453～458)を検出した。SK20～22は一連のものとして構築した可能性が高い。
SK21	図版第7(2)	深さ: 0.4 形状:楕円形			
C3	第20図	長径: 0.9 短径: 0.7	13世紀前半以降	土師器皿 453～458	調査区西側中央、B4グリッドに位置。SI2内の北辺に沿う。主軸はN89°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む深い土坑。底面はやや起伏をもつ。覆土は砂質土の灰黄褐色土。SK20・21と時期差はないと考える。遺物はSK21のものと区分できず、SK22のものも含んで土師器皿453～458を検出した。
SK22	—	深さ: 0.7 形状:不整円形			
D3	第21図	長径: 2.4 短径: 1.1	古墳時代後期 6世紀中頃～後半 TK10～43期	弥生土器 459・460 須恵器 461～463	調査区中央、D3グリッドに位置。SI02と重複。主軸はN31°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む土坑墓。形状は長方形。底面は平坦。小口の形状から木棺を用いず、直葬した可能性がある。頭位は盆地を望む北東に向けて埋葬したと推定する。覆土は砂質土の黒褐色土。遺物は土坑墓の南西端で正位の状態で副葬した須恵器台付き長頸壺463・特殊三重蓋462を検出し、覆土から弥生土器の蓋459、口縁部内外にスタンプ文を巡らす高杯460、須恵器蓋461を検出した。
SK25	図版第10(2)	深さ: 0.3 形状:長方形			
D4	第21図	長径: 0.7 短径: 0.6	13世紀前半以降	人骨	調査区中央、D4グリッドに位置。2号墳北東と重複。主軸はN5°W。黄褐色砂質土の地山を円筒状に掘り込む土坑。底面は平坦。形状は円形。覆土は上層が砂質土の黒褐色土。下層が砂質土の黒色土。下層から成人性の上歯人骨(頭骨側頭部・下顎骨など)を検出した。頭骨を主体として改葬した土坑墓と考える。
SK26	図版第10(5)	深さ: 0.6 形状:円形			
E4	第21図	長径: 3.4 短径: 2.5	不明	—	調査区中央東壁沿い、E4グリッドに位置。主軸はN30°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む浅い土坑。上部は削られている。底面は平坦で東側へ傾斜する。形状は不定形。覆土は砂質土の黒褐色土。底面に10～25cm大の礫石を円形に敷き詰めていた。遺物や下部に土坑などは確認できなかった。西側を P96が切る。
SK27	図版第11(1)	深さ: 0.2 形状:不定形			
D4・5	第21図	長径: 1.6 短径: 1.2	不明	—	調査区中央東壁沿い、D4・5グリッドに位置。SK27の南方6m離れた地点に立地。主軸はN18°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。上面は削られている。底面はやや起伏をもつ。覆土は砂質土の黒褐色土。形状は円形。SK27より小規模であり、10～25cm大の礫石を多く含んでいた。遺物は確認できなかった。
SK30	図版第11(2)	深さ: 0.4 形状:不定形			

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 (m)	時期 構造	遺 物	特 徴
D3 SK34	第22図 図版第10 (4)	長径: 1.9 短径: 0.9 深さ: 0.3 形状:長方形	13世紀前半 以降	須恵器 471・472	調査区中央西側、D3グリッドに位置。5号墳周溝内に立地。主軸はN15°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。底面は平坦。覆土は砂質土の黒褐色土。遺物は2層の上位で土師器皿464～470を検出し、須恵器471・高杯472は混入品と考える。棺外もしくは直葬して遺体である程度埋めた段階で副葬したと考える。SK4・36と同時期の土坑墓と考える。
C0・1 SK35	第23図 図版第11 (3) (4) (5)	長径: 2.1 短径: 1.6 深さ: 0.4 形状:方形	15世紀前半	須恵器 450 古瀬戸香炉 451 越前焼 452	調査区中央西側、C0・1グリッドに位置。3号墳北側に立地。主軸はN100°E。包含層から黄褐色砂質土の地山を掘り込む方形土坑。底面は平坦。覆土は粘性砂質土の黒褐色土。 土坑内には口径74cm、器高74cmに復元できる越前焼大甕452の上半部が倒立して埋まられ、20～30cm大の扁平な石を中に敷いた後、焼骨片、歯、瀬戸香炉451を入れ、打ち割った大甕下半部の破片と20cm大の礫石でそれらを覆っていた。大甕は完形のものが土圧で圧壊したのではないかとも考えたが、大甕内の破片はいずれも平置きの状態であること、土坑外からも破片が検出されている点などから、土坑に据える前にあらかじめ打ち欠いたと考える。須恵器450は混入品である。
B2 SK36	第22図 図版第10 (5)	長径: 1.6 短径: 1.0 深さ: 0.4 形状:長方形	13世紀前半 以降	土師器皿 473～475	調査区北側、西壁沿い、B2グリッドに位置。集石墓除去後確認。主軸はN17°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。底面は平坦。覆土は上層が砂質土の黒褐色土。下層が粘性砂質土の黒褐色土。遺物は下層の4層から土師器皿(473)、底面で土師器皿474・475を検出した。SK4・34と同時期の土坑墓と考える。
B2 SK37	第21図 —	長径: 1.3 短径: 1.1 深さ: 0.1 形状:不定形	13世紀前半 以降	土器片	調査区北側、西壁沿い、B2グリッドに位置。集石墓除去後確認。主軸はN80°E。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。底面は平坦。覆土は粘性砂質土の黒褐色土。遺物は土器片を検出した。本来は長方形であり、SK4・34・36と同時期の土坑墓と考える。

小穴（図版第10　第22図）

数値は検出値　（　）は推定

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 (m)	時期 構造	遺 物	特 徴
D4 P110	第22図 図版第10 (6)	長径: 0.7 短径: 0.5 深さ: 0.4 形状:楕円形	奈良・平安 時代 Ⅳ1～Ⅴ期	須恵器 484・485	調査区中央西側、D4グリッドに位置。SB3の西側に近接。主軸はN47°W。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。底面は平坦。覆土は粘質土の黒褐色土。遺物は土坑中位から逆位になった完形の須恵器杯蓋484と蓋片485を検出した。

集石墓（図版第12　第24・25図）

数値は検出値　（　）は推定

位置 遺構	挿図 写真図版	規模 (m)	時期 構造	遺 物	特 徴
B2・3 SS1	第24図 第25図 図版第12 (3)	長径: 0.9 短径: 0.7 高さ: 0.2 形状: —	15世紀後半 以降	越前焼 502 石塔 4～7・9～12	調査区北側、西壁沿い、B3グリッドに位置。SS2・3から南へ10m離てる。主軸はN0°E。10～30cm大の散在する礫石群の中に破壊された笏谷石製の石塔を含む小規模な一群である。表土を除去すると、厚さ15cmで堆積した粘性砂質土のにぶい黄褐色土である1層上面で検出。以下、地山までは粘性砂質土の暗褐色土の2層が厚さ50cmで堆積しているが、2層中や地山面において土坑などの下部遺構は確認できなかった。石塔は五輪塔であり4～7・9～12を図化し得た。火輪8と木輪11は組みになるが、空・風輪7は別個体であり、二次堆積したものと考える。
C1・2 SS2	第24図 第25図 図版第12 (4) (5)	長径: 3.3 短径: 1.2 高さ: 0.3 形状: —	15世紀後半 以降	石塔 五輪塔 16～25	調査区北側、C2グリッドに位置。3号墳周溝上に重複。主軸はN15°W。20cm大の散在した礫石群の中に破壊された笏谷石製の石塔を含む最も大きい一群である。厚さ15cmで堆積した粘性砂質土のにぶい黄褐色土である1層上面で検出。以下、地山までは粘性砂質土の暗褐色土の2層が厚さ50cmで堆積しているが、2層中や地山面において土坑などの下部遺構は確認できなかった。石塔は五輪塔であり16～25などを検出したが、自然に倒壊したものではなく、すべて意図的な破壊を受けていた。
B2 SS3	第24図 第25図 図版第12 (6)	長径: 2.4 短径: 1.3 高さ: 0.1 形状: —	15世紀後半 以降	越前焼 502 石塔 13～15	調査区北側、西壁沿い、B2グリッドに位置。SS2・3から南へ10m離てる。主軸はN18°E。20cm大の散在する礫石群の中に破壊された笏谷石製の石塔を含む一群である。表土を除去すると、厚さ15cmで堆積した粘性砂質土のにぶい黄褐色土である1層上面で検出。以下、地山までは粘性砂質土の暗褐色土の2層が厚さ50cmで堆積しているが、2層中や地山面において土坑などの下部遺構は確認できなかった。石塔は五輪塔であり13～15など図化できたが、大半が細片であり別個体のものが多く、二次堆積したものと考える。

第4章　遺　　物

遺物は、奈良・平安時代(8～9世紀代)の須恵器が多くを占め、次いで弥生時代後期末の土器が一定量出土した。他の時代の土器は3割弱であった。第1節の土器は弥生～古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の土器を主な対象とし、包含層出土土器、遺構出土土器に区分して、特徴的なものについて概観した。土錘も少量存在し、ここに含めた。墨書土器、縄文土器については項を別にした。

土器の時期区分については、古墳時代の須恵器は田辺編年(文15)、他の土器については北陸の古代土器を通観した田嶋明人氏の編年案(文13･14)に準拠し、田嶋編年を細分した望月精司氏の論考(文28)を参考とした。その他の遺物は種別に分類し、各節ごとに第2～6表を付した。

第1節　土　器 (図版第13～18、第26～40図　第2表)

1. 包含層出土土器 (図版第13～15、第26～32図)

弥生土器 (第26図1～41)　一部に古墳時代の土師器を含むが、全体的に弥生時代後期の法仏式期のものと、弥生時代終末期に位置付けられる漆町5･6群の時期のものに大別される様相を示す。

1～10は弥生時代後期末の甕である。1～4は口径16.0～17.0㎝を測り、口縁部を巡る擬凹線は弱く、胴部外面はナデ、ハケを基調とし、胴部上位内面はヘラケズリで調整している。5･6･8は口縁部の外傾化が進み、口縁帯の幅は広くなる。12は口縁部の内外面に渦巻き文スタンプ一単位を180°回転させながら2回押して、横位の擬似S字形スタンプ文に見せて巡らしている。29も同様な文様を配置し、時期は漆町5･6群と考える。17～20は直口壺、23～28は高杯または器台である。23～25は内外面をミガキで調整しており、時期は漆町5･6群と考える。26～28は口縁部内面に段を有し、法仏式期と見る。34･35は器台の脚部であり、丁寧なミガキで調整している。39は鉢であり、胴部外面はハケ、胴部内面はヘラケズリで調整しており、時期は漆町5･6群と見る。40･41はミニチュア土器であり、手捏ねで成形した祭祀品である。

古墳時代の土器 (第27図42～70)　TK10～TK217期、6世紀中頃から7世紀前半の須恵器が主体を占める。

杯43～45は径9.0～10.6㎝前後、器高2.7～3.5㎝を測り、非常に浅く扁平な器形である。小型化が進み、口縁部は短く内傾し、体部の丸みは無くなり、底部は平底となる。TK209～217期の特徴をもつ。高杯47の杯部、杯48･54は径11.0～12.0㎝前後を測り、口縁部は短く内傾し、体部にわずかな丸みが残る。底部の平底化が進むが、一定の規格が意識され、TK43期と考える。杯49･50･53は、口径12.0～13.4㎝、器高3.0㎝前後を測り、TK209期と考える。杯51は口径12.0㎝、器高3.6㎝を測り、口縁部は短く垂直に立ち上がる。体部に丸みが残り、TK10期と考える。杯52は口径9.8㎝を測り、TK47期と考える。出土地点から5号墳周溝の須恵器に含まれる可能性がある。

高杯55･56は脚部中央に2条の浅い凹線を入れ、上下2段に長方形透孔を設け、内面にシボリ痕が認められ、TK43期と考える。高杯57～60は奈良・平安時代のⅣ期の高盤の脚部の可能性もある。壺62、長頸瓶65･66は肩部に2条の条線を巡らし、62は条線間に櫛描き波状文、65は斜格子文、66は斜行列点文を巡らしている。61･62･65･66はTK10～43期に属すと考える。壺68は口縁部上位に突帯、口縁部下位に櫛描き波状文を巡らし、胴部中位から底部は回転ヘラケズリで調整し、球胴形に仕上げている。67･68はTK10期と考える。平瓶69は胴部最大径16.3㎝を測り、肩部に浅い凹線が1条巡る。時期はTK209～217期と考える。横瓶70は砲弾形の胴部側面に短く外反する口縁部が付くもので、両面閉塞で成形している。タタキで成形した後、外面は回転ヘラケズリ、内面はカキメで当て具痕を消している。提瓶の製作技法を援用しており、TK10～43期に属すと考える。

奈良・平安時代の土器（第27図71～77、第28図78～146、第29図147～198、第30図199～242、第31図243～248）

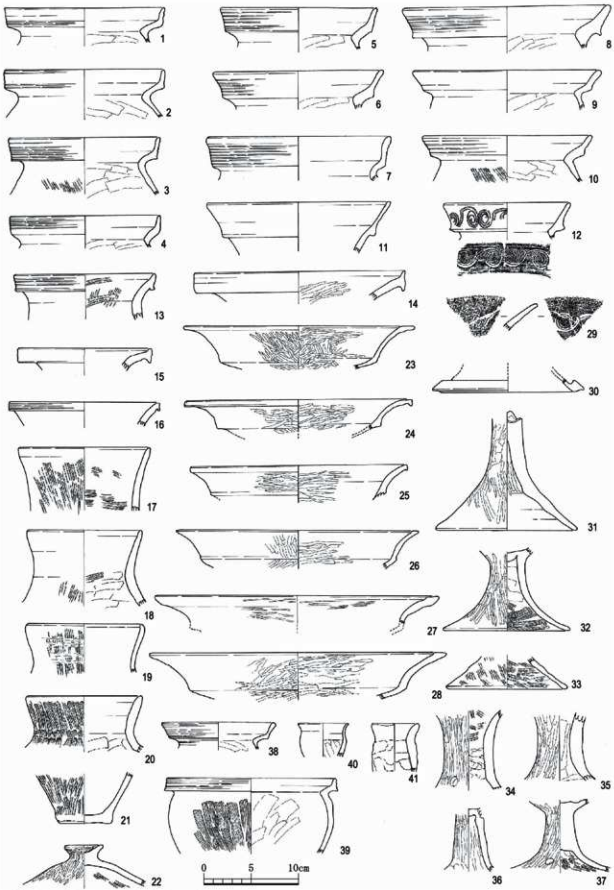
時期はⅣ2～Ⅴ2期、8世紀第3四半期から9世紀前葉のものが中心を占める。土師器は貯蔵具、煮炊具のみをわずかに検出し、甕71・74、長胴釜72はⅡ2期、7世紀末段階のものと考える。甕73・75はⅣ～Ⅴ1期のものと見る。浅鍋76は口径26.0cm、77は口径35.2cmを測り、ロクロ成形で作り、胴部外面をカキメで調整している。時期はⅢ～Ⅳ1期、8世紀中葉と考える。

須恵器は、食膳具と小・中型の貯蔵具が主体となる。杯B蓋78～124は扁平擬宝珠のツマミが付き、小型品は口径12.0～12.4cm、器高2.2～2.9cmを測り、天井部が平坦な笠形の器形を呈す群(79～82)、口径12.8～13.5cm、器高2.7～3.1cmを測り、同じ器形を呈す群(83～87)、口径13.6～14.0cm、器高3.1～3.5cmを測り、天井部が丸みをもつ群(90～92)、口径12.6～13.4cmを測り、天井部が非常に扁平となる群(93～99)がある。中型品は口径14.8～15.4cmを測り、天井部が平坦で浅い笠形を呈す群(100～105)、口径15.4～17.0cmを測り、天井部が丸みを呈す群(109～115)がある。大型品は口径18.9～20.0cm、器高2.0～2.1cmを測り、天井部が非常に扁平となる群(116～118)、口径18.2～19.4cm、器高4.2～4.5cmを測り、天井部が丸みを呈す群(119～121)、口径18.2～19.1cmを測り、天井部が平坦で浅い笠形を呈す群(122～124)がある。124・125は短頸壺の蓋である。

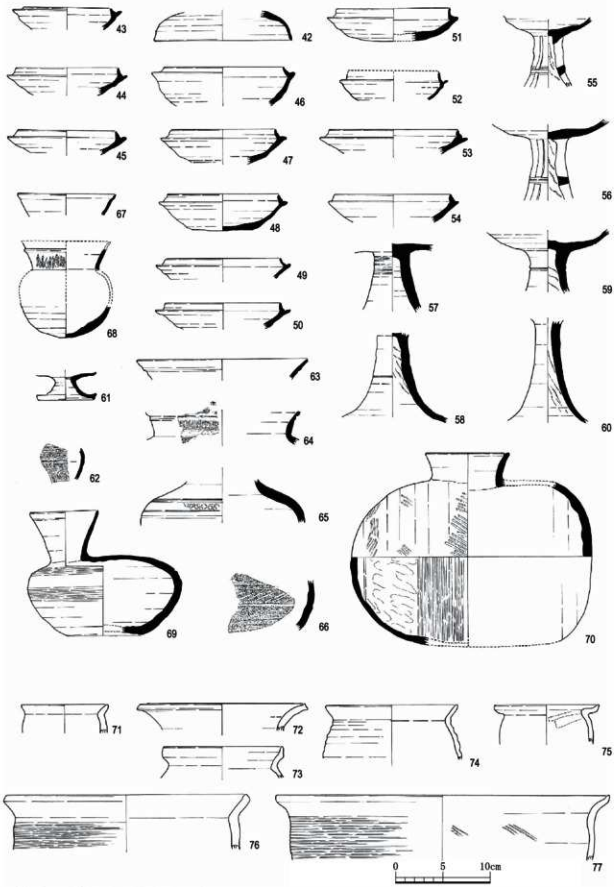
杯A127～161は概ねⅣ2～Ⅴ2期に属し、口径、器高の小型化、口縁部の外傾化が進み、底部の回転ヘラ切り調整は未調整となる。160はⅥ2期に下る。杯BもⅣ2～Ⅴ2期のものが中心であり、小型品は、口径11.1～12.0cm、器高3.9～4.4cmを測り、やや深身の器形を呈す群(163・165・168・169)、口径10.4～10.6cm、器高3.2～3.6cmを測り、やや深身の器形を呈す群(164・166)がある。中型品は、口径12.2～12.6cm、器高2.8～3.4cmを測り、扁平化したもの(171・176)、口径12.0～13.8cm、器高3.7～4.0cmを測り、口縁部が直線状に外傾するもの(172・177～180・182・183)、口径14.6～15.0cm、器高4.0～4.4cmを測るもの(185・186)がある。大型品は、口径14.6～15.4cm、器高5.2～5.8cmを測るもの(187～189)、口径16.4～18.2cm、器高5.4～6.3cmを測るもの(190～195)があり、196のような口径20.4cmを測るものもある。盤Aは中型品が多く、口径14.4～16.0cm、器高1.8～2.6cmを測る浅身のもの(200～210)、口径16.6～17.8cm、器高2.0～2.4cmを測る浅身のもの(211～217)、口径17.4～18.3cm、器高2.8～3.0cmを測り、やや深身のもの(218・219)がある。盤Bは大型品であり、口径22.2～23.0cm、器高3.6～4.0cmを測る。

長頸瓶228・229は肩が強く張って屈曲する器形であり、226は1/2規格の小型品である。広口鉢234～237・239～241は仏器を模した鉄鉢形を呈し、一定量出土している点が注意される。鉢246は、肩部直下に角状の把手が左右に付き、Ⅳ1期のものと考える。大平鉢248や、口端部が外側に突帯状に出る大甕244、肩部の張りが弱く、寸胴形の胴部をもつ大甕245は丹生古窯跡群に見られる独特の器種であり、Ⅴ期、9世紀前葉のものと考える。

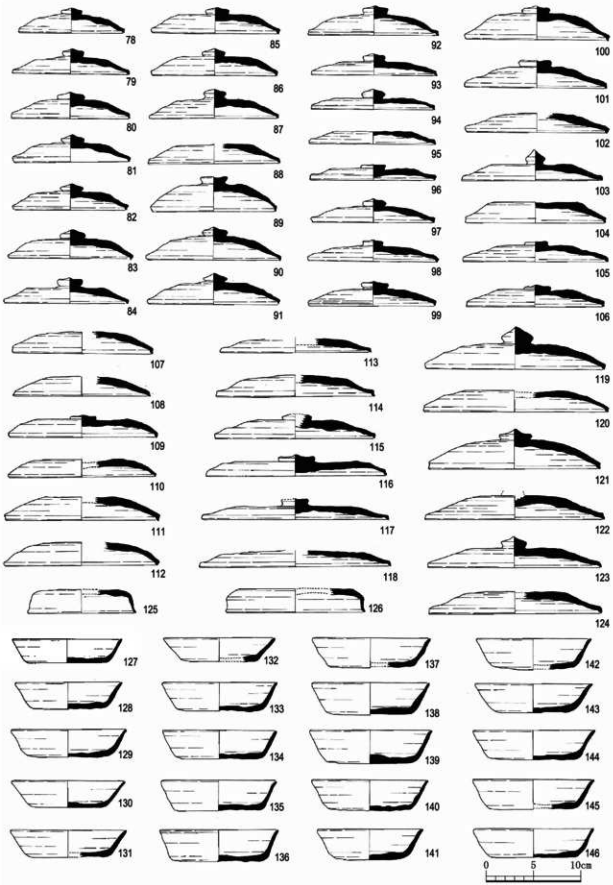
中近世の土器（第31図249～284、第32図285～294）　土師器皿は口径6.0～8.8cm、器高1.0～1.8cmを測るもの(249～265)、口径11.0～12.2m、器高1.8～2.3cmを測るもの(268～272)があり、型押し成形を基本としている。土師器皿251～253、257～259、263・265・269・270・272はB4グリッド西側の調査区壁のX005地点で一括検出し、13世紀前半から中頃の資料と見る。越前焼壺276～280は13世紀代のものであり、276～278は蔵骨器として使用するため意図的に打ち欠いた口縁部の可能性がある。281は14～15世紀代のものと考える。284は集石墓中から出土し、口縁部は欠損し、内部に火葬骨が充填されていた。骨の部位構成に偏りがあり、改葬したものと考える。鉢287・288は底部の形状から13世紀後半代のものと考える。鉢291は鉄釉を漬けガケし、底部にトチンが残る。類例が少なく、時期は17世紀に下ると考える。



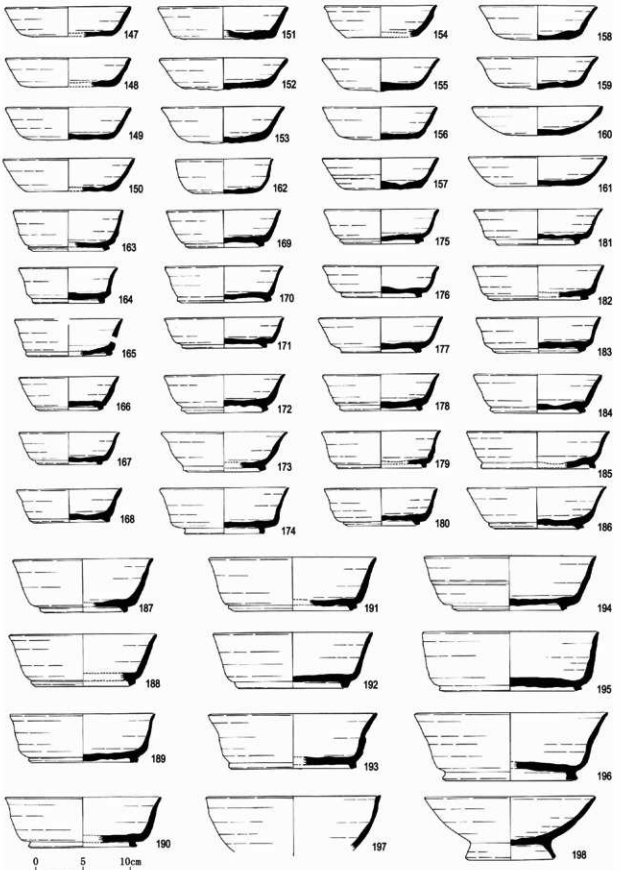
第26図 包含層出土土器（縮尺1/4）



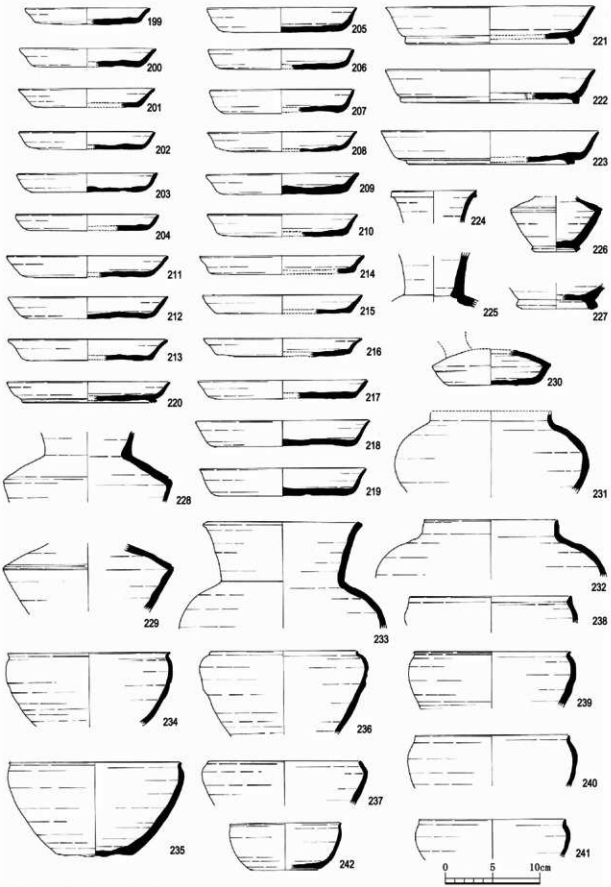
第27図　包含層出土土器（縮尺1/4）



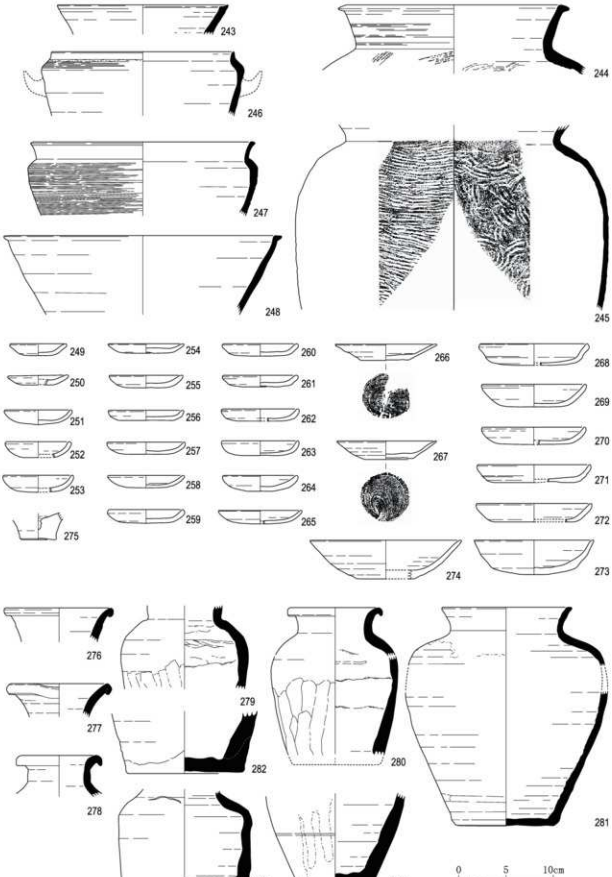
第28図　包含層出土土器（縮尺1/4）



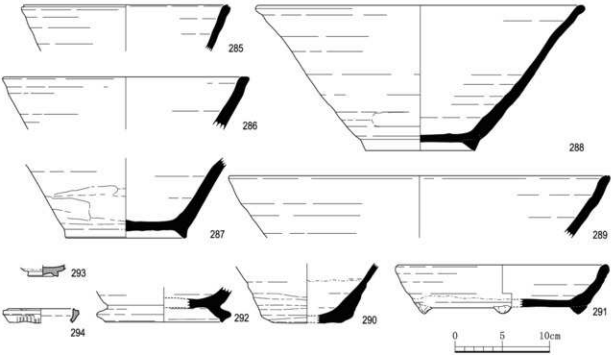
第29図　包含層出土土器（縮尺1/4）



第30図　包含層出土土器（縮尺1/4）



第31図　包含層出土土器（縮尺1/4）



第32図　包含層出土土器（縮尺1/4）

2.遺構出土土器（図版第13～17、第33～38図）

古　墳

1号墳出土土器（図版第15　第33図295）　土師器甕295は口径14.0cmを測る「くの字甕」である。口縁部は短く外反し、口端部部に平坦面をもつ。薄手で硬質であり、時期は漆町15群以降のものと考える。

3号墳出土土器（図版第15　第33図296～303）　高杯296･297は棒状の脚部であり、弥生時代後期前半の法仏式期のものである。甕298･299、鉢300、甕301は漆町4～6群のものと考える。甕301は内傾する口端部に3条の擬凹線を巡らしている。器台302は垂下口縁に6～7条の擬凹線を巡らして円形浮文を3個一単位で配置し、山陰系の影響を受けた法仏式期のものと考える。以上の土器は3号墳石室崩壊時の混入品である。須恵器杯303は3号墳の時期を示す資料であり、口径12.4cm、器高4.0cmを測る。3号墳周溝底面X003地点で検出し、TK10～43期、6世紀中葉から後葉のものと見る。

4号墳出土土器（図版第15　第33図304～306）　壺304は法仏式期の直口壺の混入品であり、内外面をハケ調整し、胴部は裏形になると考える。甕305･306は4号墳の時期を示し、漆町5～7群のものと考える。

5号墳出土土器（図版第15･16　第33図307～325）　須恵器蓋307～312･320･321は口径11.2～13.0cm、器高4.2～4.5cmを測り、天井は回転ヘラケズリをして膨らみをもち、口縁部と天井部の境にやや鈍い段をもつ。口縁部はやや内湾しながら下方へ伸び、口唇部内側が浅く抉れる。須恵器杯313～318･322･323は口径9.4～11.0cm、器高4.6～5.2cmを測り、口縁部は直線状に短く内傾し、蓋と同様、口唇部内側が浅く抉れる。杯313～317･322は口縁部と受部の境に沈線が1条巡り、杯318･322は平滑、もしくは境は不明瞭である。底部は丁寧な回転ヘラケズリを基調として丸みをもつ。時期はTK47期と考える。杯319は、他より大きく口径13.8cm、器高推定5.7cmを測り、MT15期、6世紀前葉のものと見る。杯315･316は5号周溝内X007地点で出土し、315には蓋311、316には蓋312が組となる可能性があるが、312は越前焼に近い赤茶色の焼成であり、同じ窯で焼成されたとは考え難い。杯322･323はX008地点において、322は蓋320、323は蓋321と組みになって出土した。323に充填された赤色顔料は、蛍光X線分析

の結果、S:32.71%、Fe:66.11%、Cu:1.71%の元素構成を成す酸化第二鉄のベンガラであった。壜324は、口縁部下端に突帯状の稜と櫛描き波状文が巡り、TK47期と考える。

竪穴住居

SI1出土土器（第33図326・327）　須恵器杯A326・327はSI1の床面で検出したSK8内の土器であり、SI1の時期を示すと考える。326・327はⅤ2期、9世紀第2四半期のものと考える。

SI4出土土器（第34図358～372）　甕360～362は口径13.0～13.2cmを測る小型品であり、甕363・364は口径18.0cmを測る中型品である。362・363は頸部が強く屈曲し、口縁部下端がヨコ方向に出るのが特徴である。共に住居内の周溝X001地点で検出した。368は有段口縁をもつ高杯、369は口縁部内側に段をもつ器台の受部である。SI4の時期については、X001地点出土の362・363、P48出土の360・361、小型高杯371を重視し、漆町4群と見る。器台369は法仏式期、甕359、壺365、高杯368は漆5・6群に属するものであり、須恵器杯358はⅣ～Ⅴ期のものである。

SI7出土土器（図版第16　第33図328～331）　甕328・329、壺331は胴部外面はタテハケ、内面はヨコ方向のヘラケズリで調整している。331は口径19.0cm、器高32.0cmを測り、SI7のX002地点で検出した。口唇部は平坦面をもち、胴部は中位で最大径をとる。漆町7～8群の時期と考える。

SI8出土土器（図版第17　第35図409～414）　SI8は5号墳周溝により破壊されているため、検出した須恵器は後世の混入品と考える。須恵器杯A409～411は、口径11.9～12.6cm、器高2.7～3.5cmを測り、杯A409はⅤ1期、410・411はⅣ2期のものと考える。鉢413は体部中位に突帯を巡らすものであり、蓋412と組になる杯Bの可能性もある。横瓶414は胴部長29.8cm、径16.5cmを測り、タタキで積み上げた後、内面の当て具痕をカキメで消して、径8cmの粘土板で片面閉塞している。胴部外面全体はカキメで仕上げて口縁部を接合している。これらの須恵器はⅣ2～Ⅴ1期、8世紀代3四半期から9世紀初頭と考える。

堂　跡

SI2出土土器（第34図332～357）　土師器小皿332～356を検出した。内外面は口縁部はヨコナデ、底部はナデで仕上げている。3群に大別され、332～339などの口径7.8～9.0cm、器高1.2～2.1cmを測り、底部が平坦な浅皿状の器形を呈するもの、340～342・344～351などの口径10.2～12.2cm、器高1.2～2.1cmを測り、口縁部中位で外傾し、弱い段をもつもの、352～356などの口径11.0～14.0cm、器高1.9～2.3cmを測り、底部が丸い浅皿状の器形を呈するものが認められる。SI2の時期は示すものはSK20～22出土の土師器皿であるが、これらSI2の覆土に含まれていたものも13世紀代のものであり、SI2廃絶時に西側の墓域から流れ込んだものと考える。

土器集中区

SI6出土土器（図版第16・17　第34図373～391　第35図392～408　第36図420・421）　SI6は竪穴住居を想定していたが、遺構は確認できず、土器集中区と判断した。食膳具が多く、中・大型の貯蔵具が混在する。土師器深鍋408以外、長胴釜などの煮炊具は確認できなかった。須恵器蓋には三種類の法量が存在し、377～379のような口径13.4～14.7cm、器高1.4～3.0cmを測るもの、380・383のような口径16.0～16.8cmを測るもの、381・382・384などの口径18.0～18.6cmを測るものがある。杯Aは385～387のような口径11.8～12.0cm、器高3.3～4.0cmを測る小型化が進んだもの、388・389のような口径13.4～13.6cm、器高3.2～3.3cmを測るものがある。杯B401はⅡ2期、397はⅡ3期、392・394はⅡ2～Ⅲ期、396・398はⅢ～Ⅳ1期、399・400はⅣ2～Ⅴ1期のものと考えられる。鉢406は、胴部内外面中位以上をカキメ、以下を回転ヘラケズリで調整し、407はタタキで成形している。Ⅵ期、10世紀前葉で定型化する器種とされている。

土師器深鍋408は胴部外面はタタキ後、胴部中位以上にカキメを施し、胴部内面は当て具痕をハケで消し、ナデで仕上げている。時期はⅢ～Ⅳ1期と考える。須恵器大甕420は口端部上端を上方へ摘み出し、面長な胴部とやや尖底状の底部をもつ。近隣の越前市山腰遺跡(文2)に類例がある。

掘立柱建物

SB3出土土器（第35図416～419）　須恵器杯B蓋416・417、盤A417は柱穴2で検出した。419は口縁部が短く外反し、胴部上位で肩が張る。時期はⅣ2期と考える。

土坑・土坑墓

SK1・3出土土器（第37図422～423）　SK1出土の土師器甕422は漆町15群の時期と考える。SK3出土の須恵器蓋423は口径9.4cmを測る小型品であり、杯424は椀形を指向し、底部は回転ヘラ切り未調整である。時期はTK209期であるが、SK3に混入した遺物と考える。

SK6出土土器(図版第17　第37図425～427)　須恵器角付盌425、高杯426、土師器427を検出した。425は口径8.0cm、器高9.1cmを測り、下膨れ気味の体部下位に亀頭状に反り上がる角状の把手が付く。把手の先端に径3mm、深さ2cmの円形穿孔がされている。体部中位に2条の条線を巡らし、櫛描き波状文を口縁部と条線間に施し、体部下位は回転ヘラケズリで調整され、丸底に仕上げられている。426は脚部に2段3方向の筋状透孔を設けている。時期はTK43～209期、6世紀後葉と考える。

SK25出土土器(図版第18　第38図459～463)　462は台付き鉢の可能性も指摘できたが、高台状のツマミが付く特殊三重蓋とした。天井部には浅い凹線が2条巡り、描い斜行刻目文が上下2段に巡る。蓋を三重に重ねた器形を意図して製作したと考える。463は台付き長頸壺の完形品である。扁球形の胴部に長頸の口縁部と有段の脚部が付き、胴部と脚部はカキメで仕上げている。時期はTK10～43期と考える。461は蓋としたが小型の高杯の可能性もある。460は法仏式期の高杯であり、12・20・492と同種のものである。

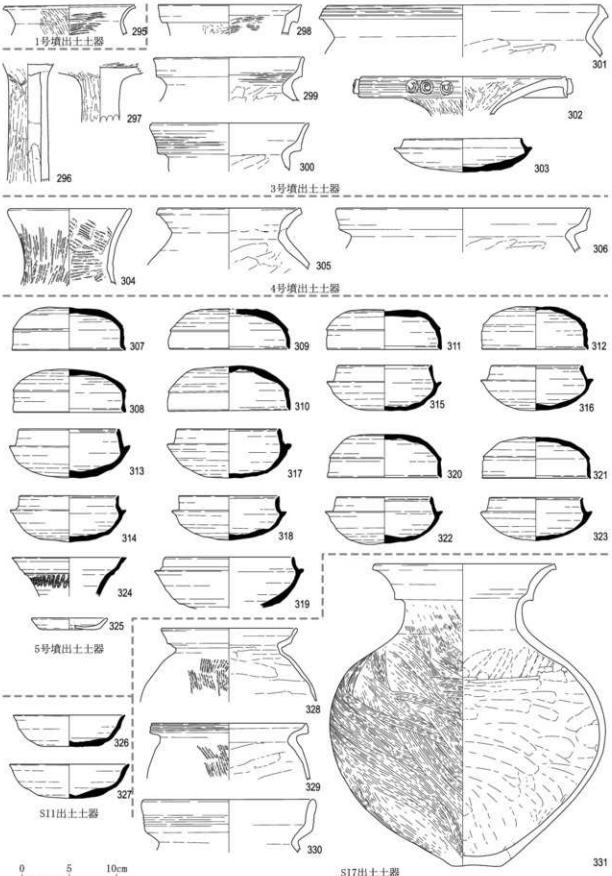
SK34・36出土土器（図版第18　第38図464～472、473～475）　SK34出土の土師器皿464～469は小型品であり、口径8.0～9.0cm、器高1.0～1.7cmを測り、時期は13世紀前半から中頃と考える。須恵器無蓋高杯472は口径14.4cm、器高推定9.5cmを測り、杯部口縁中位に突帯が2条巡り、突帯間中位に櫛描き波状文、下位に斜行列点文が巡る。脚部の長方形透孔は5方向と推定する。時期はTK208期、5世紀中葉と想定され、5号墳周溝に副葬された須恵器の混入品である可能性が高い。土師器皿473～475はSK36に副葬した土器であり、いずれも片口状に歪み、SK34の土師器皿と同時期と考える。

SK20～22出土土器（図版第17　第37図428～449　第38図453～458）　SK20～22出土土器はSI2の時期を示す。SK20出土の土師器小皿は、428～430・437などの口径8.0cm前後を測るものを少数含むが、大半が431～436・438～446などの口径12.0cm前後を測り、口縁部中位に稜や段をもつものが占める。13世紀前半から中頃の一括資料である。SK21・22出土の土師器皿453～458も同時期のものと見る。

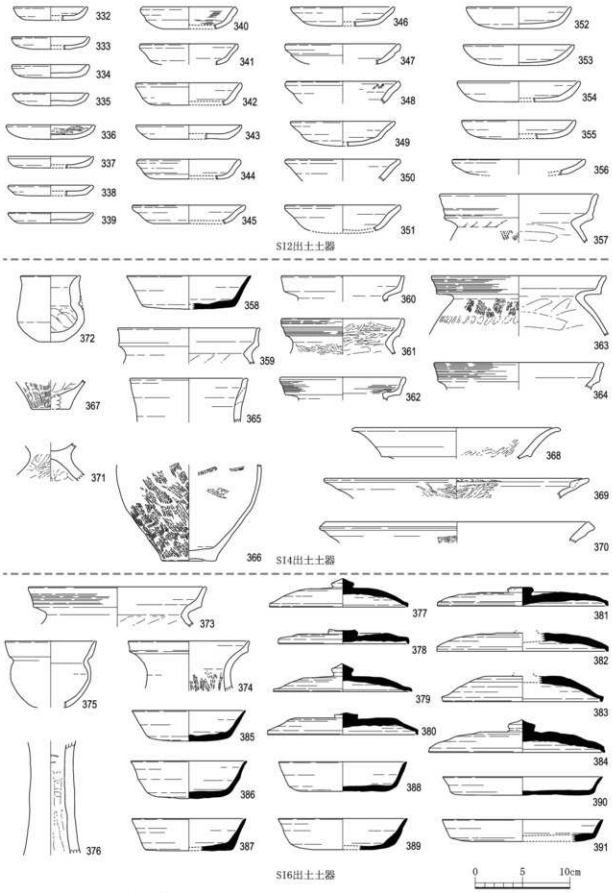
SK35出土土器（図版第17　第37図450～452）　越前焼大甕452は口径75.0cm、器高79.0cm、最大径88.8cmを測る。輪積み成形を基調として、外面にヘラナデ、内面にユビ押さえの調整痕が明瞭に残る。肩部には「奉」と「縦横4マスの格子文」を組合わせたスタンプ文を14個巡らし、5条の平行刻目文が1単位刻まれている。時期は15世紀前半と考える。古瀬戸香炉451は淡緑色の灰釉が漬けガケされ、優品に見えるが、底部にトチンの一部が付着している。

小　穴

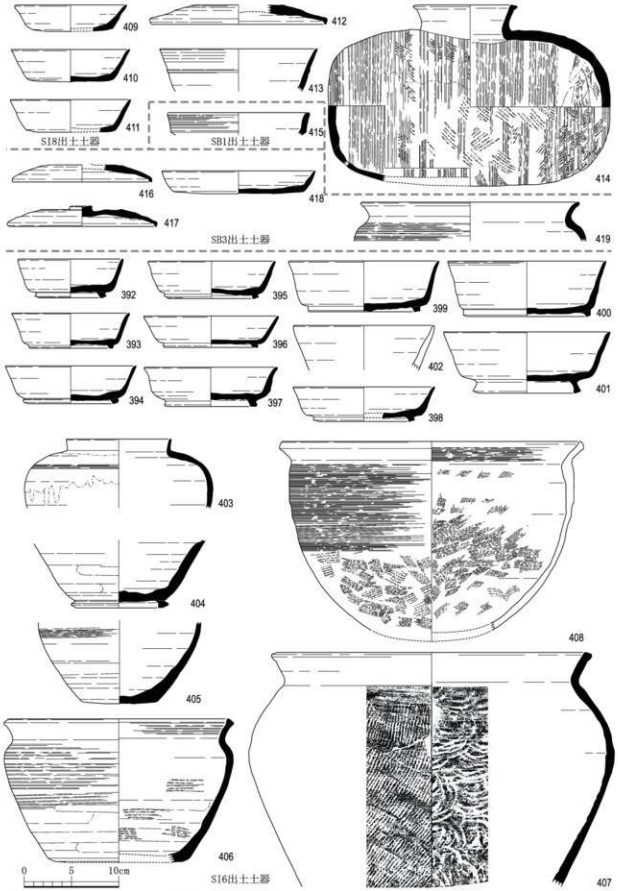
P110出土土器（図版第18　第38図484・485）　須恵器蓋484は口径18.4cm、器高2.7cmを測る完形品である。時期はⅢ～Ⅳ1期、8世紀中葉と見る。蓋485は破片で検出した。



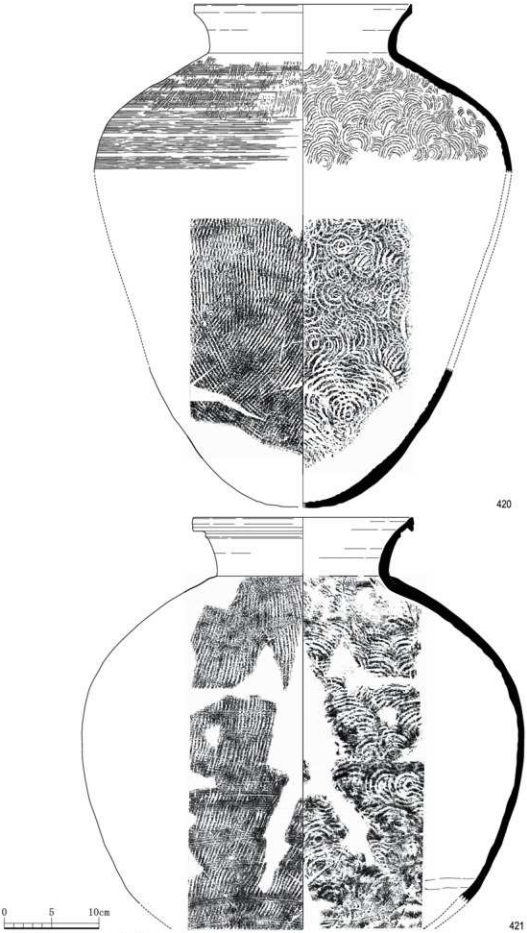
第33図　1·3～5号墳、SI1·7出土土器（縮尺1/4）



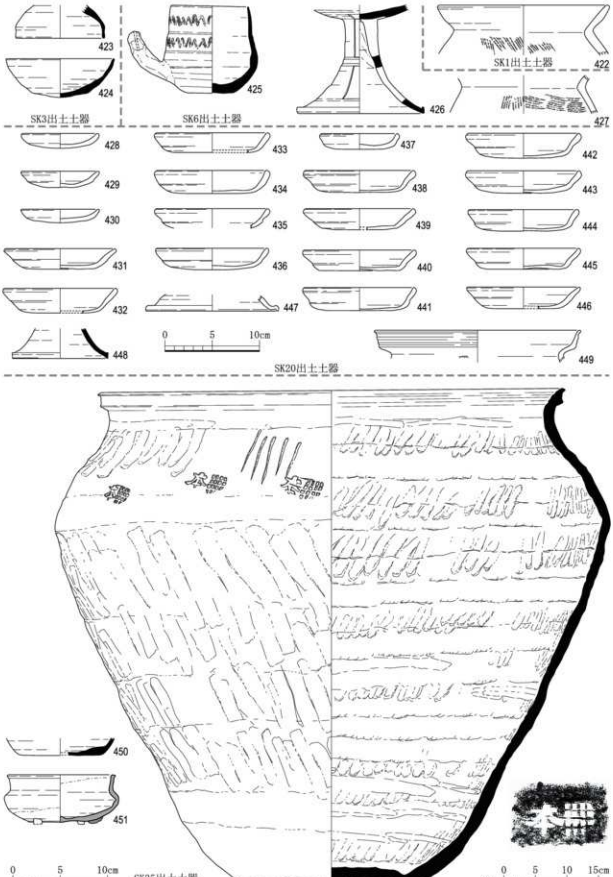
第34図　SI2･4･6出土土器（縮尺1/4）



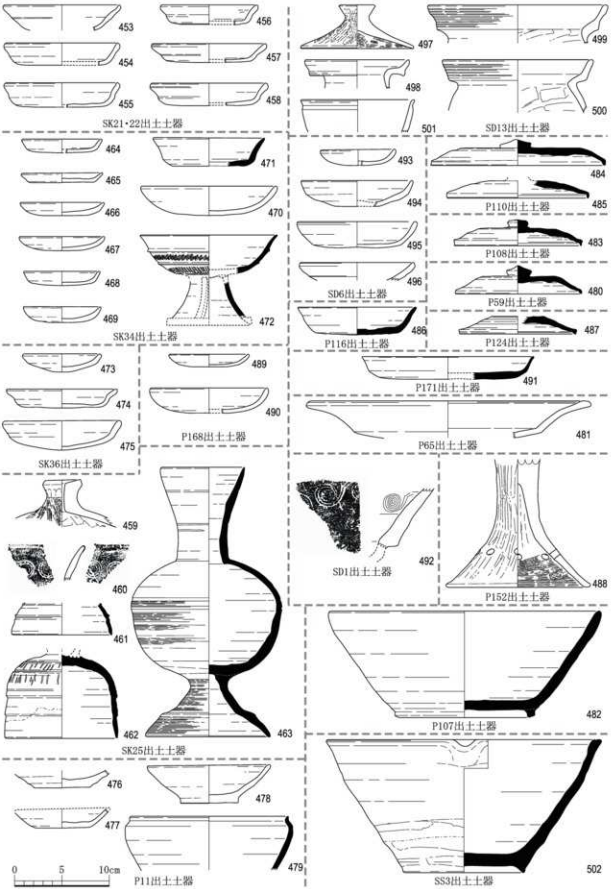
第35図　SI6･8、SB1･3出土土器（縮尺1/4）



第36図　SI6出土土器（縮尺1/4）



第37図　SK1・3・6・20・35出土土器（縮尺1/4、1/6）



第38図　SK20～22・25・34・36、P11・58・59・65・107・108・110・116・124・152・168・171、SD1・6・13、SS3出土土器(縮尺1/4)

3. 墨書土器（図版第18　第39図　第２表）

墨書土器は須恵器1～10がある。1･2は杯Ｂ蓋であり、1は天井部内面中央に「□万」らしき人名が見える。2は天井部内面中央に「矢」もしくは「天」に近い字形の墨書があるが判然としない。時期はⅣ2～Ⅴ期と考える。

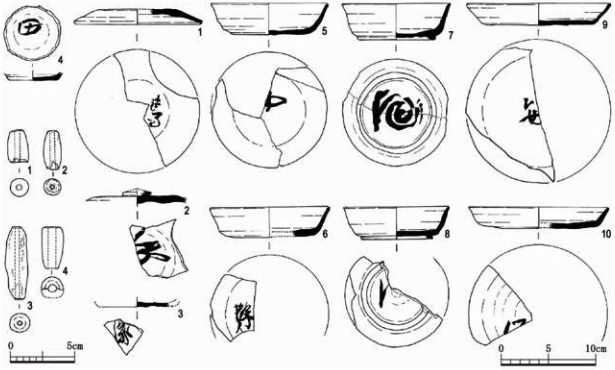
3～6は杯Ａである。3は底部外面中央に「家」の墨書が認められる。4は杯Ａの底部片であるが、口縁部のみを意図的に欠いて円盤状にしており、儀礼的な背景が示唆される。底部内面中央に「田」の墨書が確認できる。5は底部外面中央に一文字のみを墨書しているが、字体の判別はできない。6は底部外面縁辺に一文字の墨書があるが判読できない。3～6の時期は、口径、器高の縮小化、口縁部の外傾化が進んでおり、Ⅳ2～Ⅴ期と考える。

7･8は杯Ｂである。7は底部外面全体に文字ではなく、祭文のような渦巻き状の文様を描いている。8は底部外面にサンズイのような墨書が見えるが、7の文様と共通するようにも見え、両者は儀礼に使用した可能性も考えられる。時期はⅣ2～Ⅴ期と考える。

9･10は盤Ａである。9は底部外面中央に二文字の墨書があり、半身が欠けているため断定はできないが、「□女」と推定する。10は底部外面中央からやや離れた位置に、漢字一文字の墨書が残るが、残存率が低く判別はできない。9･10の時期はⅤ2期と考える。

4. 土　錘（第39図　第３表）

土錘は4点を図化した。いずれも形状は棗形であり、両端面に平坦面はなく、棒巻き手捏ね技法で成形した小型品である。全て包含層から検出した。1･4は欠損しているが、本来の大きさは全長6.0㎝前後、幅1.8㎝前後、重量14ｇ前後を測り、3と同じ大きさのものと考える。2･3はほぼ完形品であり、2は、3の1/2の大きさである。形状から時期は奈良･平安時代のものと考える。天王川に近接しているとは言え、山林中腹で検出したこれらの漁網の錘は、墨書土器同様、祭祀具の可能性もある。



第39図　墨書土器（縮尺1/4）･土錘（縮尺1/3）

5. 縄文土器（図版第18　第40図　第2表）

縄文土器は、すべて破片であり、コンテナ1箱分出土した。縄文時代早期から晩期にかけての土器がある。包含層と遺構から出土しているが、分布は、C5･6グリッドとD5･6グリッドに偏在する傾向が認められる。

1は早期中葉の押型文土器である。横位の山形文を施す。内面はナデ調整である。器壁は薄く、胎土に微細な砂粒を多く含む。

2は前期末の大歳山式に比定する。波状口縁を呈す。口縁部外面下方の粘土接合部に「Σ字状刺突」に類似する押し引き文を施す。やや肥厚する口唇部は、外面を無文とするが、内面には半裁竹管状工具の一端を用いた直線的な刻目を施す。口縁部内面下方に段を有し、段の上方を縄文帯とする。縄文は内外面ともにRLを施す。

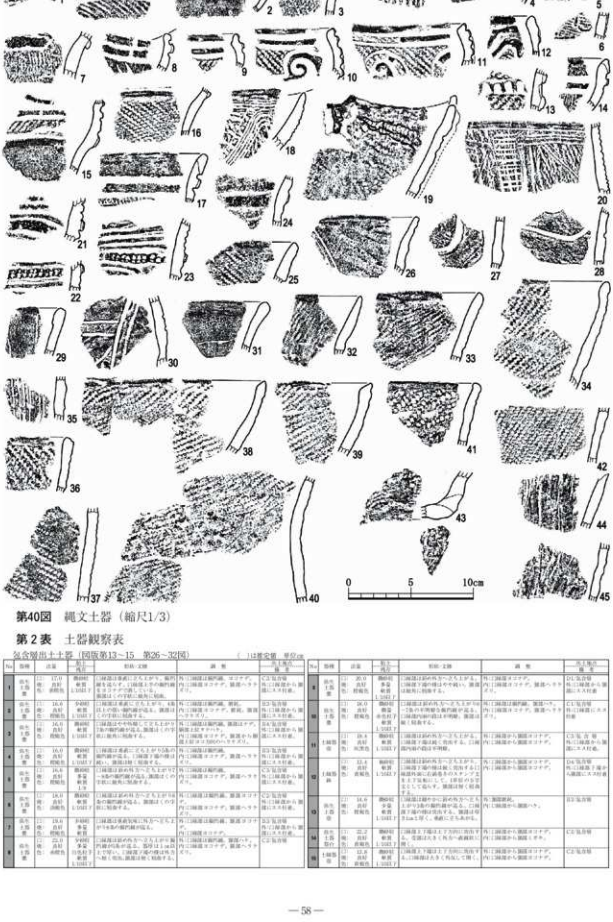
3･4は中期前葉の船元Ⅲ式に比定する。3は隆帯上に半裁竹管文を施す。地文縄文はRLを施す。4は口縁部に半裁竹管状工具による弧線文を配す。口縁部内面に幅の狭い縄文帯を配す。縄文は内外面ともにRLを施し、外面は縦位縄文となる。

5～26は中期後半に属す土器群である。5･6は同一個体である。ソウメン状貼付隆帯のみで文様を描出する。縄文はLRを施す。7は口縁部下端に区画隆帯を配す。地文は縦位撚糸文rを施す。8は「片粕沈線文系土器」である。波状口縁を呈す。口唇部の形態と文様が9～11に類似し、口縁部にヘラ状工具による鋸歯状文を施す。9～11･15･16は大木8b式、または加曽利EⅡ式に類似する。10･11は同一個体である。9～12･14～16は隆帯と側縁沈線、12は隆帯のみで文様を描出する。15は頸部無文帯を配す。地文には縄文LR(9･12･15･16)、縄文RLR(10･11)と縦位撚糸文r(14)がある。17は肥厚する口唇部を無文部とする。地文には粗い撚糸文lを施す。18は櫛状工具による曲線文を施す。19は波状口縁を呈し、波頂部が「U」字状に凹む。縄文を施す隆帯のみで文様を描出し、波頂部に連結させて、二条一対の垂下文と口縁形に沿った波状文を配す。縄文はLRを施す。20は半隆起線文により区画文などの文様を描出する。幅の狭い区画文内には格子文を密に施し、幅の広い区画文内には斜行文をまばらに施している。地文には縦位撚糸文lを施す。21～23は古府式に併行する土器である。基軸隆帯と半隆起線文で文様を描出する。基軸隆帯上には21･22は櫛歯状工具による刺突文、23は先端が平らな二股工具による刺突文を施す。13は「古串田新式」に併行する土器である。口縁部の横位隆帯区画文内に刺突文を施す。隆帯上には縄文RLRを施す。24は幅が広く、背の低い隆帯と側縁の浅い沈線で文様を描出する。25･26は口頸部境に段をもつ。25は肥厚する口縁部直下に横走沈線が認められる。口縁部から縦位帯縄文LRを施す。26は櫛描状工具による鋸歯状文を施す。

27･28は同一個体であり、後期初頭の中津式に比定する。27は縄文が区画内外ともに無施文であるが、28は磨消縄文LRを施す。

29･30は後期前葉に属す土器である。沈線による幅の狭い区画文を有する。いずれも縄文は施さない。

31～45は無文土器として一括した。31は内外面ともに研磨する。32は地文に縦位撚糸文l、35は縦位櫛描集合沈線文を施す。33･34･36～43は地文に縄文を施す土器であり、38～40は同一個体である。縄文には縦位帯縄文LR(37)、RLR(42)、LR(33･34･38～41･43)、RL(36)がある。43は底面に網代跡が残る。44･45は板状工具による縦位条痕を施す。これら無文土器の時期は器形、調整、地文、胎土の特徴から、31は後期、32～43は中期後葉、35･37は中期後葉に属すと考える。44･45は晩期後葉の糞置式である。



第40図　縄文土器（縮尺1/3）

第２表　土器観察表

弘含城出土土器（図版第13～15　第26～32図）　（　）は推定値　単位cm

No.	遺構	出土	取上年月日	器種	形態・文様	調整	胎土・焼成・色調	備考
1	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、幅約3cmの平坦な面をなすように、口縁部下の部分に1条の沈線とその下に1条の沈線が巡る。	内：口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
2	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、4条以上の細い沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
3	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、4条以上の細い沈線が巡る。頸部は2条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部にスス付着	
4	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は中央部にうちとられ、7条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
5	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
6	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。口縁部下端の部分に1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
7	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
8	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
9	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
10	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部にスス付着	
11	土器溜り	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。口縁部下端の部分に1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
12	土器溜り	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。口縁部下端の部分に1条の沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着	
13	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
14	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
15	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
16	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
17	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
18	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
19	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
20	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
21	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
22	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
23	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
24	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
25	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
26	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
27	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
28	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
29	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
30	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
31	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
32	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
33	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
34	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
35	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
36	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
37	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
38	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
39	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
40	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
41	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
42	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
43	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
44	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	
45	弘含城跡	二ノ丸	16.6	鉢	口縁部は重厚にうちとられ、2条の細沈線が巡る。頸部は1条の沈線が巡る。	口縁部は横ナデ、頸部ヘラケズリ。	石英含む 外：口縁部から頸部にスス付着。	

No.	器種	法量	胎土・焼成・残存	形態・文様	調整	出土地点・備考
16	弥生土器 壺	口: 13.8 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
17	弥生土器 壺	口: 14.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
18	弥生土器 壺	口: 12.2 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
19	弥生土器 壺	口: 12.4 焼: 良好 色: [illegible]	微砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
20	弥生土器 壺	口: 12.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
21	弥生土器 甕	底: 3.8 焼: 良好 色: 橙褐色	少砂粒 軟質 1/10以下	[illegible]	[illegible]	[illegible]
22	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
23	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
24	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
25	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
26	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
27	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
28	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
29	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
30	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
31	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
32	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
33	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
34	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
35	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
36	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
37	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
38	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
39	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
40	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
41	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
42	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
43	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
44	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
45	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
46	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
47	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
48	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
49	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
50	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
51	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
52	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
53	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
54	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
55	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
56	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
57	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
58	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
59	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
60	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
61	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
62	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
63	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
64	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
65	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
66	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
67	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
68	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
69	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
70	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
71	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
72	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
73	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
74	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
75	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
76	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
77	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
78	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
79	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
80	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

No.	器種	法量	形状	形状・文様	調　整		出土地点
			胎土		内面	外面	
92	須恵器 坏B蓋	(口)12.2 (高)2.0 (底)9.0 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。口縁部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区 中央区
93	須恵器 坏B蓋	(口)12.6 (高)2.8 (底)9.0 (残)40%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。口縁部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 東区
94	須恵器 坏B蓋	(口)15.4 (高)3.1 (底)9.8 (残)40%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
95	須恵器 坏B蓋	(口)15.4 (高)3.1 (底)9.8 (残)40%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
96	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
97	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
98	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
99	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
100	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
101	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
102	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
103	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
104	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
105	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
106	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
107	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
108	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
109	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
110	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
111	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
112	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
113	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
114	須恵器 坏B蓋	(口)15.4 (高)3.3 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
115	須恵器 坏B蓋	(口)15.1 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
116	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
117	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
118	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
119	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
120	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
121	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
122	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
123	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
124	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
125	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
126	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
127	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
128	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
129	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
130	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
131	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
132	須恵器 坏B蓋	(口)15.4 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
133	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
134	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
135	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
136	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
137	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
138	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
139	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
140	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
141	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
142	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
143	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
144	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
145	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
146	須恵器 坏B蓋	(口)15.4 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
147	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
148	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
149	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
150	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
151	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
152	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
153	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
154	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
155	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区
156	須恵器 坏B蓋	(口)15.2 (高)3.1 (底)9.8 (残)30%	赤褐色 白色粒子 黒色粒	天井部中央付平坦。口縁部立ち上がり内傾一稜出し。丸くなる。端部は浅く作る。端部丸味つく。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	内：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。	(12)包含層 中央区

No.	器種	法量	胎土 焼成 色調	形態・文様	調 整	出土地点 備 考
156	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰白色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。口縁部は第一と第二の段の間に1条の凹線がめぐる。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ハケ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層
157	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.1 (器) 9.6 (残) 3/4	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 内:炭化物
158	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.0 (器) 9.5 (残) 3/4	赤褐色 白色砂土 良好 黒色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層 内:口縁部焼き り
159	弥生型甕	(口) 12.7 (底) 5.0 (器) 9.0 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 淡黄褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層 内:口縁部焼き り 外:煤付
160	弥生型甕	(口) 12.3 (底) 5.3 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
161	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層 外:口縁部焼き り 内:煤付
162	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
163	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層 外:口縁部焼き り 内:煤付
164	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
165	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
166	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
167	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
168	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
169	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	D2 包含層 外:口縁部焼き り 内:煤付
170	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
171	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
172	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
173	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
174	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
175	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
176	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
177	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
178	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
179	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
180	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
181	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
182	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
183	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
184	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
185	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
186	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
187	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
188	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
189	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
190	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
191	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
192	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
193	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
194	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
195	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
196	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
197	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
198	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
199	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
200	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
201	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
202	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
203	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
204	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
205	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
206	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
207	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
208	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
209	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
210	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
211	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
212	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
213	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
214	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
215	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
216	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
217	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
218	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
219	弥生型甕	(口) 12.2 (底) 5.2 (器) 9.1 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り
220	弥生型甕	(口) 12.4 (底) 5.4 (器) 9.4 (残) 1/2	赤褐色 白色砂土 良好 灰褐色	口縁部は直線的に開き外方に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。頸部は不明瞭。胴部は直線的に開く。シャープな仕上げ。	外:口縁部横ナデ、底部横ヘラ削り。内:横ナデ、胴部は斜横ハケ。	C2 包含層 外:口縁部焼き り

No.	器種	法量	胎土/焼成	形状・文様	調整	出土地点/備考
189	須恵器 杯B	口:16.4 高:5.4 底:11.0 焼:良好 色:灰黒色	[illegible] 白色粒子 1/8	[illegible]	[illegible]	D3/包含層 外:降灰
190	須恵器 杯B	口:17.6 高:6.7 底:12.0 焼:やや不良 色:暗灰色	[illegible] 白色粒子 多量 1/2	[illegible]	[illegible]	D3/包含層 C3/包含層
191	須恵器 杯B	口:16.6 高:6.0 底:11.6 焼:良好 色:明灰色	[illegible] 白色粒子 2/3	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
192	須恵器 杯B	口:17.8 高:5.9 底:12.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 1/2	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
193	須恵器 杯B	口:18.0 高:5.9 底:11.0 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子 1/2	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
194	須恵器 杯B	口:18.2 高:6.3 底:13.6 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 1/2	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層 D5/包含層
195	須恵器 杯B	口:20.4 高:7.3 底:13.6 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子 多量 1/4	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層 C2/包含層
196	須恵器 杯B	高:18.2 焼:良好 色:灰褐色	[illegible]	[illegible]	[illegible]	B4/包含層
197	須恵器 杯B	口:18.0 高:6.7 底:9.0 焼:やや不良 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 多量 5/6	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
198	須恵器 杯A	口:13.2 高:3.8 底:9.4 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 1/10	[illegible]	[illegible]	B5/包含層
199	須恵器 杯A	口:14.4 高:2.0 底:11.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層
200	須恵器 杯A	口:14.4 高:2.0 底:10.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層
201	須恵器 杯A	口:14.4 高:2.0 底:10.0 焼:良好 色:明灰色	[illegible] 白色粒子 1/2	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
202	須恵器 杯A	口:14.0 高:2.0 底:11.0 焼:良好 色:明褐色	[illegible] 白色粒子 多量 2/3	[illegible]	[illegible]	C2/包含層 外:降灰
203	須恵器 杯A	口:15.2 高:1.8 底:12.0 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子 1/6	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層
204	須恵器 杯A	口:15.6 高:2.6 底:12.0 焼:不良 色:淡橙色	[illegible] 白色粒子 多量 1/2	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
205	須恵器 杯A	口:15.4 高:2.2 底:12.4 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
206	須恵器 杯A	口:15.0 高:2.5 底:12.0 焼:不良 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 1/6	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
207	須恵器 杯A	口:15.8 高:2.2 底:10.0 焼:良好 色:淡灰色	[illegible] 白色粒子 1/5	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
208	須恵器 杯A	口:16.0 高:2.2 底:12.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	D2·3/包含層
209	須恵器 杯A	口:16.0 高:2.0 底:12.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 1/3	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
210	須恵器 杯A	口:17.0 高:2.4 底:11.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	D2·D3/包含層
211	須恵器 杯A	口:16.8 高:2.2 底:12.6 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子 1/2	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
212	須恵器 杯A	口:16.8 高:2.2 底:13.4 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/5	[illegible]	[illegible]	B4/包含層
213	須恵器 杯A	口:17.2 高:2.0 底:15.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	D2·3/トレンチ
214	須恵器 杯A	口:16.8 高:2.0 底:14.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 1/5	[illegible]	[illegible]	B4/包含層
215	須恵器 杯A	口:16.6 高:2.0 底:14.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/6	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
216	須恵器 杯A	口:17.8 高:2.0 底:14.0 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 1/5	[illegible]	[illegible]	D2·3/トレンチ
217	須恵器 杯A	口:18.3 高:2.8 底:14.2 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 多量 1/2	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
218	須恵器 杯A	口:17.4 高:3.0 底:13.4 焼:不良 色:淡黄灰色	[illegible] 1/3	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
219	須恵器 杯A	口:17.2 高:2.3 底:14.0 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 1/3	[illegible]	[illegible]	B2/包含層
220	須恵器 杯A	口:22.2 高:4.0 底:17.6 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
221	須恵器 杯A	口:22.0 高:3.6 底:18.6 焼:やや不良 色:灰色	[illegible] 白色粒子 1/4	[illegible]	[illegible]	C1·2/包含層
222	須恵器 杯A	口:25.0 高:3.6 底:17.2 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 多量 2/3	[illegible]	[illegible]	C1·2/包含層
223	須恵器 長頸瓶	高:9.0 焼:良好 色:灰白色	[illegible]	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
224	須恵器 長頸瓶	高:6.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
225	須恵器 長頸瓶	高:9.6 底:4.4 焼:良好 色:灰色	[illegible] 1/3	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
226	須恵器 長頸瓶	高:7.0 焼:不良 色:灰白色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	B4/包含層
227	須恵器 長頸瓶	高:11.0 焼:やや不良 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 多量	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
228	須恵器 長頸瓶	高:18.1 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
229	須恵器 平瓶	高:(3.7) 底:12.4 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
230	須恵器 [illegible]	高:(12.8) 底:20.7 焼:良好 色:灰黒色	[illegible] 白色粒子 1/6	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
231	須恵器 [illegible]	口:14.0 高:24.2 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
232	須恵器 広口壺	口:16.0 高:25.8 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
233	須恵器 広口壺	口:17.2 高:17.6 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 白色粒子 多量 1/10	[illegible]	[illegible]	試掘/包含層
234	須恵器 広口壺	口:18.2 高:10.0 底:8.0 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子 4/5	[illegible]	[illegible]	C2/包含層 D3/包含層
235	須恵器 広口壺	口:15.5 高:17.7 焼:不良 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子 1/8	[illegible]	[illegible]	D3/包含層
236	須恵器 広口壺	口:16.0 高:12.7 焼:良好 色:灰褐色	[illegible] 1/8	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
237	須恵器 広口壺	口:17.0 高:16.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C1·2/包含層
238	須恵器 広口壺	口:16.4 高:12.7 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 多量	[illegible]	[illegible]	C1·2/包含層
239	須恵器 広口壺	口:16.0 高:16.0 焼:良好 色:灰色	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C1/包含層
240	須恵器 広口壺	口:15.4 高:16.5 焼:良好 色:灰黒色	[illegible]	[illegible]	[illegible]	B2·3/包含層
241	須恵器 広口壺	口:11.6 高:4.9 底:7.0 焼:やや不良 色:淡茶色	[illegible] 白色粒子 1/3	[illegible]	[illegible]	B4/包含層
242	須恵器 甕	高:30.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	C2/包含層
243	須恵器 甕	高:25.0 焼:良好 色:[illegible]	[illegible] 白色粒子	[illegible]	[illegible]	B1·2/包含層 C1·2/包含層
244	須恵器 甕	高:20.0 焼:良好 色:灰白色	[illegible] 白色粒子 多量 1/8	[illegible]	[illegible]	C4/包含層 D3/包含層

No.	器種	法量	胎土/残存	形状・文様	調整	出土地点/備考
246	須恵器 杯	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
247	須恵器 [illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
248	須恵器 [illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
249	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
250	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
251	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
252	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
253	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
254	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
255	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
256	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
257	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
258	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
259	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
260	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
261	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
262	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
263	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
264	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
265	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
266	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
267	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
268	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
269	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
270	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
271	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
272	土師器 小皿	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
273	土師器 杯	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
274	土師器 [illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
275	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
276	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
277	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
278	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
279	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
280	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
281	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
282	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
283	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
284	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
285	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
286	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
287	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
288	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
289	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
290	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
291	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
292	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
293	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
294	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

遺構出土土器（図版第15～18　第33～38図）

古墳（図版第15･16　第33図）

（　）は推定値　単位cm

No.	器種	法量	胎土/残存	形状・文様	調整	出土地点/備考
295	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
296	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
297	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
298	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
299	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
300	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
301	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
302	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
303	須恵器 杯	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

No.	器種	法量	胎土/残存	形状・文様	調整	出土地点/備考
304	弥生土器 壺	口: 13.0 焼: 良好 色: [illegible]	微砂粒 赤色粒子 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部は緩やかに外反して上方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。	外:口縁部ヨコナデ、口縁部ナデハケ。内:口縁部ヨコナデ、口縁部ヨコハケ。	[illegible]
305	土師器 甕	口: 15.0 焼: 良好 色: [illegible]	[illegible] 赤色粒子 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部は短く外反して立ち上がる。[illegible]	外:ヨコナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部粗いヘラケズリ。	[illegible]
306	土師器 甕	口: 20.8 焼: 良好 色: [illegible]	[illegible] 赤色粒子 軟質 1/10以下	[illegible]	外:ヨコナデ。内:口縁部ヨコナデ、胴部粗いヘラケズリ。	[illegible]
307	須恵器 蓋	口: 11.8 高: 4.5 天: 8.6 焼: 良好 色: [illegible]	[illegible] 白色粒子 [illegible] 完形	天井部は膨らむ。[illegible] シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ、[illegible] 内:回転ナデ、[illegible]	[illegible]
308	須恵器 蓋	口: 11.8 高: 4.5 [illegible]	[illegible]	天井部は膨らむ。[illegible]	外:天井部回転ヘラケズリ、[illegible]	[illegible]
309–325	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

竪穴住居・堂跡・土器集中区（図版第16～17 第33～35図） （ ）は推定値 単位cm

No.	器種	法量	胎土/残存	形状・文様	調整	出土地点/備考
326–329	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

No.	器種	法量	胎土/残存	形状・文様	調整	出土地点/備考
330–358	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第1節 土 器

No.	器種	法量	粘土	焼成・文様	調 整		出土地点
			胎土	色調	内面	外面	
267	土師器 甕	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C5 SB1	
268	赤ろく 土器 甕	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4?#8 外:スス付着	
269	赤ろく 土器 甕	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4?#9 外:スス付着	
270	赤ろく 土器 甕	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4?#10	
271	赤ろく 土器 甕	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。胴部中位で張り出す。上位に円孔2箇所あり。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4?#11 外:スス付着	
272	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 長石 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端はやや丸味をもつ。口縁部上端が凹む。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 外:スス付着	
273	土師器 鍋(小型)	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。 橙色	内:口縁部ヨコナデ。 外:口縁部ヨコナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
274	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。 橙色	内:口縁部ヨコナデ。 外:口縁部ヨコナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
275	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
276	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
277	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
278	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
279	赤ろく 土器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
280	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
281	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
282	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
283	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
284	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
285	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
286	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
287	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
288	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
289	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
290	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
291	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
292	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
293	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
294	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
295	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
296	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
297	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
298	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
299	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
300	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
301	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
302	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
303	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
304	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
305	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
306	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
307	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
308	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
309	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
310	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
311	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
312	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
313	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
314	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
315	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
316	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
317	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
318	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
319	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
320	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
321	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
322	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
323	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
324	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
325	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
326	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
327	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
328	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
329	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
330	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
331	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
332	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
333	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
334	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
335	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	
336	土師器 鍋	口:[illegible] 胴:[illegible] 底:[illegible]	微砂粒 赤色粒 1/10?	【須恵器系】口縁部は直線に開き立ち上がり、口縁端は丸味をもつ。胴部は球形。 橙色	内:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目ナデ。	C4 SB4 内外:スス付着	

堀之枝遺物・土器集中区出土土器（図版第17 第35・36図）

（ ）は推定値 単位cm

図版	番号	出土区	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	形状・文様	調 整	色調	胎土	備考
図版第35図	1	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	4	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	5	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	6	16-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第36図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第37図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第38図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第39図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第40図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第41図	1	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	3	15-Z-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、外：口縁部横撫ナデ、底部横撫ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白3%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着

土坑・土坑墓出土土器（図版第17-18 第37・38図）

（ ）は推定値 単位cm

図版	番号	出土区	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	形状・文様	調 整	色調	胎土	備考
図版第37図	1	10-D-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	10-D-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第38図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第39図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第40図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第41図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第42図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第43図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第44図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第45図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第46図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第47図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第48図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第49図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第50図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第51図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
図版第52図	1	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：口縁部横撫ナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着
	2	5-K-6	鉢	18.0	8.0	8.0	口縁部は直線的に開き、口縁端部は平坦面をもつ。	内：横撫、外：横撫、	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ、	白5%以下	口縁内面にタール状の黒色物付着

No.	器種	法量	胎土 残存	形状・文様	調　整	出土地点 備　考
466	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.4 底: 5.6 焼: 良好 色: 浅橙色	微砂粒 赤色粒子 軟質 完形	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は平坦。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D3/SK34
467	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.5 底: 6.0 焼: 良好 色: 赤橙色	微砂粒 赤色粒子 軟質 完形	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D3/SK34
468	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.5 底: 6.0 焼: 良好 色: 灰褐色	微砂粒 軟質 完形	口縁部はやや内湾して短く立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D3/SK34
469	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.7 底: 6.2 焼: 良好 色: 浅橙色	微砂粒 赤色粒子 軟質 完形	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D3/SK34 片口状に歪む
470	土師器 小皿	口: 11.4 高: 3.1 底: 8.4 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 赤色粒子 軟質 完形	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D3/SK34 片口状にやや歪む
471	須恵器 杯A	口: 11.8 高: 3.2 底: 7.4 焼: 良好 色: 灰褐色	微砂粒 緻密 1/10以下	口縁部は外反して立ち上がり開く。底部は平坦。底部中央欠損。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後未調整。 内:回転ナデ。回転右回転。	D3/SK34
472	須恵器 高杯	口: 18.4 高: (9.5) 底: (9.0) 焼: 良好 色: 暗灰色	微砂粒 緻密 1/5	口縁部は緩やかに内湾して外方に立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。口縁部中位に沈線が2条巡り、口縁部中位に櫛描き波状文。口縁部下位に斜行列点文が巡る。脚部は「ハ」の字に下方へ開き、長方形透孔は3方向と推定。シャープな仕上げ。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。 内:回転ナデ。	D3/SK34 D2/包含層 脚部・自然釉 外:摩耗 内:摩耗
473	土師器 小皿	口: 8.3 高: 1.9 底: 4.3 焼: 良好 色: 灰黄色	微砂粒 軟質 2/3	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁部でやや外傾する。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	C2/SK36 片口状に歪む
474	土師器 小皿	口: 11.7 高: 2.0 底: 8.7 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒[illegible] 軟質 完形	口縁部は内湾して立ち上がり、口縁部中位で外傾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は平坦。指押し成形。	外:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	C2/SK36 片口状に歪む
475	土師器 小皿	口: 12.6 高: 3.1 底: 9.6 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 完形	口縁部は直線状に外傾して立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。指押し成形。	外:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	C2/SK36

小穴・溝出土土器（図版18　第38図）　（　）は推定値　単位cm

No.	器種	法量	胎土 残存	形状・文様	調　整	出土地点 備　考
476	土師器 小皿	底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部は直線状に外方へ開く。底部は平坦。	外:回転ナデ。底部回転糸切り。回転右回転。 内:ナデ。	C7/P11
477	土師器 小皿	底: 5.7 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部は直線状に外方へ開く。底部は平坦。スノコ状圧痕。	外:回転ナデ。底部回転糸切り。回転右回転。 内:ナデ。	C7/P11
478	土師器 小皿	口: 13.0 高: 4.0 底: 6.1 焼: 良好 色: 灰褐色	微砂粒 軟質 2/3	口縁部は直線状に外方へ立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は平坦で高台状に厚くする。	外:口縁部回転ナデ。底部回転糸切り。回転右回転。 内:回転ナデ。	C7/P11
479	須恵器 鉢	口: 36.6 高: 17.0 焼: 不良 色: 淡灰褐色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部は直線状に短く立ち上がる。口唇部は丸く収める。胴部上位で肩が張り窄まる。底部欠損。	外:回転ナデ。 内:回転ナデ。回転左回転。	C7/P11 C3/包含層 外:胴部焼きムラ 生焼け
480	須恵器 杯B蓋	口: 13.2 高: 3.0 天: 8.0 焼: 良好 色: 明灰白色	微砂粒 白色粒子 多量 緻密 完形	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口唇部は短く下方外側へ屈曲し丸く収める。扁平擬宝珠ツマミが付く。シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。天井部中央ナデ消し。	C4/P39 外:降灰 内:口縁部焼きムラ
481	弥生 土器 高杯	口: 30.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部は外反して立ち上がる。口唇部内側に段をもつ。口縁部から受部に接合する稜は明瞭。	外:磨耗。 内:磨耗。	D4/P58
482	越前焼 擂鉢	口: 26.6 高: 11.3 底: 16.0 焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 多量 軟質 1/4	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部は平坦。高台端部内側で接地。	外:口縁部上位から中位回転ナデ。下位回転ヘラケズリ。回転右回転。底部ナデ。 内:回転ナデ。	D3/P107 D3/包含層
483	須恵器 杯B蓋	口: 13.3 高: 2.7 天: 8.0 焼: 良好 色: 青灰色	微砂粒 緻密 4/5	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口縁部下端を下方へ摘み出す。口縁部は浅く凹む。扁平擬宝珠ツマミが付く。シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D3/P108 D3/包含層 外:口縁部焼きムラ 内:[illegible]
484	須恵器 杯B蓋	口: 18.4 高: 2.7 天: 12.0 焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 緻密 5/6	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口唇部は下方へ屈曲し丸く収める。扁平擬宝珠ツマミが付く。シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D4/P110 外:降灰・自然釉
485	須恵器 杯B蓋	口: 14.6 高: 3.0 天: 8.6 焼: 良好 色: 明灰色	微砂粒 白色粒子 緻密 1/4	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口唇部は下方へ屈曲し丸く収める。ツマミ欠損。シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D4/P110 D4/包含層 内外:口縁部焼きムラ 外:自然釉
486	須恵器 杯A	口: 12.4 高: 3.0 底: 9.0 焼: 良好 色: 明灰色	微砂粒 白色粒子 緻密 1/3	口縁部は直線状に外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部は平坦。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D3/P106
487	須恵器 杯B蓋	口: 12.2 天: 7.0 焼: 良好 色: 淡灰色	微砂粒 白色粒子 多量 緻密 1/6	天井部は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口縁部下端を下方へ摘み出す。口縁部は浅く凹む。シャープな仕上げ。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	C3/P124 外:自然釉
488	弥生 土器 高杯	底: 11.2 焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 軟質 1/5	脚部はラッパ状に開く。脚端部は丸く収める。脚部に径7㎜の円形透孔を6箇配置。	外:ミガキ。 内:脚部上位シボリ痕。脚部ハケ。	D2/P132 外:黒斑
489	土師器 小皿	口: 8.4 高: 1.3 底: 7.3 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/5	口縁部は内湾して斜め外方に短く立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸みをもつ。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D2/P108
490	土師器 小皿	口: 12.6 高: 2.1 底: 10.3 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 赤色粒子 軟質 1/4	口縁部は内湾して斜め外方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸く収める。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D2/P108
491	須恵器 盤A	口: 18.0 高: 2.2 底: 12.0 焼: 良好 色: 明灰色	微砂粒 白色粒子 緻密 1/6	口縁部はやや内湾して立ち上がる。口唇部はやや外反して丸く収める。底部は平坦。底部中央欠損。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D3/P171 外:焼きムラ
492	弥生 土器 高杯	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部内面に右巻き渦巻のスタンプ文を全方に180度回転させ、環状のS字文に見立てている。	外:ミガキ。 内:ミガキ。	D5/SD1
493	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 5.5 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 赤色粒子 軟質 1/2	口縁部は内湾して斜め外方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸く収める。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D4/SD6
494	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.7 底: 4.6 焼: 良好 色: 浅黄橙色	微砂粒 軟質 1/3	口縁部は内湾して斜め外方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は丸く収める。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D4/SD6
495	土師器 小皿	口: 12.6 高: 2.7 底: 9.2 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 ほぼ完形	口縁部は内湾して斜め外方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部中央浅く凹む。	外:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。 内:口縁部から底部ヨコナデ。底部ナデ。	D4/SD6
496	土師器 小皿	口: 12.2 焼: 良好 色: 浅黄橙色	微砂粒 軟質 1/10	口縁部は内湾して斜め外方に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部欠損。	外:ヨコナデ。 内:ヨコナデ。	D4/SD6
497	土師器蓋	口: 12.0 高: 4.6 焼: 良好 色: [illegible]	微砂粒 軟質 1/3	天井部のツマミは径2.8㎝。斜め外方へハの字に開く。口唇部は丸く収める。	外:ミガキ。 内:ハケ。	C2・D2/SD13
498	土師器 壺	口: 11.0 焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部は有段口縁を呈す。口縁部は外反して立ち上がる。口唇部は丸く収める。口縁部下端の稜は明瞭。頸部は下方へ屈曲。	外:ヨコナデ。 内:ヨコナデ	C2・D2/SD13 外:スス付着
499	土師器甕	口: 18.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 軟質 1/4	口縁部は有段口縁を呈す。口縁部は外方へ立ち上がる。擬凹線が6条巡る。口唇部は丸く収める。口縁部下端を厚くする。口縁部内面に明瞭な段はない。	外:ヨコナデ。 内:口縁部ヨコナデ。頸部ヘラケズリ。	C2・D2/SD13 外面スス付着
500	土師器 甕	口: 16.0 焼: 良好 色: 橙色	微砂粒 多量 軟質 1/4	口縁部は有段口縁を呈す。口縁部は外方へ立ち上がる。擬凹線が2条巡る。口唇部は丸く収める。頸部は鋭く屈曲する。	外:ヨコナデ。 内:口縁部ヨコナデ。頸部ヘラケズリ。	C2・D2/SD13 外:スス付着
501	土師器 鉢	口: 12.0 焼: 良好 色: 黒褐色	微砂粒 軟質 1/10	口縁部は直線状に斜め外方に立ち上がる。[illegible]口唇部は外方へ丸く収める。	外:ヨコナデ。 内:ヨコナデ。	C2・D2/SD13 外:スス付着

集石墓出土土器（図版第18　第33～38図）　（　）は推定値　単位cm

No.	器種	法量	胎土 残存	形状・文様	調　整	出土地点 備　考
502	越前焼 擂鉢	口: 26.8 高: 14.0 底: 12.4 焼: 良好 色: 赤褐色	微砂粒 2/3	口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり開く。口唇部は平坦。沈線が1条巡る。断面三角形の凸点はナデ出し、片口をもつ。	外:口縁部上位から中位回転ナデ。下位回転ヘラケズリ。底部磨耗。 内:回転ナデ。底部ナデ。	D2/SH3 D1～3/包含層 C1・2/包含層

墨書土器（図版第18　第39図）　（　）は推定値　単位cm

No.	器種	法量	胎土 残存	形状・文様	調　整	出土地点 備　考
1	須恵器 杯B蓋	口: 13.2 高: 1.5 天: 8.0 焼: 良好 色: 淡灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。口縁部下端を下方へ摘み出す。ツマミ欠損。天井部内面中央に「□日」の墨書。	外:天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	D3/包含層 外:降灰・重ね焼き
2	須恵器 杯B蓋	天: 8.0 焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 堅緻 1/10以下	天井部の中央は平坦。口縁部と天井部の稜線は明瞭。天井部内面中央に不明墨書。	外:天井部回転ヘラケズリ。回転ナデ。 内:回転ナデ。	C1/包含層 外:降灰
3	須恵器 杯A	底: (8.0) 焼: 不良 色: 灰褐色	微砂粒 軟質 1/10以下	口縁部欠損。底部は平坦。底部外面に「家」の墨書。	外:底部回転ヘラ切り後未調整。 内:回転ナデ。	D3/包含層 生焼け
4	須恵器 杯A	底: 5.2 焼: 不良 色: 明灰褐色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部は意図的に全周を打ち欠いている。底部は平坦。底部外面に「田」の墨書。	外:底部回転ヘラ切り後未調整。 内:回転ナデ。	D3/包含層
5	須恵器 杯A	口: 12.0 高: 3.3 底: 7.4 焼: 良好 色: 淡灰褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部は直線状に外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部は平坦。底部外面中央に不明墨書。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内:回転ナデ。底部中央ナデツケ。	C2/SI6 C2/包含層
6	須恵器 杯A	口: 12.6 高: 3.3 底: 9.0 焼: 良好 色: 明灰色	微砂粒 白色粒子 多量 堅緻 1/10以下	口縁部は直線状に外方へ立ち上がり開く。口唇部は丸く収める。底部は平坦。底部外面縁辺に不明墨書。	外:口縁部回転ナデ。底部ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	C3/包含層 外:口縁部焼きムラ
7	須恵器 杯B	口: 11.4 高: 3.4 底: 7.8 焼: 良好 色: 明灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部は外傾して直線状に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は平坦。高台端部はハの字に踏ん張り平坦。端部全体で接地。底部外面中央に不明墨書。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。	C2/SI6 C1/包含層 外:降灰
8	須恵器 杯B	口: 11.0 高: 3.5 底: 7.2 焼: 良好 色: 灰褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部は外傾して直線状に立ち上がる。口唇部は丸く収める。底部は平坦。高台端部はハの字に踏ん張り平坦。端部全体で接地。底部外面中央にサンズイを部首にした墨書。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内:回転ナデ。回転右回転。底部中央ナデツケ。	C1/包含層
9	須恵器 盤A	口: 15.2 高: 2.3 底: 11.4 焼: 不良 色: 灰褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部は短く直線状に外方へ立ち上がり開く。扁平な器形。口唇部は丸く収める。底部は平坦。底部外面中央に「□佐」の墨書か。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後未調整。 内:回転ナデ。底部中央ナデツケ。	C1/包含層 内:焼きムラ
10	須恵器 盤A	口: 14.8 高: 2.3 底: 12.0 焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部は短く直線状に外方へ立ち上がり開く。扁平な器形。口唇部は丸く収める。底部は平坦。底部外面中央に不明墨書。	外:口縁部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後未調整。 内:口縁部から底部回転ナデ。底部ナデ。	D3/包含層

縄文土器（図版第22　第40図）

No.	出土地点	No.	出土地点	No.	出土地点
1	C7/SK7	16	C6・D6/SI5	31	C1/3号溝
2	B3/包含層	17	C6・D6/SI5	32	C6・D6/SI5
3	C6・D6/SI5	18	C5/包含層	33	D6/SI9
4	C6/包含層1層	19	D5/包含層1層	34	C6・D6/SI5
5	C6/SI1	20	C6/SI1C6包含層	35	C6・D6/SI5
6	D6/P38	21	C6/SI1	36	D6/SI9
7	C6・D6/SI5	22	C5/2号溝	37	D6/P38
8	C6・D6/SI5	23	C6・D6/SI5	38	C6/SI1D6包含層
9	C6・D6/SI5	24	C6・D6/SI5	39	C6・D6/SI5
10	D4～6/包含層	25	D4/SK33	40	C6/SI1
11	C6・D6/SI5	26	C6/SI1	41	D5/包含層
12	C6/包含層	27	C6・C7/1号溝	42	C6・D6/SI5
13	C6・D6/SI5	28	D6/包含層	43	D6/包含層
14	C6・D6/SI5	29	D6/SK1	44	D6/SK1
15	D6/包含層	30	D4/SI4	45	D6/SK1

第3表　土錘観察表（第39図）

単位cm/g

No.	遺物	形態	法量 （現存値）	焼成 色調	成形・調整	出土地点
1	土錘	管状	全長: 2.6 最大径: 1.8 孔径: 0.4 重量: 5.9	焼成: 良好 色調: 橙褐色 残存率: 1/3	棒巻き／手捏ね	試掘/包含層
2	土錘	管状	全長: 3.1 最大径: 1.4 孔径: 0.4 重量: 5.4	焼成: 不良 色調: 灰黒色 残存率: 5/6	棒巻き／手捏ね 端面に紐ズレあり	D3/包含層
3	土錘	管状	全長: 5.8 最大径: 1.7 孔径: 0.3 重量: 13.6	焼成: 不良 色調: 橙褐色 残存率: 完形	棒巻き／手捏ね	D4/SK2
4	土錘	管状	全長: 3.3 最大径: 1.8 孔径: 0.6 重量: 6.3	焼成: 良好 色調: 黄褐色 残存率: 1/3	棒巻き／手捏ね	D3/SD11

第２節　鉄器・鉄滓・銭貨・耳環（図版第19・20　第41・42図　第4表）

1. 鉄器

１号墳埋葬施設出土鉄器（図版第19・20　第41図）

1～11は1号墳の埋葬施設である木棺棺内に副葬されていた武器、農工具である。1は平造りの直刀であり、全長87.5㎝、刃部長80.5㎝、刃部幅3.2㎝、刃部厚0.6㎝、茎部長7.0㎝、茎部幅2.0㎝茎部厚0.4㎝を測る。茎部を欠損して重量550ｇを測る。切先はフクラを有し、関は斜関である。刃部と茎部全体に木質が残り、副葬時は柄を装着して鞘に収めていたと考える。

2は鉄鉾であり全長27.4㎝、刃部長14.9㎝、刃部幅3.2㎝、刃部厚1.0㎝、袋部長12.5㎝、袋部外径3.2㎝、袋部内径2.4㎝、袋部内長14.0㎝を測る。ほぼ完形品であり重量は140ｇを測る。高田氏の分類（文12）によると、刃部の断面は菱形の鎬式、関は撫角の両関である。袋部は円筒袋式であり、袋部口は、楕円形を呈し、刃部幅の方向で最大幅を測る。長さ8㎝の切れ込みが入り。袋端部は直基式である。

3～9は尖根系長頸鏃である。5・6・8・9は茎部が欠損しているが、鏃身部から茎部まで17.0㎝前後、重量25ｇ前後の規格で製作されたと推定する。3・4は、鏃身形は柳葉形、形式は長三角形鏃、鏃身断面は片丸造り、鏃身関は撫関、頸部関は棘状を呈す。5・6は3・4と同じ特徴を備えるが、鏃身断面は鏃身中央に稜線をもつ片鎬造りである。7・8は、鏃身形は柳葉形、形式は短三角形、鏃身断面は両丸造り、鏃身関は撫関、頸部関は棘状を呈す。8の頸部は弱く「く」の字に屈曲する。9は5・6と同じ特徴を備えるが、鏃身関は両関であり、5・6に比べて頸部が約3㎝短い。

10は鉄斧であり、全長14.2㎝、刃部長5.2㎝、刃部幅5.3㎝、刃部厚0.6㎝、袋部長5.0㎝、袋部外径3.0㎝、袋部内径2.3㎝、袋部内長4.2㎝を測る。欠損部は少なく、重量は140ｇを測る。平面形状は、直線状に仕上げた袋部両側から、一旦外側に向かってバチ状に開き、両側面に撫肩の肩部を設ける。刃部は両肩部から下方へ弱く開き、刃先は曲刃を呈す。袋部から刃部までの側面形状は楔形を呈す。刃部横断面は中央でやや厚みをもち、両側面側でやや薄くなる。袋部を閉じ合わせた鉄斧裏面の刃部縦断面は、袋部から刃先まで緩やかな曲線を描くが、鉄斧表面側は直線状に延びて仕上げられ、裏面に片刃を設けている。袋部は、両側面の鉄板を曲げて鉄斧裏面で閉じ合わせており、接合部は長さ3.2㎝を測る。袋部口の形状は方形を呈し、刃部幅と同方向で最大幅を測る。目釘孔は確認できない。

11は平造りの曲刃鎌であり、全長14.2㎝、刃部長12.0㎝、刃部幅2.4㎝、刃部厚0.3㎝を測る。柄装着部を欠損し、重量50ｇを測る。刃先は先端から1/4ほどの位置で手前に緩やかに曲がる。柄装着部付近に、刃部に直交または斜め方向に向く木質繊維が付着する。

２号墳出土鉄器（図版第19・20　第42図）

16～18は２号墳の埋葬施設に副葬されていたと考えられる武器、農工具である。1は平造りの直刀であり、C6グリッドの包含層から検出した。推定全長91.9㎝、刃部長73.9㎝、刃部幅3.2㎝、刃部厚0.6㎝、茎部長18.0㎝、茎部幅2.0㎝、茎部厚0.5㎝を測る。ほぼ全体が残り、重量850ｇを測る。関は斜関であり、Ｘ線写真によって、茎部に径5㎜を測る目釘孔を1孔確認している。刃部と茎部全体に木質が残り、1と同様に副葬時は柄を装着して鞘に収めていたと考える。

17は鉄斧であり、2号墳周溝から検出した。全長18.9㎝、刃部長10.5㎝、刃部幅8.1㎝、刃部厚1.4㎝を測る。袋部長8.4㎝、袋部外径5.3㎝、袋部内径4.3㎝、袋部内長6.2㎝を測る。完形品であり、重量は820ｇを測る大型品である。平面形状は、直線状に仕上げた袋部両側から、外側に向かってバチ状に開き、両側面に撫肩の肩部を設けた後、刃部が両肩部から下方へ長台形状に開き、刃先は直刃を呈す。

側面形状は錐形を呈す。刃部横断面は中央で厚みをもち、両側面側でやや薄くなる。刃部縦断面は、刃先の直前まで1.4cmの厚さを維持して直線状に延びる。袋部において目釘孔などは確認できず、鉄斧裏面接合部は密着している。袋部口の形状は楕円形を呈し、刃部幅の方向で最大幅を測る。上から見た袋部最深部の形状は長方形を呈し、平坦になっている。X線写真では確認できなかったが、袋部と刃部を別作りで製作した特徴を備える。

18は鉄斧であり、SI4内P49直上の包含層から検出した。全長11.0cm、刃部長4.2cm、刃部幅6.3cm、刃部厚0.8cm、袋部長6.2cm、袋部外径3.9cm、袋部内径3.4cm、袋部内長5.0cmを測る。右側面の刃部が欠損し、重量は220gを測る。平面形状は、直線状に仕上げた袋部両側が、一旦外側に向かってバチ状に開き、両側面に撫肩の肩部を設ける。刃部は両肩部から下方へ開き、刃先は曲刃を呈す。側面形状は楔形を呈す。刃部横断面は中央でやや厚みをもち、両側面側でやや薄くなる。袋部を閉じ合わせた鉄斧裏面の刃部縦断面は、やや内湾する曲線を描くが、鉄斧表面の刃部縦断面は直線状に延び、裏面に片刃を設けている。袋部は、両側面から鉄板を曲げて、鉄斧裏面で閉じ合わせており、ズングリした形状をとる。接合部の長さは5.0cmを測る。袋部口の形状は楕円形を呈し、刃部幅の方向で最大幅を測る。目釘孔は確認できない。袋部裏面に繊維片、刃部表面に木質が付着する。

3号墳石室出土鉄器（図版第19　第42図）

23はヤリガンナの柄部であり、3号墳石室から検出した。全長4.9cm、幅1.2cm、厚さ0.4cmを測る。全体に木質が付着する。

SK25出土鉄器（図版第19　第41図）

12はSK25から出土した短頸腸抉鏃である。全長7.8cm、鏃身部長5.5cm、鏃身幅3.2cmを測る。茎部は欠損している。鏃身形は柳葉形、形式は長三角形鏃、鏃身断面は両丸造り、鏃身関は腸抉である。

その他の出土鉄器（図版第20　第42図）

19は鉄斧であり、C2グリッドの包含層から検出した。全長9.3cm、刃部長4.6cm、刃部幅5.1cm、刃部厚0.8cm、袋部長4.7cm、袋部外径3.5cm、袋部内径2.8cm、袋部内長3.5cmを測る。ほぼ完形であり重量は170gを測る。平面形状や刃部の断面は10と類似し、袋部は18と同様にズングリした形状をとる。接合部の長さは4.0cmを測る。袋部口の形状は、楕円形を呈し、刃部幅の方向で最大幅を測る。目釘孔は確認できない。20は平造りの刀子であり、3号墳周溝底面X004地点で検出した。推定全長20.8cm、刃部長14.7cm、刃部幅2.4cm、刃部厚0.4cm、茎部長5.3cm、茎部幅2.0cmを測る。切先と茎部を欠損し、重量は83gを測る。関は撫関である。21は不明鉄器である。径4.7cm、厚さ0.3cmを測る一枚板の円板に幅1.3cmの柄が付く工具が想定される。22は長頸鏃の茎部であり、SI2の覆土で検出した。

2. 鉄滓（図版第20　第41図）

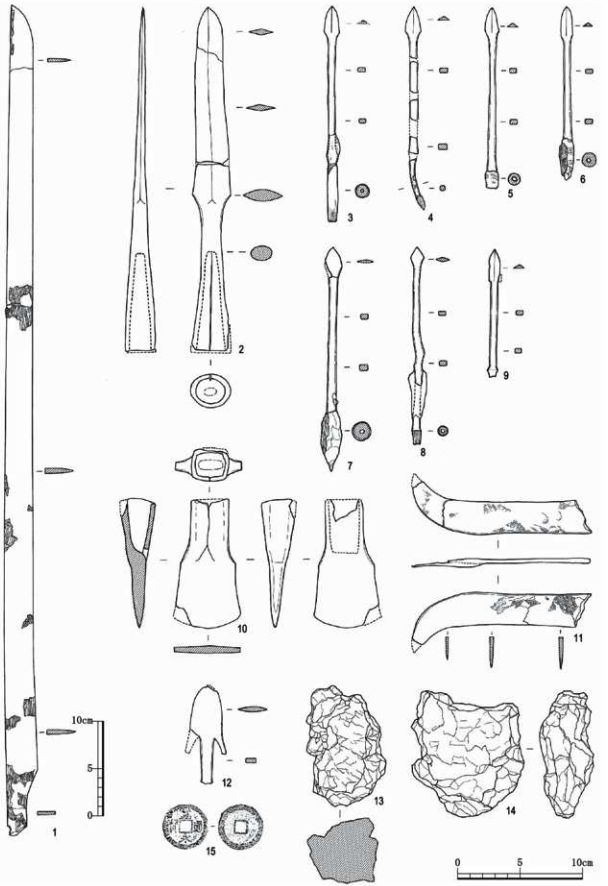
13･14は10cm大の鉄滓である。13は表面採集したものだが、14はC1グリッドの包含層中に含まれていた。調査区内において、他に鍛冶関連の遺構や遺物は確認しておらず、14は3号墳の周溝遺物または石室内遺物であった可能性もある。

3. 銭貨（図版第20　第41図）

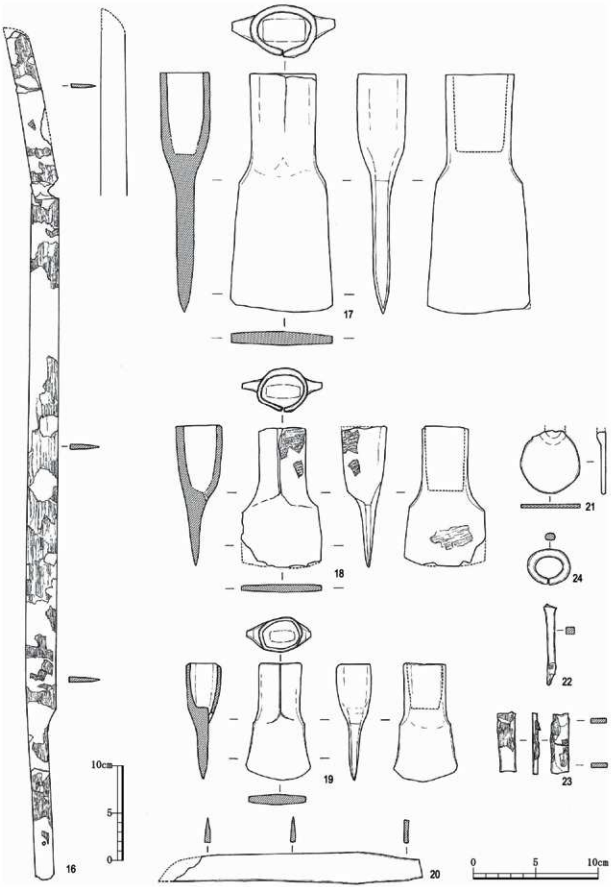
15は江戸時代の「寛永通宝」の銭貨であり、径2.3cmを測る。集石墓に伴う六道銭と考える。

4. 耳環（図版第20　第42図）

24は耳環である。長径3.4cm、短径2.9cm、断面長径0.8cm、重量10.5gを測る。銹化が著しく、金銅張りなどの外装の状況は不明である。



第41図 鉄器・鉄滓・銭貨（縮尺1/3、1/4）



第42図　鉄器・耳環（縮尺1/3、1/4）

第4表　鉄器・鉄滓・銭貨・耳環観察表

1号墳出土鉄器(図版19・20　第41図)　（ ）は推定値　単位cm・重量g

No	器種	法量	形式・特徴	出土地点 備考
1	鉄刀	全長:　87.5　茎部長:　7.0 刃部長:　80.5　茎部幅:　2.0 刃部幅:　3.2　茎部厚:　0.4 刃部厚:　0.6　重量:　550	平造り。切先はフクラを有す。関は斜関。	1号墳相内 全体に本質が付着鞘に収めた状態で副葬
2	鉄剣	全長:　27.4　袋部長:　12.5 刃部長:　14.9　袋部外径:　3.2 刃部幅:　3.2　袋部内径:2.4 刃部厚:　1.0　袋部内長:7.8 重量:　140	刃部は菱形鎬造り。関は角角の両関。 袋部に8cmの切れ込み。 断面は楕円形で端面直線。目釘孔無し。	1号墳相内 袋部に木質付着 柄を付けた状態で副葬
3	鉄鏃	全長:　17.0　頭部厚:　0.4 鏃身部長:2.0　茎部長:　5.0 鏃身部幅:1.2　茎部幅:　0.2 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.2 頭部長:　10.0　重量:　19.5 頭部幅:　0.5	横関:尖根系長脚鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:片丸造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 茎部端に篦被が残る
4	鉄鏃	全長:　16.2　頭部厚:　0.4 鏃身部長:1.9　茎部長:　5.1 鏃身部幅:1.2　茎部幅:　0.4 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.2 頭部長:　9.7　重量:　9.9 頭部幅:　0.7	横関:尖根系長脚鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:片丸造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 茎部端に篦被が残る
5	鉄鏃	全長:　14.3　頭部厚:　0.3 鏃身部長:2.0　茎部長:　0.8 鏃身部幅:1.0　茎部幅:　0.4 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.4 頭部長:　11.5　重量:　13.6 頭部幅:　0.5	横関:尖根系長脚鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:片鎬造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 篦被が残る
6	鉄鏃	全長:　13.7　頭部厚:　0.4 鏃身部長:2.3　茎部長:　0.8 鏃身部幅:0.9　茎部幅:　0.3 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.3 頭部長:　8.3　重量:　13.5 頭部幅:　0.6	横関:尖根系長脚鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:片鎬造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 篦被が残る
7	鉄鏃	全長:　17.8　頭部厚:　0.5 鏃身部長:1.8　茎部長:　6.0 鏃身部幅:1.2　茎部幅:　0.3 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.3 頭部長:　10.0　重量:　28.4 頭部幅:　0.7	横関:尖根系長脚鏃 形式:短三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:両丸造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 篦被が残る
8	鉄鏃	全長:　15.7　頭部厚:　0.3 鏃身部長:1.0　茎部長:　1.0 鏃身部幅:1.1　茎部幅:　0.3 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.3 頭部長:　13.7　重量:　17.8 頭部幅:　0.5	横関:尖根系長脚鏃 形式:短三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:両丸造り 鏃身関:角関 頭部関:鞘状	1号墳相内 篦被が残る 頭部中央折曲
9	鉄鏃	全長:　10.1　頭部厚:　0.4 鏃身部長:2.6　茎部長:　0.5 鏃身部幅:1.0　茎部幅:　0.5 鏃身部厚:0.3　茎部厚:　0.3 頭部長:　7.0　重量:　7.9 頭部幅:　0.6	横関:尖根系長脚鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:鎬造り 鏃身関:両関 頭部関:鞘状	1号墳相内 篦被が残る
10	鉄斧	全長:　10.2　袋部長:　5.0 刃部長:　5.2　袋部外径:3.0 刃部幅:　5.3　袋部内径:2.3 刃部厚:　0.6　袋部内長:4.2 刃部形状:直刃　重量:　140	袋部断面:長方形 刃部:無刃	1号墳相内 鉄化銑著 袋部内:木質無し
11	鉄鏃	全長:　14.2　基部長:　－ 刃部長:12.0　基部幅:　－ 刃部幅:　2.4　基部厚:　－ 刃部厚:　0.3　重量:　50	平造り。直刃鏃 基部欠損。 切先を再鍛合して補修している。	1号墳相内 刃部に直交、斜めに方向に付着する木質・繊維質が付着

SK25出土鉄器(図版19　第41図)　（ ）は推定値　単位cm・重量g

No	器種	法量	形式・特徴	出土地点 備考
12	鉄鏃	全長:　7.8　頭部厚:　0.4 鏃身部長:5.5　茎部長:　－ 鏃身部幅:3.2　茎部幅:　－ 鏃身部厚:0.4　茎部厚:　－ 頭部長:　3.6　重量:　14.2 頭部幅:　0.7	横関:短脚鏃鏃 形式:長三角形鏃 鏃身形:柳葉形 鏃身断面:両丸造り 鏃身関:角関 頭部関:－	SK25 頭部半分以下欠損

鉄滓・銭貨(図版20　第41図)　（ ）は推定値　単位cm・重量g

No	器種	法量	形式・特徴	出土地点 備考
13	鉄滓	全長:　9.7　最大厚:　5.0 最大幅:　5.6　重量:　410		表面採集
14	鉄滓	全長:　10.0　最大厚:　4.0 最大幅:　8.6　重量:　400		C1/包含層
15	銭貨	直径:　2.3　厚:　0.25	「寛永通宝」	C2/包含層

2号墳出土鉄器(図版20　第42図)　（ ）は推定値　単位cm・重量g

No	器種	法量	形式・特徴	出土地点 備考
16	鉄刀	全長:　(91.9)　茎部長:　18.0 刃部長:　73.9　茎部幅:　2.0 刃部幅:　3.2　茎部厚:　0.5 刃部厚:　0.6　重量:　850	平造り。切先破損。関は鎬関の可能性あり。 目釘孔1	C4/包含層 2号墳の副葬品と推定。全体に本質が付着。鞘に収めた状態で副葬
17	鉄斧	全長:　18.9　袋部長:　8.4 刃部長:　10.5　袋部外径:5.3 刃部幅:　8.1　袋部内径:4.3 刃部厚:　1.4　袋部内長:6.2 刃部形状:直刃　重量:　820	有肩鉄斧 袋部断面:楕円形 刃部:無刃	C5/2号墳周溝 鉄化銑著 袋部内:木質無し
18	鉄斧	全長:　11.0　袋部長:　6.2 刃部長:　4.2　袋部外径:3.9 刃部幅:　6.3　袋部内径:3.4 刃部厚:　0.6　袋部内長:5.0 刃部形状:曲刃　重量:　220	有肩鉄斧 袋部断面:楕円形 刃部:無刃	C5/包含層 鉄化銑著 袋部外:繊維質付着 刃部:木質付着

鉄器・耳環(図版20　第42図)　（ ）は推定値　単位cm・重量g

No	器種	法量	形式・特徴	出土地点 備考
19	鉄斧	全長:　9.3　袋部長:　4.7 刃部長:　4.6　袋部外径:3.5 刃部幅:　5.1　袋部内径:2.8 刃部厚:　0.8　袋部内長:3.5 刃部形状:直刃　重量:170	有肩鉄斧 袋部断面:楕円形 刃部:無刃	C2/包含層 鉄化銑著 袋部内:木質無し
20	刀子	全長:　(20.8)　茎部長:　5.3 刃部長:　14.7　茎部幅:　2.0 刃部幅:　2.4　茎部厚:　0.3 刃部厚:　0.4　重量:　83	平造り。切先。茎尻欠損。関は無関。	C2/3号墳周溝X0 04地点
21	不明鉄器	全長:　4.9　基部厚:　0.7 円板部幅:　4.7　重量:　23 円板部厚:　0.3	円板部は五線の結果。二重に合わせたものではないことが判明。	C1/包含層 鉄化銑著
22	鉄鏃	全長:　6.4　頭部厚:　－ 鏃身部長:　－　茎部長:　6.1 鏃身部幅:　－　茎部幅:　0.7 鏃身部厚:　－　茎部厚:　0.6 頭部長:　－　重量: 頭部幅:　－	横関:－ 形式:－ 鏃身形:－ 鏃身断面:－ 鏃身関:－ 頭部関:鞘状	B4/SI2 篦被が残る
23	ヤリガンナ	全長:　4.9　柄部長:　4.9 刃部長:　－　柄部幅:　1.2 刃部幅:　－　柄部厚:　0.4 刃部厚:　－　重量:　11.9	刃部欠損。柄部の一部が残る。全体に木質付着	C1/3号墳石室 鉄化銑著
24	耳環	長径:　3.4　断面長径:0.8 短径:　2.9　断面短径:0.6 形状:　扁楕円　重量:　10.5	鉄化により金銅装は剥離。	C1/包含層 鉄化銑著

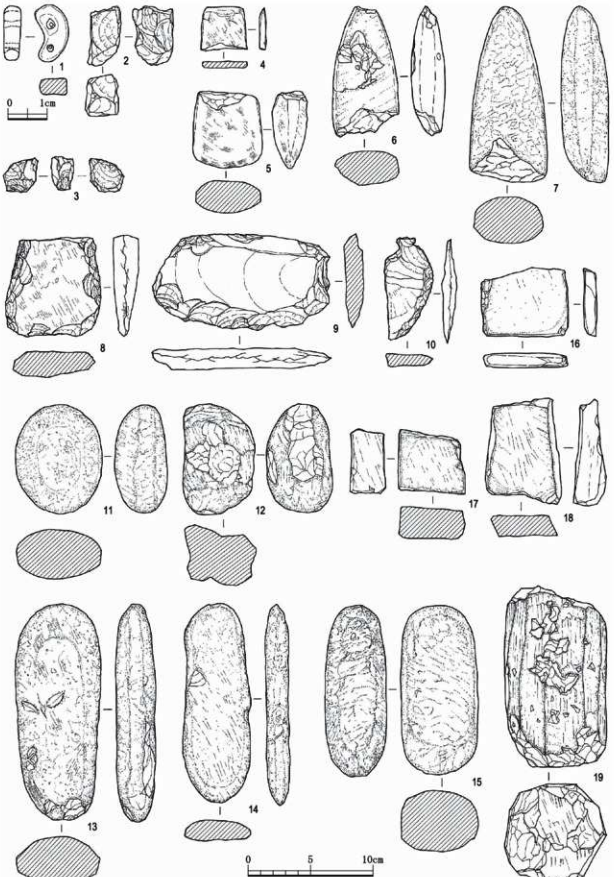
第3節　石器・石製品・その他の遺物（図版第20　第43図　第5表）

1はSI4から出土し、2ヶ所に孔を持つ稀有な勾玉である。扁平三日月状を呈し、腹部の抉りは浅い。上部の孔周辺には大きな凹みがあり、穿孔の際に表面が割れた可能性を示す。下部の孔は穿孔痕跡が粗く、きれいな回転痕を残す。両孔とも両面穿孔であるが、下部の孔は、両面とも開口部付近に段があることから、二段階で穿孔をしたと考える。上・下部の孔の穿孔方法に差異があることから、完成当初は一つであった可能性が高い。2はSI11から出土した緑色凝灰岩の荒割り段階の玉材である。自然剥離面が多くを占め、一面に直方体未成品を作り出したと考えられる剥離痕が認められ、その反対面には節理面に研磨痕が見られる。3は鉄石英の小型の石核と考える。上部の自然剥離面を打面として幅約3cm、長さ約2cmの剥片を作り出した痕跡が認められるが、玉材であったかどうかは判断できない。4はST12から出土した扁平片刃石斧の刃部である。刃部に向かって緩やかに狭まる形状を呈する。刃部裏面は一部欠損し、刃先は磨滅し、鋭さに欠ける。5は定角式磨製石斧の刃部下半部である。軟質な凝灰岩製であり、表面は光沢が無く、荒い研磨痕を明瞭に残す。刃部の付近に使用痕は認められない。6も定角式磨製石斧であり、基部先端と刃部は欠損する。白色気味の蛇紋岩製で、一部に剥落がある。接合破片との接合部にタール状物質が付着しており、修復して使用した可能性がある。7は蛤刃磨製石斧であり、刃部は欠損する。側面は研磨され平滑となるが、表裏面は敲打痕で覆われ、基部付近に僅かに研磨痕が見られるに過ぎない。8は打製石斧で基部半部は欠損する。表面の大半は自然風化面が占め、左側辺中央付近は刃潰し加工が施されている。9は片側の抉入部が欠損するが、打製石庖丁と考えられる。背部の欠損する側の一部に、掌への負担を減らすため鈍角の加工が施されている。10は横型石匙であり、刃部先端の半分が欠損する。刃部は薄く加工されている。11は磨石である。側面が使用により平坦に磨滅している。12は軟質の砂岩製の凹石であり、両面に窪みを有している。二つの凹みに挟まれた側面に敲打による凹みと磨り潰しによる平坦部を持つ。13は安山岩製の敲石であり、片側辺は平坦に加工されており、断面は蒲鉾状を呈する。下端部右半部に敲打痕が僅かに認められる。14は砂岩製の不明石器である。断面は薄い蒲鉾状を呈し、中央やや上方の側辺が内側に僅かに抉れる。用途は特定し難い。15は玄武岩製の敲石である。下端部には敲打痕が認められ、両側面には擦りを意識した加工が施されており、指が触れる部分は平坦に加工し、掌が当たる部分には丸みが付けられている。16は内面に緻密な層を有する凝灰岩製の砥石である。図上側面は割り取られている。一側面が樋状を呈し、平行した擦痕が見られることから、主にこの面を使用したと考える。17は砂岩製の砥石であり、上下両端は欠損する。四面が使用され、表裏面は内側に僅かに凹む。18も17と同質の砂岩製砥石であり、上端部を欠損する。四面に使用痕跡がある。欠損部方向に向かって薄くなり、幅も狭くなっているが、片側面は僅かに膨らんだ形状を呈する。表面部には金属傷が長軸方向に付く。19は多角柱状の土製品である。側面は平滑で11面ある。下端部も含めてケズリで整形されている。残存長14.2cm、幅8cmを測り、赤色顔料が若干付着する。

第5表　石器・石製品観察表（図版第20　第43図）　単位cm・重量g

No.	器種	法量				残存	石材	出土地点
		長さ	幅	厚さ	重量			
1	勾玉	1.4	0.7	0.4	0.9	1/1	ヒスイ?	C4/SI4 P 63
2	玉材	4.7	2.3	2.7	54.3	1/1	緑色凝灰岩	C1/包含層
3	玉材	3.3	2.4	1.9	14.8	1/1	鉄石英	C1/包含層
4	磨製石斧	2.9	3.6	3.5	15.7	1/3	砂岩	D6/包含層
5	磨製石斧	6.0	4.8	2.5	110.0	1/2	凝灰岩	C4/包含層
6	磨製石斧	10.3	5.0	2.7		3/4	蛇紋岩	C7/包含層
7	磨製石斧	14.0	5.3	3.8		3/4	花崗閃緑岩	C6/包含層
8	打製石斧	7.7	6.5	2.1	160.0	1/2	安山岩	D5/包含層
9	打製石庖丁	7.4	14.0	1.4	235.0	1/1	安山岩	C4/SI4 P 48

No.	器種	法量				残存	石材	出土地点
		長さ	幅	厚さ	重量			
10	石匙	8.2	3.4	1.2	32.7	3/4	安山岩	C5/包含層
11	磨石	8.6	6.9	3.9	330.0	1/1	砂岩	B5/包含層
12	凹石	8.8	5.5	4.9	215.0	1/1	砂岩	D4/SI4 P 57
13	敲石	17.0	6.5	3.0	490.0	1/1	安山岩	B5/包含層
14	不明石器	15.8	5.1	1.6	165.0	1/1	砂岩	C6/SI5
15	敲石	13.5	6.1	4.8	650.0	1/1	玄武岩	C5/包含層
16	砥石	5.5	6.9	1.1	69.0	1/2	凝灰岩	D5/包含層
17	砥石	4.2	5.3	2.5	130.0	1/3	砂岩	C5/包含層
18	砥石	8.3	5.4	2.5	150.0	1/2	砂岩	C2/SI6



第43図　石器、石製品、その他の遺物（縮尺1/3）

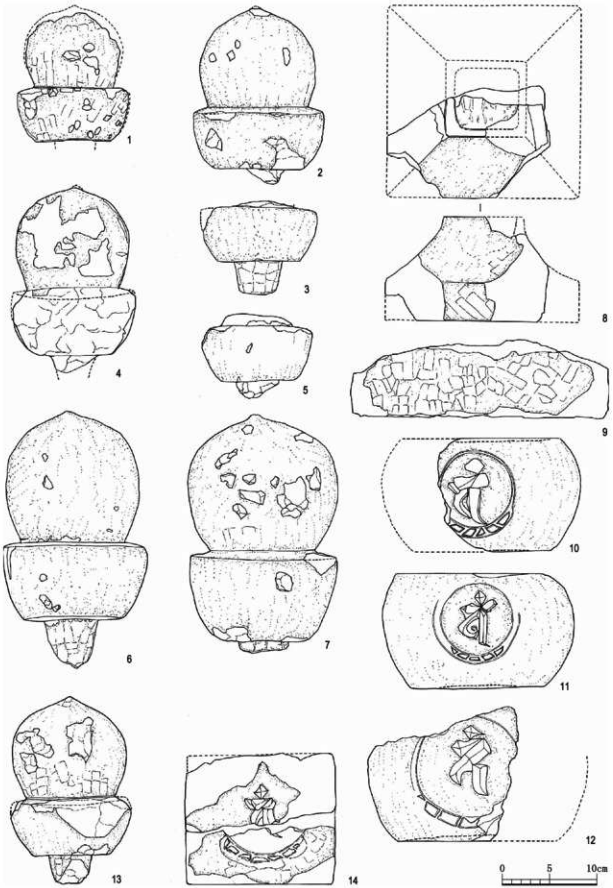
第4節　石　塔（図版第21･22　第44･45図　第6表）

石塔は笏谷石製の五輪塔である。五輪塔は空輪･風輪･火輪･水輪･地輪でなり、死して「五大」、森羅万象に帰一することを願う石塔である。真言宗中興の祖、覚鑁（かくばん）上人の「五輪九字明秘密釈」によって原理･理論が説かれ、平安時代中期以降に供養塔として建てられ、鎌倉時代以降に墓標となったと考えられる。SS1～3（第25図）において25点が個体判別でき、時期は近世、15世紀後半以降と考える。

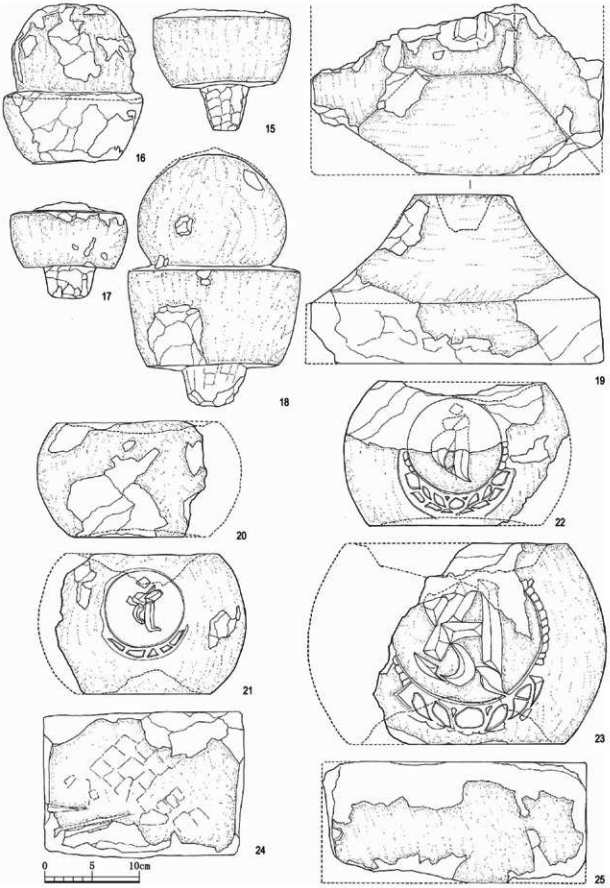
SS1では空輪･風輪が一体となった空風輪4点（4～7）、水輪3点（10～12）、地輪1点（9）、SS2では空風輪3点（15･17･18）、火輪1点（19）、水輪4点（20～23）、地輪2点（24･25）を検出した。SS3では空風輪2点（13･16）、地輪1点（14）を検出した。空風輪は、6･7･18などの先端から茎部まで全高25cm以上、風輪部幅15cm以上を測る大型のものと、2･4･13･15～17などの全高20cm以内、風輪部幅13cm前後を測る小型のものがある。火輪8の頂部中央は方形に抉られ、空風輪接合の際には砂を入れて、収まりを調節したと考える。水輪は側面に蓮台と月輪を浮き彫りにし、月輪中央に梵字を薬研彫りで施している。10･11･12･21･22はバン（阿弥陀如来）の梵字、大形の23にはア（薬師如来）の梵字を刻む。地輪9･14･24･25は破損が著しい。14はバンの梵字を彫り、小型の宝篋印塔の可能性もある。

第6表　石塔観察表（図版第21･22　第44･45図）　単位/cm

No	器種	法量	色調･石材	特徴	出土地点
1	五輪塔 空風輪	全　高：13.8 空輪高：7.9 空輪径：10.0 風輪高：11.9	風輪幅：5.9 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：4/5	空輪上部、ホゾ欠損。タガ不痕が残る。	C1/集石墓
2	五輪塔 空風輪	全　高：18.6 空輪高：10.4 空輪径：12.3 風輪高：8.2	風輪幅：13.9 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：4/5	空輪頂部、ホゾ欠損、外面磨滅。	C1/集石墓
3	五輪塔 空風輪	全　高：10.0 空輪高：0.8 空輪径：－ 風輪高：9.2	風輪幅：12.3 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：2/5	空輪欠損、風輪ホゾに工具幅1.3cmのタガ不痕が残る。	C1/集石墓
4	五輪塔 空風輪	全　高：19.7 空輪高：10.6 空輪径：12.0 風輪高：9.1	風輪幅：13.2 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：3/5	空輪外面は工具による破損を受けている。風輪ホゾ欠損。	B2/集石墓 SS1
5	五輪塔 空風輪	全　高：9.0 空輪高：1.3 空輪径：7.6 風輪高：7.7	風輪幅：11.6 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/2	空輪、風輪ホゾ欠損。空輪は工具による破損を受けている。	C2/集石墓 SS2
6	五輪塔 空風輪	全　高：27.3 空輪高：13.9 空輪径：14.1 風輪高：13.5	風輪幅：15.3 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：3/5	風輪ホゾにタガ不痕が残る。空輪は半身欠損。	B2/集石墓 SS1
7	五輪塔 空風輪	全　高：25.3 空輪高：14.5 空輪径：15.8 風輪高：10.9	風輪幅：15.7 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：4/5	空輪外面は工具による破損を受けている。風輪ホゾ欠損。	B2/集石墓 SS1
8	五輪塔 火輪	全　高：11.1 頂部幅：8.6 厚　高：4.5 笠部幅：20.5	ホゾ幅：6.1 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/2	外面にタガ不痕が残る。ホゾ穴の平面形は隅丸正方形。深さは4cm。	C1/集石墓
9	五輪塔 地輪	全　高：8.3 厚　高：27.2	色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/3	外面にタガ不痕が残る。工具幅1.2cm、上半分欠損。	B2/集石墓 SS1
10	五輪塔 水輪	全　高：12.1 上面径：16.8 最大径：21.0 下面径：14.6	色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/5	上下面中央で4cm程浅凹状に凹む。側面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内に「バン」の梵字を薬研彫りで配置。	C2/集石墓 SS1
11	五輪塔 水輪	全　高：12.3 上面径：15.4 最大径：20.3 下面径：14.1	色調：灰白色 石材：笏谷石 残存率：4/5	上下面中央で6cm程浅凹状に凹む。側面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内にバンの梵字を薬研彫りで配置。	B3/集石墓 SS1
12	五輪塔 水輪	全　高：14.3 上面径：16.5 最大径：21.0 下面径：16.5	色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/4	下面中央で6cm程浅凹状に凹む。側面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内にバンの梵字を薬研彫りで配置。	C2/集石墓 SS1
13	五輪塔 空風輪	全　高：19.9 空輪高：10.9 空輪径：12.1 風輪高：9.9	風輪幅：12.8 色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：4/5	空輪外面は工具による破損を受けている。風輪ホゾ欠損。	B2/集石墓 SS3
14	五輪塔 地輪	全　高：14.0 幅：16.0 奥行き：16.0	色調：淡緑色 石材：笏谷石 残存率：1/2	上面中央は浅凹状に5mm凹む。下面は平坦。側面の一面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内にバンの梵字を薬研彫りで配置。	B2/集石墓 SS3
15	五輪塔 空風輪	全　高：12.7 空輪高：－ 空輪径：－ 風輪高：12.7	風輪幅：14.5 色調：緑灰色 石材：笏谷石 残存率：1/2	空輪欠損。風輪ホゾに工具幅1cmのタガ不痕が残る。ホゾ側面凹形。	B2/集石墓 SS3
16	五輪塔 空風輪	全　高：16.7 空輪高：9.4 空輪径：12.9 風輪高：7.3	風輪幅：14.8 色調：灰青色 石材：笏谷石 残存率：1/2	空輪外面は工具による破損を受けている。風輪ホゾ欠損。	C2/集石墓 SS2
17	五輪塔 空風輪	全　高：10.2 空輪高：1.0 空輪径：－ 風輪高：9.2	風輪幅：12.4 色調：緑灰色 石材：笏谷石 残存率：1/3	空輪欠損。風輪ホゾに工具幅1cmのタガ不痕が残る。ホゾ側面凹形。磨滅。	C2/集石墓 SS2
18	五輪塔 空風輪	全　高：26.7 空輪高：11.8 空輪径：15.7 風輪高：14.9	風輪幅：18.3 色調：青緑色 石材：笏谷石 残存率：3/5	空輪は下部右の形状、風輪ホゾにタガ不痕が残る。磨滅。	C2/集石墓 SS2No1
19	五輪塔 火輪	全　高：18.0 頂部幅：10.0 厚　高：7.0 笠部幅：31.0	ホゾ幅：5.7 色調：緑灰色 石材：笏谷石 残存率：1/2	ホゾ穴の平面形は隅丸正方形。深さ13.8cm。意図的な破壊を受けている。	C2/集石墓 SS2
20	五輪塔 水輪	全　高：12.4 上面径：(17.1) 最大径：(21.6) 下面径：(14.4)	色調：灰白色 石材：笏谷石 残存率：1/2	上下面中央で10cm程浅凹状に凹む。磨滅。欠損が顕著。	C2/集石墓 SS2
21	五輪塔 水輪	全　高：14.9 上面径：(16.2) 最大径：(22.0) 下面径：(14.1)	色調：灰白色 石材：笏谷石 残存率：4/5	上下面中央で4cm程浅凹状に凹む。側面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内に「バン」の梵字を薬研彫りで配置。	C2/集石墓 SS2
22	五輪塔 水輪	全　高：15.8 上面径：17.7 最大径：24.1 下面径：(18.3)	色調：緑灰色 石材：笏谷石 残存率：1/3	上面中央で2cm、下面中央で1cm程浅凹状に凹む。側面に月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内に「バン」の梵字を薬研彫りで配置。	C2/集石墓 SS2
23	五輪塔 水輪	全　高：21.9 上面径：(23.3) 最大径：(31.5) 下面径：(22.7)	色調：青緑色 石材：笏谷石 残存率：1/2	上面中央で3.5cm、下面中央で5cm程浅凹状に凹む。側面に花弁を高め寸月輪、蓮座を浮き彫りし、月輪内に「ア」の梵字を薬研彫りで配置。	C2/集石墓 SS2
24	五輪塔 地輪	全　高：15.5 幅：20.8 奥行き：21.7	色調：灰色 石材：笏谷石 残存率：4/5	上面は平坦。下面は平坦だが仕上げが粗い。タガ不痕が残る。	C2/集石墓 SS2
25	五輪塔 地輪	全　高：12.7 幅：(27.8) 奥行き：－	色調：灰白色 石材：笏谷石 残存率：1/2	上面は平坦。下面は欠損。磨滅。	B2/集石墓 SS2



第44図　石塔（縮尺1/4）



第45図　石塔（縮尺1/4）

第5節　漆　器（図版第22）

SK35の越前焼大甕内から出土した資料がある。赤色地に黒色漆で文様を施した文様部の破片群と、黒色の高台部の資料について塗膜構造分析を行った。

木取りは木胎が遺存しないため、判別不可能だった。高台部には、下地の下に植物繊維の糸で構成される布の断面を認めた。これは漆器の強度を高めるために施された「布着せ」である。下地は文様部、高台部ともに、漆に砥の粉を混和した砥の「粉漆下地」である。文様部は、下地の上に黄褐色を呈する透明漆が二層重なる「二辺地」と呼ばれる製作工程が認められ、木胎の痩せを防ぎ、さらにその上に朱を混和した赤色漆層一層と、松煙を混和した黒色漆一層を重ね、赤色漆には透明度の高い朱、黒色漆層には油煙が含まれる。高台部では下地に上に黒色漆層を塗り、透明漆を二層重ねている。本資料は安価な普及型ではなく、堅牢で上質な漆器であり、残存する漆膜から内外赤色系漆器であり、高台裏のみ黒色系漆の漆器椀と推測する。椀の内側もしくは内外両面には単色の漆絵が存在し、文様は少なくとも6個以上の「横見梅」である。通常の横見梅は、花芯が9本、花の下部に三つ叉の萼（がく）が付き、その下に茎が付き右方へ流れるが、本資料の横見梅の花芯は6～9と統一されておらず、萼は花弁に接しない状態で茎はない。表現は巧緻である。

第6節　人　骨（図版第22）

出土骨については肉眼および実体顕微鏡下での観察と、形態的特徴からの種と部位の同定を行った。

越前焼壺284出土人骨（図版第22）　1～10は白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど焼骨の特徴を示し、ヒトの可能性が高い。1は側頭骨錐体部の可能性がある。2は上・下顎骨、3は歯牙、4は脳頭蓋、5は肋骨、6は肩甲骨の可能性がある破片、7は手根骨（舟状骨）の可能性がある破片、8は上腕骨／大腿骨の骨頭部の可能性がある破片、9は四肢骨、10は肋骨・四肢骨である。他に不明破片も存在する。これらの試料には特徴的な部位が見られず、性別・年齢は不明である。大型の破片がなく、量的にも少ないことから、主要四肢骨や頭蓋などで大型の破片は、改葬の際に分けて納めた可能性があると考える。

SK26出土人骨（図版第22）　11～27の出土骨は焼けておらず、土葬したヒトの骨である。脳頭蓋、下顎骨、頭蓋、歯牙、胸骨、左肩甲骨、鎖骨の可能性がある破片、肋骨・四肢骨、部位不明破片を確認した。11は脳頭蓋の右頭頂骨から後頭骨部分であり、ラムダ縫合が内・外とも閉じておらず、後頭骨隆起が弱く、骨厚も薄い。24は下顎骨で、左右第1・2大臼歯が植立する。17・15左右の上顎犬歯、18は下顎犬歯、16・19は右上下の顎中切歯、14・13は右上顎第1・2小臼歯、12は右上顎第1大臼歯、20は左下顎側切歯、21・22は左下顎第1・2小臼歯、23は下顎第3大臼歯、その他には歯牙片を確認した。左右上顎犬歯と右下顎犬歯にはエナメル質減形成を認める。また大臼歯は咬耗が弱く、象牙質が露出しない。

脳頭蓋を見ると後頭骨隆起が発達せず、歯牙の大きさから女性的であると分析できる。年齢は、第3大臼歯が認められることから成年に達すると考えられ、歯牙の咬耗状況から壮年（20～39歳程度）の可能性が指摘できる。さらに犬歯にエナメル質減形成が認められ、栄養状態が不良であったことも指摘できる。

SK35出土人骨（図版第22）　28は越前焼大甕452内から検出されたヒトの頭蓋片である。年齢・性別などを推定できる特徴が認められず、頭蓋の破片のみで詳細は不明である。四肢骨など主要部位が認められないことから、SK35は改葬墓であった可能性が高い。

第5章　まとめ

第1節　遺構について

古墳群について

古墳は、1～5号墳の5基の古墳を確認した。最古の古墳は4号墳であり、弥生時代後期末から古墳時代初頭の方墳もしくは方形周溝墓と考えられ、竪穴住居SI4･7･9などと大きく時期を隔てないものと考える。1･2･3･5号墳は遺物の様相から5世紀中葉から6世紀中葉にかけて構築したと想定され、立地条件から、5世紀中葉の5号墳構築後に1号墳→2号墳の順で構築されたと考える。3号墳はTK10期の須恵器が出土し、6世紀中頃に構築された群中最後の古墳となる。TK43～209期の須恵器を含むSK6やSK25は墳丘を持たない土坑墓であり、3号墳構築後も当地が古墳時代の墓域であったことを示している。

5号墳は周溝の一部しか確認できなかったが、墳丘全長14m以上、周溝幅4.1m以上を測る円墳と推定する。周溝内で須恵器杯9点、蓋8点、甕1点を検出し、周溝内X008地点出土の杯323にはベンガラが充填され(注1)、周溝内祭祀が執り行われたものと見る。出土した須恵器はTK47期のものであるが、一部MT15期のものも含まれ、古墳完成後も一定期間祭祀が継続されたと見る。ただ、周溝を切って構築した土坑墓SK34に無蓋高杯472が混入しており、472は5号墳に帰属する可能性が高く、5号墳は5世紀中葉まで遡る族長クラスの古墳と考える。

1号墳は墳丘長軸12.5m、周溝幅0.7～1.3mの規模を測る円墳であり、墳頂部の埋葬施設は舟形木棺を直葬したと考える。木棺は全長4.1m、中央幅1.0mを測り、墳丘に対してやや北西寄りに位置するが、他に埋葬施設を構築していた可能性は低い。周溝も浅く、墳丘は盆地に向けた南東側を大きく見せる程度の工法で十分であったのかもしれない。木棺の棺床面からは、鉄刀1点(1)、鉄鉾1点(2)、鉄鏃7本(3～9)、鉄斧1点(10)、鉄鎌1点(11)を検出し、棺内覆土に甕295が混入していた以外、副葬品となる土器類や玉類などは検出できなかった。出土鉄器中、鉄鉾は垂飾付耳飾や陶質土器といった朝鮮系遺物を伴う古墳に共伴する例が多いことが指摘され(文12)、小古墳でありながら、被葬者の出自に半島との関係をうかがうことができる。鉄鉾は鎬造りで古式の特徴を有しているが、鉄鏃は長頸鏃を主体としており、時期は5世紀中葉から後半と考える。

2号墳は墳丘長軸11.3m、周溝幅0.5～0.9m規模を測る円墳であるが、墳丘や埋葬施設などは完全に削られ、直下で弥生時代後期の竪穴住居SI4を検出した。周溝の形状･規模から、墳丘は1号墳とほぼ同規格で構築したと考えられ。周溝内から大型鉄斧1点(17)、包含層から鉄刀1点(2)、鉄斧1点(16)を検出し、これらは2号墳の副葬品であった可能性が高い。大型鉄斧17は野島氏の分類(文21)でⅣ式に属し、5世紀後葉から6世紀前半の年代が与えられている。

3号墳は墳丘長軸15.5m、周溝幅2.1～5.3m規模を測る円墳と推定され、墳頂部の地山を掘削して墓壙を設け、埋葬施設には横穴式石室を採用していた。石室は奥壁と側壁の一部のみ残存しており、本来の規模は玄室長4.5～5.0m、玄室幅2.1～2.5m、羨道を含めた全長は6.5～7.0mと推定する。遺物は石室内からTK10期の須恵器杯片、ヤリガンナ1点(24)を検出し、周溝X003地点から同時期の完形の須恵器杯1点(303)とX004地点から刀子1点(20)を検出した。3号墳構築後、SK2･6･25といった土坑墓が構築され、SK2はTK209～217期、7世紀初頭、SK6はTK43～209期、6世紀末、SK25はTK10～43期、6世紀中～後葉の時期と考える。各土坑墓において木棺の痕跡は確認できず、直葬して須恵器を副葬した可能性があり、古墳時代後期末段階においても半島系の影響が根底にあることがうかがわれる。

集落について

集落については、縄文時代中期中葉の土器を検出したが、縄文時代の生活痕跡は確認できなかった。旧朝日町内の調査例を見ても、縄文時代の遺跡は山裾や緩傾斜面で遺物が発見されたものがほとんどであり、遺構が確認されているのは大城野遺跡(文1)のみである。調査で検出した竪穴住居や掘立柱建物などの集落遺構は、弥生時代後期から古墳時代初頭の時期と、8世紀後半から9世紀前葉の奈良・平安時代の時期の二時期に大別され、前者の遺構はSI4・7・8・9、後者はSI1・5、SB1～3が帰属する。

SI4は、主柱穴を六角形に配置し、壁溝内X001地点出土の土器362・363や柱穴3出土の土器360・361から時期は漆町3・4群と考える。柱穴1-5間にあるP63からはヒスイ製の勾玉1点が出土しており、X001地点の土器も含めて、住居の廃絶儀礼を必要とするような特殊な建物であったと考える。多角形配置柱穴の住居は、福井市林・藤島遺跡において多く検出されており、法仏期の六角形配置の大型住居SI03では玉作りを行い、完形のヒスイ勾玉1点が貼床内から検出されている(文16)。

SI7は3号墳構築によって破壊された古墳時代初頭の住居であり、X002地点出土の壺331は漆町7群の時期と考える。SI1はⅣ2期、9世紀第2四半期の住居であり、住居南辺で入口の柱穴、住居北辺でカマドの痕跡と考えられる張り出しをもつ。SB2と同様に土器集中区SI6と関連をもつ可能性が高いが、SI6の組成は須恵器食膳具と貯蔵具で占められ、煮炊具がほとんど見られない。SI1はカマドの痕跡こそあれ、常時居住を前提とする建物ではなく、作業小屋か一定期間のみ使用することを目的とした建物であり、SK8内の須恵器杯や墨書土器の存在は、そこで何かの儀礼を行っていたと見る余地を残している。

13世紀代の墓域について

平安時代以降、集落は廃絶して当地は墓域となる。SI2は山側をコの字形に掘り下げ、81㎡以上の平坦地を削り出し、礎石立ちの堂が建っていたと考える。SI2の北西側には幅5.0m、深さ0.8mの落ち込みが確認され、調査区西側の墓域に至る参道と見る。SI2内のSK15には土師器皿を極細片に割り砕いて、ブロック状に敷き詰めており、堂の建立、または廃絶に関わる地鎮儀礼の可能性がある。SI2北辺のSK20～22は、13世紀前半代の完形の土師器皿を多く含み、参道入口で行った追善祭祀ではないかと考える。

SI3はSI2と同様な遺構と考え、SK1とSD9が建物施設の区画溝とすれば、SI3に付属する施設が区画溝内に存在していたと想定される。

土坑墓は、長方形土坑墓SK4・34・36が同一規模を測り、SK34・36からSK20と同時期の土師器皿を検出している。土師器皿の埋納法には差異が認められ、SK34は遺体埋葬後に6点の土師器皿を置き、SK36は棺底面に土師器皿を2枚置いた後、遺体を埋葬したようである。類例として、福井市漆谷遺跡(文11)においても13世紀後半から14世紀代の長方形土坑墓を多く検出し、1号墓土坑では銅銭、青磁、数珠玉、7号墓土坑では刀子、漆膜、土坑墓70ではSK36と同様に棺底に2点の土師器皿を検出している。遺物の出土状況や層位断面から、これら長方形土坑墓は木棺を伴わず、屈葬状態で直葬した可能性が高いと見る。SK26は円筒形の小型土坑であり、焼骨でない成人女性の頭骨、鎖骨、胸骨などを検出した。骨の鑑定から生前の栄養状態が不良であることが判明した。埋納容器や副葬品は確認できず、火葬による改葬でない点が異質であり、被葬者は死因や生前に特殊な背景を抱えた人物であったと考える。

15世紀代の墓域について

SK35は浅い方形土坑に15世紀前半の越前焼大甕を倒立して埋納した土坑墓である。大甕は口径74㎝、器高74㎝を測り、肩部に「奉」と格子目文を組みにしたスタンプ文を巡らしていた。胴部中位に漆継ぎで修理した部分が観察でき、日常容器の転用品と考える。大甕内からは焼骨片、歯、古瀬戸香炉、漆

器を検出したが、単純に土坑内に副葬品を置いて大甕を倒立させて被せたのではなく、胴部下位から底部を事前に打ち割り、胴部上位を倒立して据えた後、大甕内部に焼骨や副葬品を納めた状況を呈していた。その後、礫石と打ち割った破片で丁寧に覆ったものと考える。副葬品の量は少ないが、厚葬の部類に属し、村落の有力者、または墓域に関連する僧侶階層の改葬墓ではないかと見る。

集石墓について

墓域の中心部は調査区外にあり、調査区内の集石墓は破壊や改変を受け、原位置を留めているものは存在しなかった。集石墓は、13世紀代の土坑墓群や15世紀前半のSK35の上に堆積した包含層の上面に構築されていることを確認したが、石塔が集中するSS1～3においては関連する遺構は確認できなかった。遺物は集石墓中から13世紀代の越前焼276～280、14～15世紀の壺281、15世紀中頃から後半の壺284を検出しており、284には改葬した複数人の火葬骨が充填されていた。全体的な様相から、墓域は13～14世紀代までは土坑墓を主体とした葬法を採用し、15世紀代から火葬や蔵骨器を用いた葬法を指向しはじめたようである。集石墓は火葬を前提とした集団墓として構築され、造営期は15世紀後半から16世紀代と考える。集石墓中心部の状況は調査区外のため不明だが、おそらく下部遺構は存在せず、別の場所で火葬した骨を散骨したり、蔵骨器に改葬して納める場として、遺体の埋葬地ではなく供養の葬地へと変化していったのではないかと考える。

第2節　遺物について

遺物については、天王前山古墳群の造墓集団を探る上で重要となる角付盌、鉄斧、鉄鉾について考察を加えてみたい。

角付盌（つのつきまり）の副葬について

SK6出土の425は角付盌である。各地の報告例から、須恵質、土師質のものが存在し、底部に脚台が付くものもある。把手付椀、把手付鉢などと呼称される器種であり、体部は似ていても耳状把手が付くものとは明らかに別器種であり、角状把手は当初から装飾を目的として製作したものと考えられ、ここでは「角付盌」と呼称する。角は棒状に外方へ延びるものと、体部下位に接合後、L字状に上方へ反り上がるものがあり、体部左右に付く双角のものもある。33例(注2)が報告され、口径10～15cmを測る小型のものが多く、6世紀後半から7世紀前半の古墳出土例が多くを占める。古墳出土ではないが、大阪府大庭寺遺跡河川56-OR(文5)の6世紀前半の一括廃棄と見られる2点の資料が古い段階のものと考える。体部の形状から、以下の5形式が想定され、高台の有無によってA・Bを付して区分した。

Ⅰ：体部が斜め外方へ直線上または外反して立ち上がる深身のコップ形を呈し、底部は丸底または平底になるもの。

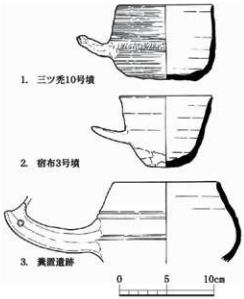
Ⅱ：体部は直線状またはやや内湾して外方へ開くマグカップ形を呈し、底部は丸底または平底になるもの。

Ⅲ：口縁部が内湾して体部が下膨れ気味になるワイングラス形を呈し、底部は丸底または平底になるもの。

Ⅳ：体部は上方へ直線状に立ち上がるU字状の湯飲み形を呈し、底部は丸底になるもの。

Ⅴ：Ⅳの直径が器高を上回る鉢形を呈し、底部は丸底を基本とするもの。

福井県内では、現在3例が報告され、鯖江市三ツ禿10号墳(文8)、福井市宿布3号墳(文27)、同市冀置遺跡(注3)において出土例を確認している。三ツ禿10号墳例はⅤA式であり、口径10.3cm、器高7.9cm、底径6.9cmを測る。体部下位に2条の浅い平行凹線を巡らし、凹線間に崩れた波状文を施している。角は外方へ伸び、先端部を亀頭状に6面に面取りした後、水平に切れ込みを入れて男性器を模した形状を呈す。TK209～217期の北部九州系の横穴式石室から出土している。福井市宿布3号墳例はⅡA式であり、口径9.8cm、器高7.6cmを測る。底部は手持ちヘラ切りで丸底に仕上げ、角は外方へ伸び、先端



第46図　福井県内の角付盌（縮尺1/4）

に加工はない。TK46期の胴張り横穴式石室から出土している。糞置遺跡例は、下膨れの体部中位に2条の平行条線を上下に巡らしている。角は多角形に面取りされ、先端部側面に円孔を1孔設けている。円孔が眼を模したものならば、先端はあたかも亀もしくは龍のような長頸の動物を意匠として製作したようにも見える。形式はⅢA式であり、包含層からTK43期の須恵器杯・蓋・高杯とともに出土している。

天王前山古墳群SK6出土の角付盌425はⅢA式に属するが、体部下位の膨らみは大きくない。時期は共伴する有蓋高杯からTK43～209期と考える。角の先端部を男性器に模して加工している点は、三ツ禿10号墳例と同じであることが注意される。時代は降るが、『続日本紀』延暦十年(791)、『日本紀略』延暦二十年(801)に、男性器を模した陽物と牛肉を水田に捧げる「漢神」祭祀に対して再三禁制が出されている記載があり、外来系の神を奉る信仰が、北陸・中部地方の民衆に広く浸透したことがうかがえ、実際、県内の勝山市志田神田遺跡において川跡から平安時代の陽物形木製品の出土を確認している。渡来系の神が陽物崇拝と結びついている一端を語っているとすれば、角付盌425や三ツ禿10号墳例は、既に6世紀後半から7世紀前半の段階において、造墓集団のムラに陽物祭祀を受容する素地が形成されていたことを想像させる。古墳群を総体的に捉えても、三ツ禿古墳群中3号墳の石室が北部九州系石室であること、宿布3号墳の石室が胴張り形態をとることなど、各地域の角付盌を副葬する古墳には、やはり渡来系の影響が埋葬施設や他の副葬品に反映しているものが顕著である。それらは古墳群中において単発的な導入で終始しているものが多いが、中央の規制を受けていても、地方の中小地域首長、族長層が、半島やその影響を強く受けた地域と交流できる「独自のつながり」は備えていたことを表していると考える。SK25出土の特殊三重蓋もTK10～43期のものであるが、国内では類例が確認できず、蓋を3重に重ねた副葬状況をあらかじめ前提として製作した特注品として製作され、半島に系譜が求められるものではないかと考える。

鉄斧の製作技法について

金田分類(文6)によれば、鉄斧製作にはA・Bの二つの製作技法が考えられ、B技法はさらにⅠ・Ⅱに区分できることが提唱されている。

A技法：袋部と刃部を一体で製作する技法。袋部は密着しにくい。刃部縦断面で最大厚を測るQ点と、袋部を折り返して生ずるハの字接合下端のP点との位置が同一になる。ハの字接合は鍛打で消すのは困難。

B技法：袋部と刃部を別に製作して鍛接する技法。基本的に袋部の接合部は密着可能。

ⅠB技法：A技法の地金と同形状であるが、刃部を別に鍛接し、P・Q点にズレが生じる、ハの字接合が残る。

ⅡB技法：袋部と刃部を完全に個別に製作して接合する技法である。袋部の接合部は密着。

以上の点から出土した鉄斧を観察すると、1号墳棺内出土の鉄斧10はP・Q点にズレがあるが、A・B技法の判別はつけ難い。形状が類似する鉄斧19がB1技法である点や、袋部断面が方形である点を重視すれば、B1技法の可能性が高いと考える。鉄斧17は2号墳周溝出土の全長18.9cmを測る大型鉄斧であり、三重県上野市高猿6号墳に類例が見出せる。接合部が密着し、ハの字接合が顕著でないことからBⅡ

技法による製作と考える。鉄斧18は、他の鉄斧に比べては肩部が張り、P・Q点にズレがあることからＢⅠ技法と見る。鉄斧19も18と同様であり、袋部内刃部端面が平坦であることからＢⅠ技法と考える。

Ｘ線写真では技法の差を捉えることはできなかったが、小型鉄斧10・18・19はＢⅠ技法、大型鉄斧17はＢⅡ技法による製作と考えられ、これらの鉄斧がＢ技法で製作されたとすれば、造墓集団傘下の鍛冶従事者が鍛接という最先端の技術を有していたことになり、鉄器製作においても当地が渡来系の文化を受容できる背景にあったことは想像に難くない。

鉄鉾の副葬について

高田氏の論考(文12)によれば、1号墳棺内から出土した鉄鉾2は鎬式のⅡ式に属すと考えられ、近畿を中心とした古墳に広く鉄鉾が副葬され始める時期にあたる。鉄鉾2の刃部は斬り払う剣形を呈しており、Ⅱ式でも古い形式を留め、Ⅰ－Ⅱ式間の境を5世紀中葉に想定している高田氏の編年観は、他の棺内出土鉄器の時期と矛盾しない。ただ、鉄鉾が他の鉄器と一線を画すのは、古墳時代中期の鉄器多量副葬古墳を見ても鉄鉾はわずかな割合しか副葬されず、殺傷用具としての有用性を期待されない武器ゆえ、「対人用」ではない「僻邪」を目的として副葬されたと指摘されている点である(文12)。

鉄鉾が出土した古墳には、和歌山県大谷古墳、大阪府高井田山古墳、京都府奈良岡北1号墳、兵庫県宮山古墳、同県カンス塚古墳など、いずれも希少性の高い朝鮮半島系の文物を共伴する著名な古墳が際立ち、高田氏は半島系の垂飾付耳飾をもつ古墳42基中19基が鉄鉾を共伴している事実を重視している。

県内の鉄鉾をもつ古墳を概観すると、嶺北地方では福井市天神山7号墳(円墳:径52m)において割竹形木棺内から金製垂飾付耳飾1点と鉄鉾3本が出土し、福井市宝石山古墳(円墳:径20m)からは舟形石棺棺外から鉄鉾8本以上が出土している。嶺南地方では、高浜町二子山3号墳(前方後円墳:全長26m)で北部九州系横穴式石室から鉄鉾1本が出土し、高浜町行峠古墳(前方後円墳:全長34m)で畿内型横穴式石室から鉄鉾1本が出土している。若狭町向山1号墳(前方後円墳:全長48.6m)では北部九州系横穴式石室からTK208期の須恵器と金製垂飾付耳飾1点に伴って鉄鉾3本が出土している。若狭町西塚古墳(前方後円墳:全長74m)は竪穴系横口式石室と考えられ、半島系の遺物を豊富に含み、金製垂飾付耳飾2点と共に若干数の鉄鉾の存在が確認されている。越前に比べて若狭地方の大・中首長クラスの古墳の方が半島系文物の導入に積極的な動向を示している。特殊な例としては、越前市茶臼山古墳群中の馬塚2号墳(円墳:径8.4m)(文7)があげられ、SK25と時期・形態が類似する土坑墓からTK43期の須恵器に伴い鉄鉾1点、石突1点を検出しており、6世紀後葉の段階においても、鉄刀や鉄鏃では代替できない鉄鉾の価値が族長層まで依然浸透していることが読み取れる。

第３節　南越盆地の中期古墳

南越盆地における大型古墳を概観すると、朝日山古墳群中の経ヶ塚古墳(前方後円墳:全長74m)が前期古墳として最大規模を測り、朝日山1号墳(前方後円墳:全長54m)は中期初頭の古墳と想定されている。鯖江市兜山古墳(円墳:65m)が2段築成の5世紀代の古墳として考えられ、規模に限れば、福井平野以外の地方では大首長墓に相当するが、段築・葺石・埴輪などの外部施設が整っていないことや、盆地を基盤としながらも福井平野から隔絶されていないという地理的条件から、被葬者は永平寺・松岡古墳群を築いた福井平野の大首長墓の傘下にあったと考えられ、突出した要素を見出せないできた(文17・18)。

近年になって、鯖江市教育委員会の調査により、鯖江市兜山古墳(円墳:65m)に近接した兜山北古墳(帆立貝古墳:全長23.7m)(文25)が葺石をもち、MT15期の須恵器が確認され、先行して構築された兜山古墳が5世紀代の古墳であることがほぼ確実視されるようになり、鯖江市今北山古墳(前方後円墳:

全長75m）も水平寺町手繰ヶ城古墳に先行する4世紀前半の古墳であることが報告(文9)されるなど、南越盆地の古墳の様相を具体的につかむ資料が蓄積されつつある。中でも越前町が平成21年度から継続調査をしている番城谷山5号墳(文23･24)は、南越盆地を一望する標高約150mの尾根に築かれた全長約55mの帆立貝形古墳、もしくは全長38mの円墳であることが想定され、葺石・埴輪を備え、墳頂部には2基の木棺が存在することが確認されている。遺物は墳丘裾から5世紀中葉の円筒埴輪や5世紀前葉から中葉の陶質土器の甕、杯蓋3、杯4、高杯9、壺2、把手付鉢1、器台1が確認されており、少なくとも北陸においてこれだけの初期須恵器をもつ古墳は前例がなく、正報告が待たれる。

天王前山古墳群の5･1･2号墳は、番城谷山5号墳を盟主墓とした族長墓の可能性も秘めており、その遺物は渡来系文化の影響を多分に受けていることが確認できた。特に1号墳の被葬者は、「鉾の副葬」という形で半島とのつながりを体現できた、有力な構成員であったと考えられる。3号墳構築以降も造墓集団のムラに渡来系文化の影響が根強く認められ、従来、墳丘規模でしか比較できなかった南越盆地の中期古墳について造墓意識の基底に渡来系文化が浸透していることを明らかにすることができた。

注

1. ベンガラ入り須恵器杯は、三重県谷山古墳、群馬県下谷古墳群1号墳などで報告され、福岡県梅頭窯跡では墓に転用した窯体からの出土例が報告されている。兵庫県西神第9地点ではベンガラ入り須恵器壺が確認されている。近畿の石川県寺井山3号墳(文28)ではベンガラ入り須恵器杯に貝殻3点が伴っていた。兵庫県の太市中4号墳、見野長塚古墳にも類例が見られ、ベンガラと貝殻に特別な意味を付与している点がある。
2. 文献10以外に以下13例を確認した。石川県寺井山3号墳、同県下開発茶臼山古墳群西支群12号墳　同県大根布砂丘、東京都柴又八幡神社古墳、大阪城下町遺跡92･1･93･7包含層、大阪府一須賀Ⅰ･4号墳･Ⅰ･5号墳、大阪府大庭寺遺跡河川(56-OR)岸辺A群、兵庫県平松片山古墳、和歌山県船戸山6号墳、山口県多々良寺山古墳群、福岡県栗田谷2号墳。
3. 文献4の写真・表の上河北遺跡出土の記載は誤りである。昭和48･49年度に平安京調査会が担当した養鶴遺跡の包含層出土遺物である。当時の諸事情により未公表となっている遺物が多い。

参考文献

1. 朝日町誌編纂委員会編『朝日町史』通史編　朝日町役場　2003年
2. 赤澤徳明編『大塩向山遺跡　山腰遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第96集　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　2007年
3. 入江文敏『若狭・越古墳時代の研究』学生社　2011年
4. 石川県立郷土資料館『須恵器』1981年
5. 岡戸哲紀編『陶邑・大庭寺遺跡Ⅵ』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第10集　大阪府教育委員会　財団法人大阪府文化財調査研究センター　1996年
6. 金田善敬「有袋鉄斧の製作技法の検討」『古代吉備』17集　古代吉備研究会　1995年
7. 斉藤秀一編『茶臼山古墳群』武生市埋蔵文化財調査報告21　福井県武生市教育委員会　2001年
8. 斉藤優『越前鯖江市天神山古墳群』鯖江市教育委員会　1973年
9. 鯖江市教育委員会文化課『今北山古墳の発掘調査成果について』鯖江市教育委員会　2014年
10. 柴垣勇夫『装飾須恵器の特徴とその分布』『秋期特別企画展　古代の造形美　装飾須恵器展』　愛知県陶磁資料館　1995年
11. 鈴木施英『唐谷遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第31集　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　2008年
12. 高田貴太「古墳副葬鉄鉾の性格」『考古学雑誌』第45巻1号　1998年
13. 田嶋明人「唐町遺跡出土土器の編年的考察」「唐町遺跡Ⅰ」　石川県教育委員会　1986年
14. 田嶋明人「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題(報告編)』1988年
15. 田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981年
16. 冨山正明編『林・藤島遺跡泉田地区』福井県埋蔵文化財調査報告第106集　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　2009年
17. 中司照世「北陸」『古墳時代の研究』11地域の古墳Ⅱ東日本　石野博信他編　雄山閣　1990年
18. 中司照世「日本海中部の古墳文化」『新版古代の日本』第7巻　中部　小林達雄・原秀三郎編　角川書店　1993年
19. 中野咲「2　近畿地域・韓式系土器集成」『渡来遺物から見た古代日韓交流の考古学的研究』和田晴吾編　2007年
20. 仁科章　木下哲夫「柳川遺跡」『福井県史』資料編13考古－本文編－　福井県　1986年
21. 野島永「有刃鉄斧からみた古墳時代の鉄器生産」『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣　2009年
22. 福井県教育委員会『福井県遺跡地図』福井県　1993年
23. 堀大介「番城谷山5号墳」『第29回福井県発掘調査報告会資料』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　2014年
24. 堀大介「第二節　海を渡った陶質土器」『海は語る』越前町教育委員会　2013年
25. 前田清彦編『兜山北古墳・鞍若寺跡』鯖江市埋蔵文化財調査報告第3集　福井県鯖江市教育委員会　2001年
26. 御猿貴義「朝日町域の首長墳系列について」『朝日町文化財調査報告書Ⅰ』朝日町文化財調査報告書第1集　朝日町　2001年
27. 山田邦和「北陸地方の須恵器－宿布古墳群出土須恵器の検討を通じて－」『福井市宿布古墳群』川西宏幸編　福井県教育委員会　財団法人古代学協会　1985年
28. 望月精司編『額見町遺跡』Ⅰ～Ⅳ串・額見地区産業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1～5　小松市教育委員会　2006～2010年
29. 吉岡康暢「第3節三道山南尾根の古墳」『加賀能美古墳群』吉岡康暢・河村好光編　石川県寺井町・寺井町教育委員会　1997年

写　真　図　版

(1) 1号墳墳丘（南西から）

(2) 1号墳埋葬施設副葬品出土状況（南東から）

(1) 1号墳埋葬施設副葬品出土状況（南西から）

(2) 1号墳埋葬施設（南西から）

(3) 1号墳埋葬施設出土鉄刀1 （南東から）

(4) 1号墳埋葬施設出土鉄器類（北西から）

(5) 1号墳埋葬施設出土鉄鉾2 （北から）

(1) 2号墳周溝（北から）

(2) 2号墳周溝出土鉄斧17（東から）

(1) 3号墳墳丘（南から）(2) 3号墳墳丘（北から）(3) 3号墳墳丘（南東から）(4) 3号墳埋葬施設石室奥壁（南から）
(5) 3号墳墳丘上SI7-X002（土師器壺331）（北西から）

(1) 4号墳周溝（西から）

(2) 5号墳周溝（南西から）　(3) 5号墳周溝内出土X007（須恵器杯315・316）（東から）
(4) 5号墳周溝内出土X008（須恵器杯322～325）（西から）

図版第六　遺構　竪穴住居　土坑

(1) SI1（南から）

(2) SK8（南から）

図版第七　遺構　堂跡　土坑

(1) SI2（南東から）

(2) SK20･21（南から）

図版第八　遺　構　竪穴住居

(1) SI4（南西から）

(2) SI4（北から）

(3) P50上面出土鉄斧18（東から）
(4) SI5床面焼土断面（南から）

図版第九　遺構　竪穴住居　土坑墓　土坑

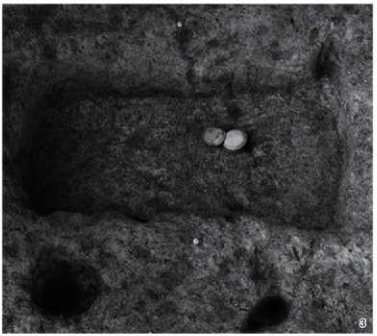
(1) SI5（東から）

(2) SK1（南から）

(3) SK2（南から）　(4) SK6（北から）

図版第一〇　遺構　土坑墓　土坑

(1) SK4（南西から）



(3) SK36（東から）

(2) SK25（南西から）

(4) SK34（東から）

(5) SK26（東から）

(6) P110（南から）

(1) SK35（東から）　(2) SK35（西から）　(3) SK35完掘（東から）

(4) SK27（西から）

(5) SK30（西から）

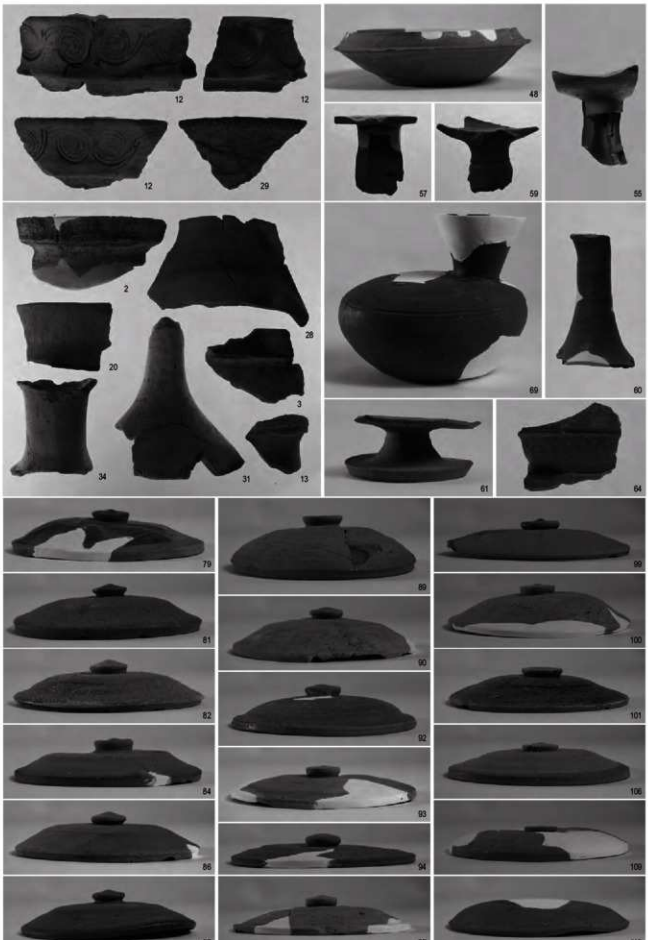
図版第一二　遺構　集石墓

(1) 集石墓（南から）

(2) 集石墓除去後（南から）

(3) SS1（東から）　(4) SS2（東から）　(5) SS2（南から）　(6) SS3（東から）

図版第一三　遺物　包含層出土土器

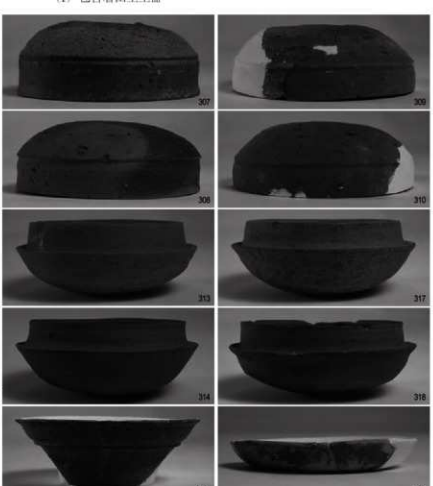


図版第一四　遺物　包含層出土土器

図版第一五　遺物　包含層出土土器　遺構出土土器

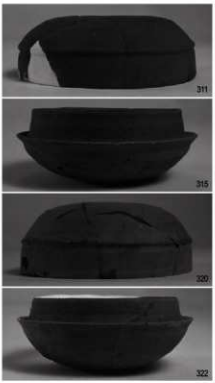
(1) 包含層出土土器

(2) 3･4号墳出土土器



(3) 5号墳出土土器

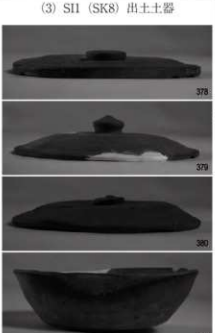
図版第一六　遺物　遺構出土土器



(1) 5号墳出土土器

(2) SI7出土土器

(3) SI1 (SK8) 出土土器



(4) SI6出土土器

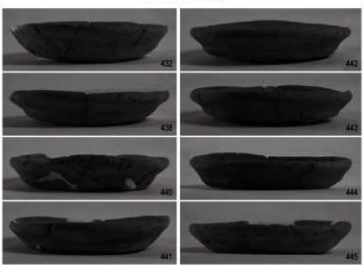
(4) SI6出土土器

図版第一七　遺物　遺構出土土器

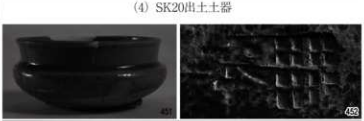
(1) SI6出土土器

(1) SI8出土土器

(3) SK6出土土器

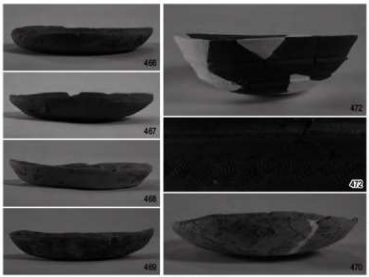


(4) SK20出土土器



(5) SK35出土土器

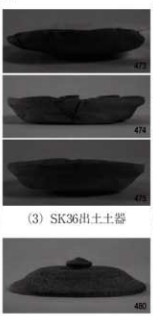
図版第一八　遺物　遺構出土土器　墨書土器　縄文土器



(1) SK34出土土器

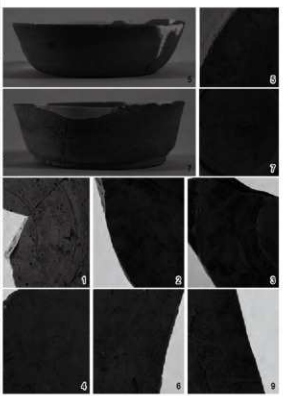
(6) SS3出土土土器

(2) SK25出土土器

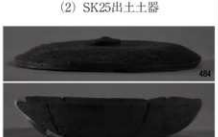


(3) SK36出土土器

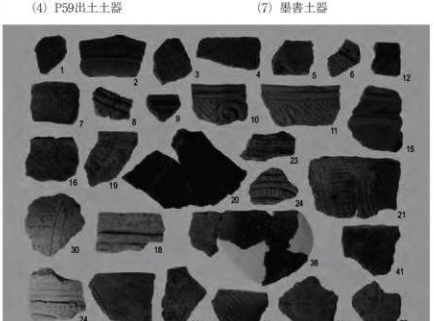
(4) P59出土土器



(7) 墨書土器

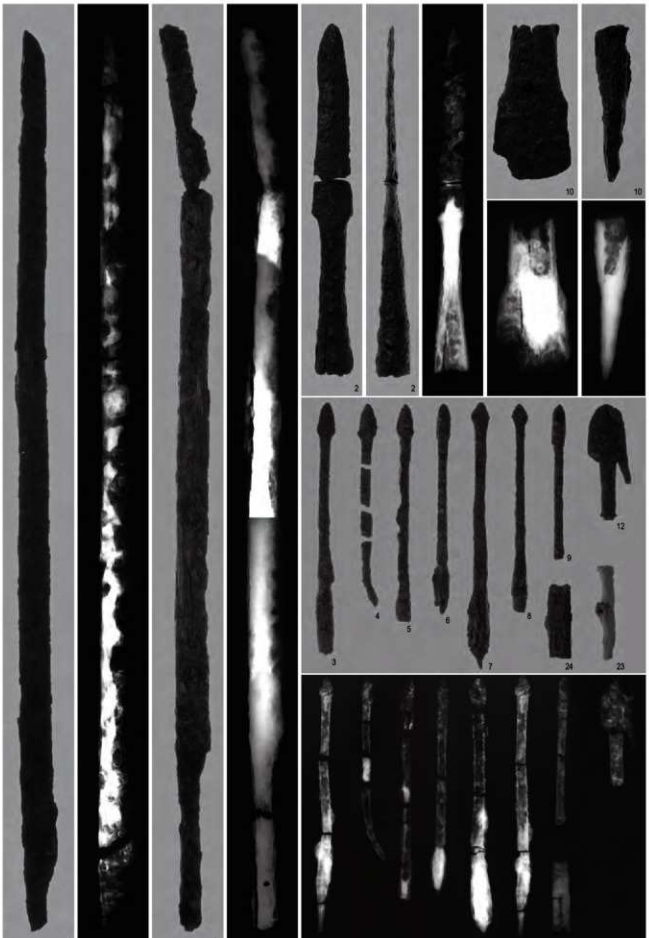


(5) P110、SD6出土土器

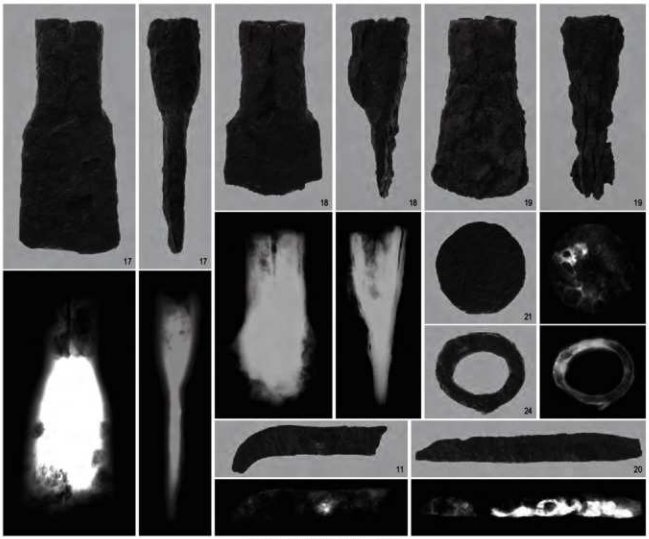


(8) 縄文土器

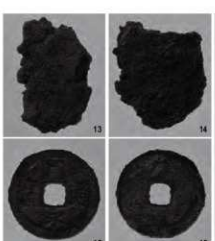
図版第一九　遺物　鉄器



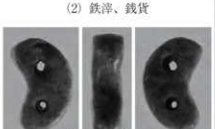
図版第二〇　遺物　鉄器　鉄滓　銭貨　耳環　石器　石製品



(1) 1～3号墳出土鉄器、耳環



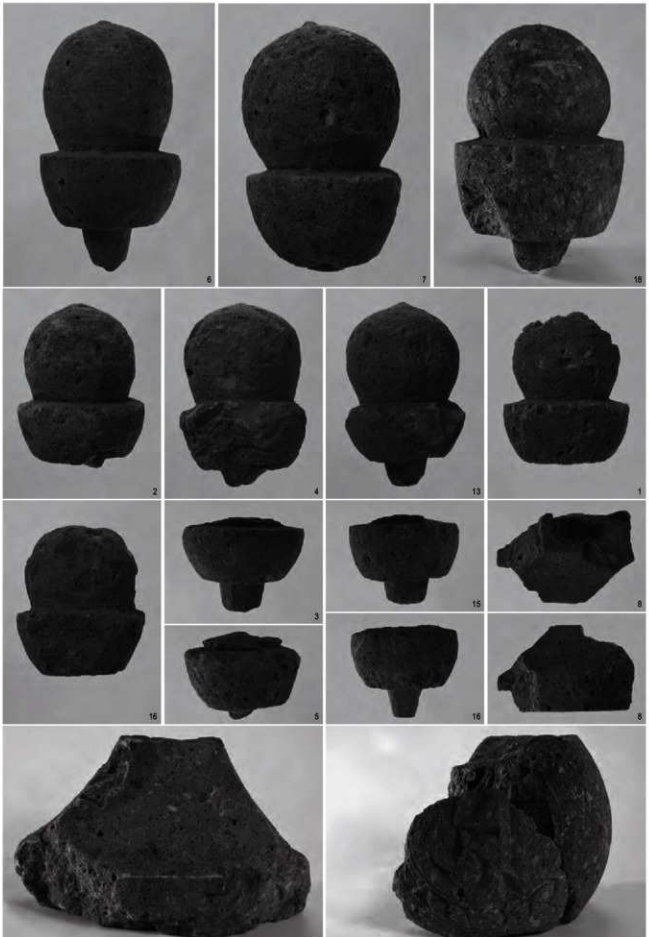
(2) 鉄滓、銭貨



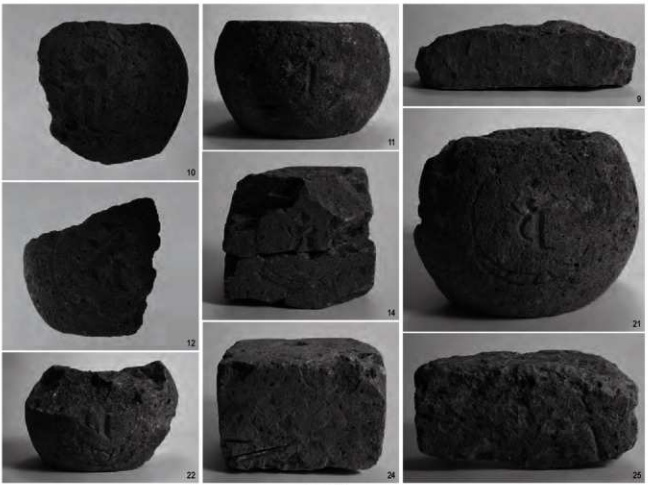
(3) 勾玉

(4) 石器、石製品、その他の遺物

図版第二一　遺物　石塔

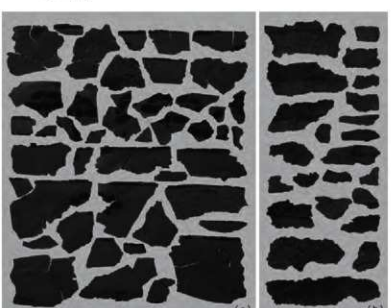


図版第二二　遺物　石塔　漆器　人骨　種子

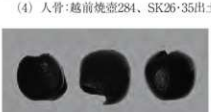


(1) 石塔

(4) 人骨:越前焼壺284、SK26·35出土人骨



(2) 漆器:SK35出土漆器文様部(a)、高台部(b)



(5) SK35出土種子

(3) 漆器:SK35出土漆器文様部断面(a)、高台部断面(b)

報告書抄録

ふりがな	てんのうまえやまこふんぐん
書名	天王前山古墳群
副書名	
巻次	
シリーズ名	福井県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第158集
編著者名	鈴木篤英　冨山正明　山本孝一　杉田曜
編集機関	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所在地	〒910－2152　福井県福井市安波賀町4－10　　TEL　0776－41－3644
発行年月日	西暦2015年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
天王前山古墳群 （てんのうまえやま こふんぐん）	福井県丹生郡越前町（えちぜんちょう）天王（てんのう）・宝泉寺（ほうせんじ）	18205	05086	36度 0分 9秒	136度 30分 33秒	20110801～ 20111130	2,360	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天王前山古墳群	集落	縄文時代中期中葉		縄文土器	縄文時代中期中葉
	集落	弥生時代後期末～古墳時代初頭	竪穴住居　4軒	弥生土器・勾玉・石器	SI4は六角形配置の主柱穴
	古墳	古墳時代中期～後期	古　墳　5基	須恵器・鉄器	1号墳木棺内から鉄器
		古墳時代後期	土坑墓　3基	須恵器	SK25から特殊三重蓋
	集落	奈良・平安時代	竪穴住居　2軒	須恵器・土師器・墨書土器 土錘	SI1は8世紀後半～9世紀前半
			掘立柱建物　3棟		
	墓域	中世 13世紀前半～中頃	堂　跡　2基	土師器皿	SI2は参道をもつ堂跡
			土坑墓　3基	土師器皿	SK34・36は土師皿を副葬
		中世　15世紀前半	土坑墓　1基	越前焼・古瀬戸香炉 漆器椀・人骨	SK35は越前焼大甕を埋納

要約

天王前山古墳群は、越前町天王・宝泉寺集落の西側に位置し、南越盆地を東側に眺望する標高31～36m、比高14mを測る山林中腹斜面に立地している。主な遺構は、古墳5基（1～5号墳）、竪穴住居6棟（SI1・4・5・7・8・9）、堂跡（SI2・3）、土器集中区（SI6）、掘立柱建物3棟（SB1～3）、土坑・土坑墓37基（SK1～37）である。

1号墳は、長軸13.0m、短軸推定11.2mの円墳であり、埋葬施設は舟形木棺と推定する。棺内に鉄器（鉄刀1点、鉄鉾1点、鉄鏃7点、鉄斧1点、鉄鎌1点）を副葬し、時期は5世紀後半と考える。2号墳は、長軸11.3m、短軸推定9.7mの円墳と推定され、周溝から鉄斧1点、墳丘が存在していた地点の包含層から鉄刀1点、鉄斧1点を検出した。3号墳は、径18m以上の円墳と推定され、墳頂部の墓坑の中に横穴式石室の奥壁と側壁基底石の一部が残っていた。周溝と石室内からTK10期の須恵器杯を検出している。4号墳は弥生時代末の方墳または方形周溝墓と考える。5号墳は周溝のみを確認し、TK23～47期の須恵器の杯、杯蓋を検出した。杯にベンガラを充填しているものもあった。

古墳群の本来の地形は、天王川沿いに台地状に東側へ展開していた可能性が高く、縄文時代中期中葉から生業活動が始まり、弥生時代後期末～古墳時代前期の段階で小規模な集落を築いたようである。その後、5世紀中頃から6世紀中頃にかけて5号墳、1号墳、2号墳、3号墳の順で古墳群が形成されたと考える。

奈良・平安時代の遺構としては、SI1や土器集中区SI6があり、大量の須恵器については儀式的な用途を想定する。集石墓は15世紀後半～16世紀以降のものであるが、下層で検出したSK34～36やSI2の存在から、13～15世紀前半の時期においても、当地を墓域として利用していたことが明らかになった。

福井県埋蔵文化財調査報告　第158集

天 王 前 山 古 墳 群

— （県単）道路改良工事(地方特定)に伴う調査 —

平 成 27 年 3 月 13 日　印刷
平 成 27 年 3 月 20 日　発行

発行　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒910－2152　福井市安波賀町4－10
印刷　株式会社エクシート
〒919－0482　坂井市春江町中庄61－32